

地山、岩石を小起因物とする死亡災害事例（1999-2021年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	業種 (小)	事 故 の 型	労働 者規 模
2021	1	14 ～ 16	橋の耐震補強工事のため、橋脚の根本から1.5m×5.3m×深さ4.1mほど90度に掘削してから土留め支保工を設置する作業を行っていた。被災者2名が掘削箇所に入り、ドラグ・ショベル（移動式クレーン仕様）で鋼矢板を吊り順次設置していたが8枚目を設置しようとした際に、仮設置した7枚の鋼矢板とともに地山が崩れた。被災者2名は鋼矢板が設置されていない場所にいたため土砂に飲み込まれたもの。	30105	5	10～ 29
2021	1	14 ～ 16	橋の耐震補強工事のため、橋脚の根本から1.5m×5.3m×深さ4.1mほど90度に掘削してから土留め支保工を設置する作業を行っていた。被災者2名が掘削箇所に入り、ドラグ・ショベル（移動式クレーン仕様）で鋼矢板を吊り順次設置していたが8枚目を設置しようとした際に、仮設置した7枚の鋼矢板とともに地山が崩れた。被災者2名は鋼矢板が設置されていない場所にいたため土砂に飲み込まれたもの。	30105	5	1000 ～ 9999
2021	1	10 ～ 12	浄化槽埋設のため地山を掘削し、ドラグ・ショベルでコの字型に3面を土止め用鋼矢板の打設をしたが、1面の鋼矢板が前に傾いてきたので、明り堀坑内で2名で一旦鋼矢板を外し、スコップで地ならしを行っていたところ、鋼矢板を外した地山が崩壊し、1人が膝まで、1人が背面から全身生き埋めになり、13分後に顔、37分後に全身を出して救出したが、外傷性窒息で死亡した。腹起し、切梁は未設置であった。	30199	5	10～ 29
		14	豪雨により崩落した林道の復旧工事にて、法面でロープ高所作業を行っていた被災者2名に崩落した地山の一部が落下したもの。災害発生時、被災者2名はロープ高所作業により法面の整形（軟岩破碎）を行ってい			10～

2021	2	～ 16	た。被災者らの上方に位置する地山の一部分が崩落し、崩落した土砂や岩が被災者らに落下して負傷した。1名はその後、搬送先の病院で死亡した。	30199	4	29
2021	3	～ 14	土地区画整備工事に伴う上水及び下水管取り出し作業において、被災者は、下水管の埋設位置を確認するため、ドラグ・ショベルで掘削した掘削溝内（深さ4.5m）に立ち入り、スコップで下水管上部の土砂を取り除いた後、地上に上がろうとしたところ、掘削面の土砂が崩落し、生き埋めとなり、救急隊に救助されたものの窒息により死亡したものの。	30110	5	1～9
2021	3	～ 14	下水道管布設工事において、被災者が掘削された深さ約3mの溝内で、土止め支保工の組立て作業（軽量鋼矢板の押さえ、腹おこし材の受け取り）に従事していたところ、側壁が崩壊し生き埋めとなったものの。	30110	5	1～9
2021	6	～ 10	集水枿を設置するため、地盤面から2.1m床掘りした後、被災者ほか1名で土止め壁を設置していたところ、土止め壁が設置されていない掘削面から埋設物となっていたコンクリート殻が落下し、被災者を直撃したものの。	30199	4	10～ 29
2021	6	～ 14	山林斜面の植林のため、下草刈作業を請け負っていた事業場に所属する被災労働者が、当日、一人親方ら2名と刈払機を用いて、早朝から下草刈作業に従事していたところ、正午頃、斜面で倒れている被災労働者を共に作業を行っていた一人親方が発見したものの。発見時、意識はあったものの、山岳救助隊到着時には心肺停止の状態であった。	60201	2	1～9
2021	6	～ 16	山の斜面において、被災者が樹木の片付け作業を行っていたところ、上方から転がり落ちてきた石に激突されたものの。病院へ搬送されたが、死亡した。	30106	5	10～ 29
2021	7	～ 12	崩壊道路の復旧工事において、地山の掘削を行った後、浮石を取り除き責任者が確認した後、作業員2名で測量を開始した。しかし被災者の後方の法面が湧水や既設の石積ブロック壁が原因となり結果、取り残しがあり、掘削上部から岩石が落下して転がり、被災者の腰部に当たり骨盤	170209	4	10～ 29

			部を骨折した。当初は命に別状はなく治療を継続していたが、被災者の既往症もあり症状が悪化、ガス壊疽により死亡した。			
2021	8	12 ～ 14	高速道路拡幅工事の土砂仮置場において、40 t ダンプ車が降ろした土砂をドラグ・ショベルで10 t ダンプ車に積込む作業を行っていた被災者が、昼休憩後より確認できなくなったのち、40 t ダンプが2回斜面に土砂を降ろし、別の労働者がドラグ・ショベルで10 t ダンプ車に積込作業を行っていたところ、土砂の中に埋もれている被災者が発見されたもの。	30106	4	1～9
2021	8	20 ～ 22	店舗新築工事現場において、敷地内の污水配管の敷設のため、深さ1.695メートルまでドラグ・ショベルにより溝掘削を行っていたところ、溝掘削内の片側の法面が崩壊し、溝掘削内に入っていた被災者が土砂に埋まったもの。	30201	5	1～9
2021	9	8 ～ 10	送水管敷設のため、幅約2.5m、深さ約3.5mに掘削した導水溝にドラグショベルを用いて鋼矢板の建て込み作業を行っていた。被災者が導水溝内に入り鋼矢板を側壁に当てて抑えていたところ反対側の側壁が崩壊し、被災者は腰付近まで土砂に埋まった。被災者は救出され救急搬送されたが、搬送先の病院で死亡が確認された。	30110	5	1～9
2021	9	16 ～ 18	伐倒木の選木作業を行っていた被災者が時間になっても集合場所に現れなかったため搜索したところ、沢で倒れている状態で発見されたもの。被災者の担当していたエリアの一部がシダに覆われた崖になっている箇所があり、被災者の発見された場所はこの真下の沢であった。	60209	1	10～ 29
2021	9	12 ～ 14	太陽光発電設備設置工事において、敷地内の冠水を防ぐための排水管取り付け作業を行っていたところ、排水管を敷設するために掘削していた溝（掘削深さ3.5m、溝上部の幅、2.5m、計画上の溝底部幅0.8m。）の側面土砂が崩壊し、その時、溝の底部を均す作業を行っていた被災者が生き埋めとなり、その後死亡が確認されたもの。	30301	5	1～9
			マンホール2か所間に雨水排水管（塩ビ管）を新設するため、ドラグショベルを用いて表面のアスファルト舗装を剥がし、幅約0.7メートル			

2021	10	10 ～ 12	ル、奥行約5.1メートルの範囲を深さ約1.95メートルまで掘削勾配90度で溝掘削した後、溝内に入り、雨水排水管をマンホール側面の穴に挿し込み、マンホールと雨水排水管の接続部分を確認していたところ、片側の掘削面が全面的に崩壊し、崩れたアスファルト片等が被災者に激突したものの。	30201	5	10～ 29
2021	10	18 ～ 20	トンネル新設工事の現場において、斜坑（高さ約6.5m、幅約6m）のずい道掘削作業中、斜坑入口から70m地点の発破後、作業員が切羽まで近づき発破に使った爆薬に不発が無かったかの確認を行っていたところ、切羽左側上部が肌落ちし、その下敷きとなったもの。	30102	5	50～ 99
2021	11	12 ～ 14	鉄骨造、地上9階建の商業ビル新築現場（請負約6億）で発生。被災者は、車両系建設機械で掘削した深さ2.28メートルの根切り床で、しゃがんだ姿勢で山留めの横矢板壁を寸法測定中、背後の地山が突然崩れ、床面に尻をついた体勢で胸の高さまで土砂に埋もれ、15時頃搬送先病院で死亡を確認した。崩壊箇所は基礎工のため掘り下げ中の掘削面で、当該作業の車両系建設機械が離れた合間に、被災者が掘削面に近づき作業していた。	30201	5	10～ 29
2021	12	10 ～ 12	水路補修工事において、地中の管の撤去のために約1.6メートル掘削した底で被災者が作業をしていたところ、側面の土壁が、幅：約5メートル、高さ：約1.6メートル、奥行：約0.2メートルにわたって崩壊し、足の膝付近まで埋まり、土砂で体が押されて胸部が管に激突したものの。	30199	5	1～9
2021	12	16 ～ 18	山林内において、労働者1名がドラグショベルを運転して地山を掘削、整地しながら、作業道を設ける作業を行っていたところ、ドラグショベルが位置していた箇所の地山が崩壊し、労働者がドラグショベルと共に約20メートル下の場所に転落したものの。労働者はドラグショベルから約4メートルの位置で倒れているのを発見された。のちに死亡。	60201	1	10～ 29
			被災者は、牧場敷地内にて水道管を新設するために機械掘削（ドラグ・ショベル）で掘削した側溝（幅70cm、深さ1m35cm、長さ32			

2021	12	16 ～ 18	m 3 0 c m、土留めなし) 内に立ち入って作業を行っていたところ、崩壊した土砂に巻き込まれ、搬送先の病院にて翌日、死亡が確認されたもの。被災者は、当時、一人作業であり、発見された時は、被災者の胸から下が土砂に埋もれて意識がない状態であった。	70101	5	30～ 49
2020	1	8 ～ 10	住宅造成工事現場において、被災者は地山を掘削した後の法面（高さ約5 m）の下で、当該法面の手前に擁壁を設置するためにブロックを積み上げる作業をしていたところ、法面が崩壊し、被災者が土砂に埋まり死亡したものの。	30109	5	1～9
2020	2	14 ～ 16	被災者は、幅1. 1 m、深さ3. 5 mに掘削した掘削床で下水道管の埋設作業を行っていたところ、掘削面が崩壊し、崩れた土砂に埋もれ死亡したものの。	30110	5	1～9
2020	3	10 ～ 12	ケーブルクレーン用バックステーアンカー支圧版設置部の掘削が完了し、掘削後の斜面にこぼれた土砂の清掃作業をコンプレッサーに接続されたエアホースで行っていたところ、被災者が作業を行っていた箇所上方の岩盤が長さ4. 5 m、幅3. 5 mにわたり崩落し、当該岩盤の上部にあった岩石（約1 m×1 m、厚さ約6 0 c m）の下敷きとなったものの。	30104	5	1～9
2020	3	10 ～ 12	道路改良工事において、矢板を打ち込んでいたが石にあたったため、矢板の打ち込みができなくなり、石を確認するために矢板周辺の土砂をドラグ・ショベルで約3 m掘削し、現場監督が写真撮影をするため掘削した穴に入ったところ周辺の土砂が崩れ落ち、生き埋めになり死亡したものの。	30106	5	1～9
2020	3	16 ～ 18	立木の枝打ち作業において、枝を吊り伐りするために地上からロープを引いていた被災者が、伐った枝が落下する重さで身体を約5 m前方まで引っ張られ、地面に頭部を強打したものの。被災者は、症状固定のないまま、後日入院先の病院で死亡した。	60201	3	1～9
		12	事業場敷地内の法面（勾配4 3°）において除草剤を散布していたとこ			30～

2020	3	～ 14	ろ、何らかの原因で転落し、死亡しているのが発見されたもの。	130201	1	49
2020	4	10 ～ 12	伐倒木等のずり出し作業のため、被災者は伐倒木等へのワイヤロープ掛け等を斜面上で担当していたが、作業場所から退避した後、斜面下部の平面上で機械作業を行っていた作業員から被災者の姿が見えなくなり、かつ、呼びかけにも応じなかったため、作業員が斜面を上り被災者の所在を確認したところ、被災者は斜面上に設けられた退避場所で吐血して倒れていた。	60209	1	1～9
2020	4	8 ～ 10	下水道管を埋設する工事。950mm（幅）×4000mm（奥行）×1700mm（深さ）をドラグショベルで掘削した箇所で、作業員2名が土止め支保工の腹起し部材を取り付ける作業をしていたところ、背後の地山が500mm（幅）×4000mm（奥行）×1700mm（深さ）に亘って崩壊し、1名が崩壊した土砂と腹起し部材との間に挟まれて死亡した。	30110	5	10～ 29
2020	4	18 ～ 20	工場内の雑排水処理用の配管設置作業において、ドラグショベルで掘削（幅1.4m長さ19.4m深さ約2.7m）後、被災者を含む2名が掘削面の下方で配管設置作業を行っていたところ、東壁面の地山（高さ2.5m×長さ2.45m×幅1.2m）が倒壊し、被災者が土砂の下敷きとなったもの。なお、もう一人の作業員は脇腹から下が埋まったが無事であった。	30110	5	1～9
2020	5	10 ～ 12	碎石破砕プラントで作業を行っていた労働者が、当該プラントから500m程離れている採石場において、被災者が運転していた重機の動きが止まっていたこと、重機付近の採石場の法面が崩れていたことを確認したため、事務所にいた工場長へ連絡した。連絡を受けた工場長が、徒歩で採石場に向かったところ、重機のキャビンが多数の岩石に押しつぶされていた状況を確認したものの。	20201	5	1～9
		10	被災者は、地山の崩壊調査のため、山林の中腹から下方に向かって斜面を下っていたところ、足を滑らせて約30m滑落し、意識がなく頭から			30～

2020	5	～ 12	血を流した状態で砂防堰堤上に横たわった状態で発見されたが、その後、搬送された病院で死亡が確認されたもの。	170209	1	49
2020	6	～ 14	山林の測量のため労働者4名で山中に入り、午前中の測量を終えて移動。正午前に次の測量対象の山林に到達したので、昼休憩。13時前に1回目か2回目の測量を実施後、再度移動を開始したところ、被災者が滑落。同僚が、被災者を捜索したところ、最後に被災者を見た箇所から約50m下の枯れ沢で被災者を発見。発見時被災者は、脈はあったが、意識不明。レスキュー隊による救助後病院へ搬送されたが、同日死亡が確認されたもの。	60201	1	10～ 29
2020	6	～ 12	被災者が、磯（高さ5m程度）にて、釣り番組の取材のため釣り人がイシダイを釣り上げている状態を撮影し、撮影場所を変更するため移動していたところ、バランスを崩し墜落した。	100101	1	1～9
2020	8	～ 18	法面保護工事に伴う落雪等防止用擁壁工の築造工事において、被災者が現場横の斜面にある湧水管を確認しようと斜面に登る途中で足を滑らせ、転落した。	30199	1	1～9
2020	8	～ 16	造園事業者が山林で下草刈りの作業を行っていたところ、現場に倒れている被災者を一緒に作業していた事業主が発見し、その後、病院に搬送されたが死亡が確認されたもの。伐倒した木の皮はぎ作業中に斜面（約27度）で転倒して、切り株に頭部をぶつけたものと思われる。	60101	2	1～9
2020	9	～ 22	被災者を含む労働者2人は、台風10号の接近による自然災害発生に備え、会社事務所で待機していた。夜、会社事務所隣の山の斜面が崩れて、その土砂で会社事務所及び社長宅が川に流され、会社事務所で待機していた労働者2人は行方不明となった。災害発生して11日後、捜索隊により、災害発生現場から約3.4km下流の川床の土砂の中から1人が遺体で発見された。	30106	5	10～ 29
		10	宅地造成工事において、下水管敷設のため、幅90cm深さ2m長さ14mの溝を9時からドラグショベルで掘削し、11時ごろに掘削作業を			

2020	9	～ 12	<p>終え、被災者は溝の深さを1人で測定していた。11時20分ごろドサッと音を立てて掘削面の半分以上が突然崩壊したため、別の場所へ移動していた作業員らが覗いたところヘルメット以外土砂に埋もれている被災者を発見したもの。</p>	30109	5	1～9
2020	10	～ 10	<p>地上43階地下2階複合ビル新築工事において、掘削深さ10m（縦穴状で土止め支保工済）から、さらに1.75mをドラグ・ショベル（0.1立方m）で掘削していた。予想外の湧水があり排水ポンプを設置する段取り中、横矢板下部より土砂が流出し、被災者がその土砂に埋まってしまったもの。その後、地上に引き上げ死亡が確認されたもの。</p>	30201	5	10～ 29
2020	10	～ 12	<p>被災者は、同僚1名とダム湖の堆砂量測定のため、陸上部に設置している杭の測量作業を行っていた。2名で高さ約6メートルから下方にある杭の位置を確認、同僚が昇降ロープが必要と判断し、現場付近に駐車していた車両に取りにいったところ、後方から「ドボン」という音が聞こえた。同僚がすぐに現場に戻ったところ、被災者がダム湖に墜落しており、その後溺死した。</p>	170209	1	1～9
2020	10	～ 12	<p>土砂の崩壊を防止するために1メートル四方のコンクリートブロックを7段積み上げていたが、土砂が崩壊したため、積み上げられていたコンクリートブロックが崩れ、付近にあったプレハブ小屋にコンクリートブロックが直撃し、プレハブ小屋の中で警備機器取付の作業を行っていた被災者が死亡したもの。</p>	30301	5	10～ 29
2020	11	～ 14	<p>ずい道の拡幅等工事において、掘削面で落盤、肌落ち等が発生し、坑内で車両系建設機械（ブレイカー）を運転していた被災者の背部に落石が激突、車両系建設機械の脇で死亡している被災者が発見された（目撃者なし）。なお、坑内には、ずい道支保工が設けられておらず、また、被災者が運転していた車両系建設機械のヘッドガードは坑内が狭小であったため取り外されていた。</p>	30102	5	50～ 99
2020	12	～	<p>16 道路の除草作業が終了したので、退勤しようと迎えに来ていた車両へ移動しようと傾斜約40度の法面を駆け上がろうとしたところ、転倒して</p>	30199	2	1～9

		18	側溝に転落し頭部を負傷し、頭部外傷により死亡したものの。			
2019	1	8 ～ 10	被災者は碎石運搬用ベルトコンベヤー駆動部のカバーの点検作業をしていたが、移動中通りがかったがげの路肩が崩れ、がけ下に約5m墜落し、入院加療していたが後日死亡したものの。	20201	1	10～ 29
2019	1	8 ～ 10	宅地造成現場において、ドラグショベルで掘削された幅約1.2m、深さ約1.9mの溝の中に入り、汚水管の設置作業を行っていたところ法面が崩壊、逃げようとしたが腰部分まで土砂で埋まり、同僚に助け出され病院に運ばれたがその後死亡したものの。	30199	5	1～9
2019	2	8 ～ 10	事業場敷地内の雨水等貯留用のコンクリート製沈殿槽から隣接する同社管理の農地へ農業用水を配水するにあたり私有農道に塩ビ製配管を約150m敷設する作業中、被災者は深さ1.9m、幅0.8m、長さ約12mにわたって掘削した溝内で床均し作業等を行っていたところ、掘削溝の側壁が長さ5.8m、高さ1.8mにわたって崩壊し、埋まったものの。	11709	5	1～9
2019	2	10 ～ 12	汚水管（直径20cm、長さ4m）を敷設するために、地山の掘削、汚水管の据え付け、埋設等、一連の作業を3人1組で行っていた。汚水管を2本目まで敷設し、地上のマンホール周辺を地固めしていたところ、被災者が掘削面（地上から1.6m）に立ち入った瞬間にボックスカルバート付近の土砂が剥離崩壊し、土砂に埋もれ死亡に至った。	30109	5	1～9
2019	3	10 ～ 12	被災者は、水道管布設工事のため、深さ約1.5mの掘削した溝の中で計測作業に従事していたところ、埋設されていたコンクリート擁壁（高さ約1.05m、長さ1.17m、幅約0.51m：重量830kg）が突然倒壊し、壁との間に挟まれて死亡した。	30110	5	1～9
2019	3	2 ～ 4	道路工事のうちトンネル工事現場において、坑口から約85m掘削した切羽で一次コンクリートを吹付後、上半の支保工建込準備のため、測量及び路面の整地を行っていたところ、鏡面左肩部から1回目の崩落により被災者の下半身が下敷きになり、さらに2回目の崩落が発生した。	30102	5	30～ 49
			排水管のレベル調整のため、床掘りを2名で行っていた。被災者がクワ			

2019	4	8 ～ 10	で作業を行っていたところ、掘削面（深さ約1.7m）の最大奥行約0.6m、幅約4.7mの土砂が垂直に剥離崩壊し、土砂に埋もれたもの	30110	5	10～ 29
2019	4	10 ～ 12	事業場敷地内北西部の牛舎横において、配水管敷設のため、ドラグショベルを使用して掘削作業を行っていたところ、掘削法面（高さ2.4m）の地山が崩壊し、作業員2名が生き埋めとなったもの。そのうち1名が死亡したもの。	70101	5	1～9
2019	6	10 ～ 12	擁壁築造のための基礎コンクリート打設を行うため、高さ約6mの地山の基底部をドラグショベルですかし掘りしたところ崩壊し、全身が生き埋めとなったもの。	30109	5	1～9
2019	7	14 ～ 16	遺跡発掘調査のため、床掘りを3名で行っていた。被災者が手掘りスコップで作業を行っていたところ、掘削面（深さ約2.3m）の最大奥行約0.9m、幅約6.3mの土砂が垂直に剥離崩壊し、土砂に埋もれたもの。崩壊前の掘削面の勾配は目測でほぼ垂直であった。	160101	5	1000 ～ 9999
2019	7	10 ～ 12	道路拡幅工事の前作業として、道路脇の山林斜面の中腹（道路からの高さ約11mの所）によじ登り、チェーンソーでヒノキの立木（根元直径約60cm）を伐倒直後、斜面（転落開始地点38度、その下から、道路際の擁壁（高さ約1.5m）までの大半が42度以上の傾斜）を転落、道路に激突し死亡。	30106	1	10～ 29
2019	8	10 ～ 12	ダムの上で草刈り後の草の集草作業をしていたところ、被災者が斜面から墜落（6m程度）したもの。	30199	1	1～9
2019	9	12 ～ 14	民有林の切捨て間伐の現場であり、作業の初日であった。初めて入場する際、チェーンソーを背負いかごに入れ、急傾斜地を等高線に沿って現場に向かう山道を歩行していた際、傾斜約50度の落ち葉で覆われた斜面を横切る際に足を滑らせて斜距離で約12m滑落し、直下の河床の岩で頭を強打した。被災者は、スパイク付きの靴を着用しておらず、また	60201	1	1～9

			被災直後の被災者の保護帽は脱げていた。			
2019	9	12 ～ 14	ロープ高所作業による法面の既設モルタル撤去作業において、法面上部箇所で浮石撤去作業をしていた際、何らかの理由で接続器具をメインロープから取り外した時、高さ約15mの地点から滑落したもの。災害発生時、被災者が身に付けていた身体保持器具は、ライフラインに接続されていなかった。	30199	1	30～ 49
2019	10	16 ～ 18	農業用水路配管（塩ビ管、L=5m、Φ250mm）を布設するため、ドラグショベルで、溝（H=2.7m×L=3m、W=1m、勾配75～78度）を掘削し、労働者2名が掘削溝の底でスコップで床均し、計測を行っていたところ、当該配管を埋めるために堆積していた左岸の掘削土と掘削面の一部が崩壊し、当該作業を行っていた労働者2名が生き埋めとなった。	30110	5	10～ 29
2019	10	16 ～ 18	農業用水路配管（塩ビ管、L=5m、Φ250mm）を布設するため、ドラグショベルで、溝（H=2.7m×L=3m、W=1m、勾配75～78度）を掘削し、労働者2名が掘削溝の底でスコップで床均し、計測を行っていたところ、当該配管を埋めるために堆積していた左岸の掘削土と掘削面の一部が崩壊し、当該作業を行っていた労働者2名が生き埋めとなった。	30110	5	10～ 29
2019	10	8 ～ 10	河川の護岸工事現場において、台風通過後に現場の状況を確認するために、現場内の仮設工事用道路を車で走行していたところ、増水により崩壊・陥没した仮設工事用道路から車ごと河川に落下したもの。	30107	1	30～ 49
2019	10	8 ～ 10	道路脇の法面上部の斜面で破碎した岩石を法面から道路上に下ろす作業を行い、同僚に休憩することを告げ、当該法面上部の斜面で休憩していたところ、高さ約10メートル下の道路に墜落し、同日脳挫傷により死亡したもの。	30199	1	1～9
		12	井戸掘削のため、直径15cm深さ150mのボーリング予定のうち75mまで掘削したところで、地中に入れたボーリングロッドを一旦引き抜いてレールに搬出し休憩に入ろうとした。その時、ボーリングマシン			

2019	10	～ 14	を設置していた箇所約5m四方の地盤が4m程真下に陥没したため、作業員2名と事業主が、地盤とともに落下して土砂に埋もれ、作業員1名の窒息による死亡が約1時間半後に確認された。	30199	5	1～9
2019	10	～ 14 16	管水路工事現場において掘削構内でのマンホール据え付け作業中に法面の一部が肌落ちし、労働者の下半身が埋まって被災したもの。被災労働者は被災当初左脛部の複雑骨折、骨盤の骨折の症状であったが集中治療室に入っており、容態が急変した結果死亡したもの。	30199	5	10～ 29
2019	10	～ 14 16	法面工事現場において、アンカー削孔用機械を移設するため、機械を固定していたワイヤーロープ・チェーンブロック等の取り外し作業に従事していたところ、機械から法面下方側の固定ワイヤーロープからチェーンブロック等を取り外した後、何らかの事由によりバランスを崩して法長約31m下方（平均勾配58°）の斜面を墜落した。病院へ搬送後、翌日の午前に死亡した。	30108	1	10～ 29
2019	10	～ 12 14	山砂採取場にて、斜面高さ60メートル上部で掘削して下方に落とすことにより堆積した山砂をドラグ・ショベルでダンプトラックに積み込んでいたところ、斜面上に堆積していた山砂が崩壊してドラグ・ショベルとダンプトラックが埋まり、ドラグ・ショベルの運転手が死亡した。	20202	5	10～ 29
2019	11	～ 14 16	被災者は、事務所の観測所の定期的保守点検を行うため、同僚2名と川沿を徒歩で1列縦隊となって移動していた。そして、観測所のある左岸側の沢まで到達し、その沢を先に同僚2名が登りきり、最後に被災者がそこを登っていたところ、沢が崩壊し、落下してきた岩（大きさ約1m～2mで2個と推定）に体を挟まれたもの。	80209	5	30～ 49
2019	11	～ 12 14	共同住宅建設現場における建物基礎部の地山掘削作業に関連し、幅約150cm、深さ約180cmである掘削底においてケレン棒を使用して土止め壁に付着した土砂の除去作業を行っていたところ、背後の地山が長さ約2m30cmにわたり崩壊し、腰部まで埋まったもの。	30201	5	1～9
		12	下水道工事現場の掘削溝内（幅0.95m、深さ1.6m）で土止め支			

2019	12	～ 14	保工の軽量鋼矢板の設置準備のため、被災者と同僚1人が溝内に降りて準備しているところに、側壁が崩落（高さ1m、幅2.8m、奥行き0.73m程度）し、被災者の身体全体が崩落土砂に埋もれたもの。	30110	5	1～9
2018	1	～ 13	災害発生当日、被災者を含む3名は森林の面積測量を行っていた。昼食休憩時に被災者が「日なたに行きたい」と言い、作業員2名と別れた。約15分後、作業を開始しようとした被災者に呼びかけたところ返事が無かった。付近を探したところ、約50m下に滑落した被災者を発見した。被災者はヘリコプターで搬送された病院先で死亡が確認された。	60209	1	1～9
2018	1	12 ～ 13	被災者は、旧水路と新設水路の接続用の鉄筋を差し込む箇所に目印を付すため、全長約35m、深さ約2.5mで掘削完了後一定期間が経過した掘削部に立ち入っていたところ、掘削法面の一部が崩壊し、生き埋めになった。その後、救急隊により病院に搬送されたが、死亡した。掘削箇所の土質は、その他の地山で、掘削面のこう配は、約70度であった。	30199	5	1～9
2018	3	16 ～ 17	市発注の下水道工事（L=600m）において、民家へ引き込むための取出し管（事前に本管に取付けていた）周辺の掘削（最深部でH=1.7m）を行っていたところ、手掘りをするため掘削溝内に入った際、突然、碎石・土砂（H=0.8m×W0.5m）が崩壊し、被災者の首付近に直撃した。崩壊した碎石・土砂は、上部40cmが碎石であった。	30110	5	1～9
2018	4	14 ～ 15	町道の災害復旧工事を行っていた作業者が道路から約10m下の斜面に転落し死亡したもの。	30106	1	1～9
2018	5	10 ～ 11	新設鉄塔の基礎工事における災害である。地山掘削、基礎の打設・養生が終了したため、周囲のライナープレートを撤去する作業をしていた。プレート同士をつなぐ48本のボルトのうち2本がライナーに押されて外れず、プレートを吊る4本のワイヤーの張力の偏りを修正するため、バケットを斜め上方に微動させた。直後に土圧でライナープレートが動	30301	5	10～ 29

			き、土砂がライナープレートの下部から流入して肩まで土砂に埋まった。			
2018	6	8 ～ 9	汚水配管設置のための掘削（約H：1.8m×L：5m×W：1.4m）作業終了後、土止め支保工の矢板設置のため掘削箇所に入り、スコップで整地していたところ、掘削法面が崩壊して被災者の腰まで土砂で埋もれ、病院で死亡したもの。	30110	5	10～ 29
2018	6	10 ～ 11	林道の新設工事において、伐採した木の搬出作業のためドラグショベルを運転していたところ、ドラグショベルの下の路肩が崩壊し、ドラグショベルごと約35メートル下にある旧国道に墜落したもの。病院に救急搬送され、死亡が確認された。	30106	1	1～9
2018	7	20 ～ 21	業務が終了し、取締役事業長の指示により、被災者は自動車と同僚を自宅に送る際、豪雨災害による土砂崩れに同僚とも巻き込まれ、被災し死亡したもの。	11502	5	10～ 29
2018	7	4 ～ 5	工場内で夜勤の作業員約60名が自動車部品製造中、工場西側の裏山が崩れて工場内に土砂や倒木が流れ込み、この裏山に近い場所でプレス作業に従事していた6名がプレス機械と一緒に押し流され、2名が死亡、4名が骨折等の負傷。	11502	5	300 ～ 499
2018	7	4 ～ 5	工場内で夜勤の作業員約60名が自動車部品製造中、工場西側の裏山が崩れて工場内に土砂や倒木が流れ込み、この裏山に近い場所でプレス作業に従事していた6名がプレス機械と一緒に押し流され、2名が死亡、4名が骨折等の負傷。	11502	5	300 ～ 499
2018	7	8 ～ 9	河川の護岸工事において、盛土の上に大型土のう（約1.4トン）を置き、仮締切りした箇所に、2台目の水中ポンプを設置していたところ、大型土のうの下の盛土が崩れ、土のうの上で作業を行っていた被災者が土のうと一緒に落ち、土のうとの間に挟まれたもの。	30107	5	30～ 49
2018	7	10 ～	林道建設工事において、被災者は、法面（法勾配約55°×法長約6m＋約法勾配45°×法長約14m）の頂上部で草刈り作業をしていた。下方で作業していた同僚が、法面下の林道に倒れていた被災者を発見し	30199	1	10～ 29

		11	た。被災者は首を骨折する等外傷があった。			
2018	8	14 ～ 15	被災者は同僚2名と山の法面から落石を防止するためのモルタル擁壁修繕工事を行っていた。作業は、既存のモルタル擁壁を剥して内部の土と併せて下方に落とすものでセーフティクライマー工法を用いていた。3名は、次の作業エリアに移るためワイヤロープを付け替える樹木を選定していたところ、上から石（直径約15cm）が落ちてきて被災者の左側頭部に当たり、その衝撃で法面から約15m下に墜落し全身を強く打って死亡した。	30199	1	1～9
2018	8	12 ～ 13	斜面（高さ約130m、勾配約40～45度）において、浮石等の危険性の調査のため、同僚と2名で実地踏査を行っていた。その際、斜面下部からジグザグに登り、浮石等の確認をしていたところ、高さ約100mの地点で足を滑らせ、約20m滑落した。被災直後は意識はあったが、その後、重症胸部外傷で死亡した。	170209	1	50～ 99
2018	9	12 ～ 13	間伐作業現場において、昼休憩のため作業現場から土場に移動したが、被災者が戻ってこなかった。声かけを行ったが、応答がなかったため、被災者の様子を確認しにいったところ、斜面上でうずくまっている被災者を発見した。その際、被災者は脇腹の痛みをうたっていた。その後、被災者は搬送先の病院において、急性出血ショックにより死亡した。	60201	2	30～ 49
2018	9	10 ～ 11	山の標高600m付近において山林の地籍調査を5人体制で実施していた。境界点の杭打ち作業が終わり、次の境界点へのルートを班長が選定中、被災者が別方向に移動した際、転落した。およそ30mにわたり転落し、外傷性くも膜下出血により死亡した。	60209	1	30～ 49
2018	9	14 ～ 15	採石場内において、被災者は階段採掘法で切られた地山の4段目ベンチ上でドラグショベル（機体重量48t）を運転していたところ、4段目ベンチが崩落しドラグショベルごと82m下のヤードに転落した。	20201	1	10～ 29
		10	法面保護工事中の斜面にて、モルタル吹付工事前の養生作業をロープ高			30～

2018	9	～ 11	所作業で行っていたところ、高さ約12.3m（斜長約16m）の法面から、墜落して、頭を強く打って死亡した。	30199	1	49
2018	9	～ 17	深さ2.0メートルの掘削溝にハンドホール（コンクリート構造物）を敷設している際、掘削溝底面で作業を行っていた被災者の背後の法面が崩壊し、被災者は両膝付近まで土砂に埋没するとともに、崩壊した土砂の土圧によって前傾姿勢となり、腹部をハンドホールに強打したものの。	30301	5	1～9
2018	9	～ 19	台風の影響により養鶏場に水が入ったため、養鶏場の修理、確認作業等を行った被災者が養鶏場から自宅へ被災者が運転する車により直帰する途中に、台風による大雨の影響により、陥没していた農道から転落し死亡したもの。	10101	1	100 ～ 299
2018	10	～ 13	市道脇の斜面上にて、台風による倒木の撤去作業のため、被災者はクレーン車で支えられた立木をチェーンソーで伐倒する作業を行っていたが、立木の伐倒後、伐倒木から離れた場所で待機していたところ、待機場所上方の幅2.5メートル、高さ5メートルの斜面の土砂が崩壊し、生き埋めになったもの。被災者は救出されたが、現場で死亡が確認された。	30199	5	1～9
2018	10	～ 17	既存する橋梁の耐震補強設計を行うため、清掃・点検作業を3名で行っていた。橋台付近に親綱を設置し、被災者を除く2名が準備等のため一旦現場から離れた。その後、1名が現場に戻ってくる途中で、橋台付近から約20m下の河川に倒れている被災者を発見したもの。	170209	1	1～9
2018	10	～ 13	被災者は、機体重量1.3tのドラグショベルを使用し、民家裏で土砂の搬出作業を行っていたところ、高さ約3メートルの法面の小段（犬走り）よりドラグショベルが転落。被災者はドラグショベルと共に法面を転落し、ドラグショベルの下敷きとなり死亡した。災害発生時、被災者は単独で作業を行っており、事故が発生した瞬間を目撃した者はいない。	30108	1	10～ 29
2018	12	～ 8	被災者は、傾斜45度の地山で立木に安全標識を取り付けようとして足	30108	1	30～

		9	を滑らせ、地山を約50メートル転落した。			49
2017	1	8 ～ 9	宅地造成工事現場の下水管敷設工事において、被災者2名の共同作業で、溝掘削（幅70cm、深さ213cm）内の西側側壁に下水枝管用の横穴をブレイカー等で掘っていたところ、東側側壁（勾配80～88度）が崩壊し、被災者2名が土砂に埋まった。	30109	5	10～ 29
2017	1	8 ～ 9	宅地造成工事現場の下水管敷設工事において、被災者2名の共同作業で、溝掘削（幅70cm、深さ213cm）内の西側側壁に下水枝管用の横穴をブレイカー等で掘っていたところ、東側側壁（勾配80～88度）が崩壊し、被災者2名が土砂に埋まった。	30109	5	10～ 29
2017	1	20 ～ 21	トンネル工事現場の終点側の切羽において、発破作業のためドリルジャンボにより穿孔作業後、被災者は火薬の装薬作業のため、ドリルジャンボのマンゲージに上がり装薬箇所へ移動中、鏡面全体の約3/4が崩落（高さ7.9m、奥行き約0.5m、玄武岩の推定崩落量32立方メートル）し、マンゲージごと岩塊の下敷きとなった。なお、鏡吹付け、切羽監視責任者による常時監視は行われていた。	30102	5	50～ 99
2017	5	10 ～ 11	道路の改良工事において、工事の進捗状況を確認するために測量を行っていたところ、作業床から22m崖下に墜落し、死亡した。足場は組まれていたが、測量のため足場の外へ出て作業しており、安全帯は着用していたが、使用していなかった。	30105	1	1～9
2017	5	14 ～ 15	法面補修工事のため法面頂部への仮設通路を設置していたところ、上方から落石（重さ約300kg）が発生し、仮設通路上で床材等を取り付けていた被災者に激突、もしくは、被災者がこの落石を避けようとして仮設通路から約30m下の沢に墜落した。なお、被災者は、安全帯を使用していなかった。また、落石が発生した付近で作業していた同僚作業員も斜面を滑落し、負傷した。	30199	4	10～ 29
		10	川床から高さ約3.5mまで勾配65度（護岸下部）、その上から高さ約2.7mの最上部まで勾配35度（護岸上部）に整形された河川の護			

2017	6	～	岸工事で、護岸上部に芝を張る作業に従事していた被災者が、傾斜地で	30107	1	1～9
	11		の足掛かりとするための設備を設置しようとしていたところ川床まで墜落した。			
2017	7	12 ～ 13	島内12箇所の河川及び沢の維持工事（河川等兩岸の管理用通路及び河川等の流路内の除草、枯損木伐採、倒木処理）において、流路内の除草等した草木等を搬出するため、車両系建設機械（つかみ機）を用いて搬出中、流路の段差2.5mを当該草木等を用いて斜路を形成し下降していたところ、斜路が崩壊して、運転していた建機とともに転落し、流路内の側壁と建機との間にはさまれ死亡した。	30199	1	50～ 99
2017	7	～	災害発生場所において、ベンチカットで採石していた岩の法面下部で、			
	16		被災者はクローラードリルを運転し、発破のための穿孔作業を行っていたところ、作業箇所上部の岩が崩壊し、被災者がクローラードリルごと	20201	5	1～9
	17		埋まった。山から下りてこないことを不審に思った同僚が現場に見に行き、16時50分頃、災害を発見した。			
2017	7	～	宅地造成工事現場において、マンホール・管の設置作業中、型枠にコン			
	18		クリートを流し入れたところ、型枠が開き、壊れる危険が生じた。その	30109	5	10～ 29
	19		ため、被災者と現場の副責任者の2名で型枠の補強を行うべく、掘削した箇所に進入したところ、側面の土砂が崩壊し被災者に降り掛かり生き埋め状態となり、翌日に死亡した。			
2017	7	12 ～ 13	被災者は、機械集材機の荷かけ作業を行っていたところ転倒し、腰ベルトから紐で下げていたチェーンソー用プラグソケットレンチのマイナスドライバー部分が左大腿部に突き刺さったと推定される。同僚の労働者が、被災者に無線で連絡がとれないため、様子を見に行ったところ、あぐらをかくような状態で座り込み、呼吸、意識がなく、左大腿部から多量の出血がある状態で被災者は発見された。	60201	2	1～9
2017	8	～	被災者は、線路沿いにある電柱の電線にプロテクターを設置する工事の			
	10		警備を行うのに、同僚警備員1名とともに、工事作業員4名に随行し、	170201	1	10～
			最後尾で工事場所へ向かって山中を徒歩で移動中、同人が運搬していた			

		11	工事用の資材等が谷側に落ちたため、同資材を取りに行こうとして谷へ墜落した。			29
2017	9	16 ～ 17	人工林の生育状況等調査のため、午後1時半頃、被災者ほか3名で林道終点から徒歩で山林に入り、午後2時頃からは、被災者単独で人工林と天然林の境界調査を行っていたが、下山予定時刻の当日午後5時になっても下山せず、翌朝7時30分頃、傾斜50度～60度の崖下の沢のほとりで、心肺停止の状態で座り込んだ状態で発見され、搬送先で死亡が確認された。	170209	1	1～9
2017	9	12 ～ 13	下水道管を付設する工事において、掘削溝の幅95センチメートル、長さ約2メートル、深さ約2.3メートルの土止め支保工が設置されていない箇所で作業者が下水道管の下側に砂利を敷き詰める作業に従事したところ、地山が崩壊し、死亡した。	30110	5	1～9
2017	10	8 ～ 9	個人住宅敷地内の樹木剪定作業において、被災者は三脚脚立（天板の高さ2m45cm）を使用して、サルスベリの剪定作業を行っていた。その後被災者が耳から血を流して倒れているところを他の作業員に発見され、被災者はその後搬送先の病院にて脳挫傷により死亡した。	30199	1	10～ 29
2017	10	16 ～ 17	被災者は、下水道工事現場において、掘削した溝（深さ約2.2メートル）の中で、敷設された管の位置を確認する作業を行っていたところ、土壁が崩壊し、生き埋めとなり死亡した。	30106	5	10～ 29
2017	11	4 ～ 5	道路に下水道のマンホール及び管を設置する工事現場で、作業員2名が、幅1.1メートル、延長2.2メートル、深さ3.6メートルの掘削箇所の中で管の接続作業をしていたところ、掘削側面の土砂が崩壊し、土砂の下敷きとなり、作業員1名が死亡した。	30110	5	1～9
2017	11	14 ～ 15	当該工事は、落石防止用ネットの張り替え工事である。被災者は同工事の下請け労働者として他の労働者ととともに現場へ入場し、当日は他の労働者と離れて法面上の落石防止用ネットの支柱のモルタルを詰める作業を行った後、さらに上方にある親綱の結束部を外そうとした際に法面か	30199	1	1～9

			ら転落した。			
2017	11	12 ～ 13	新規開設した道路の路面を計画の高さまで掘り下げるため、被災者がブレーカを運転して路面の岩を砕き、その後方で現場代理人がドラグショベルを運転して砕いた岩を後方へ移動させる作業を行っていたところ、ブレーカの運転席側の法面（高さ約20m、全長約20m、勾配約5分）が上方から崩落、被災者はブレーカに搭乗したまま土砂の生き埋めとなり、約10時間後に救出されたが、死亡した。	30106	5	10～ 29
2017	12	14 ～ 15	急傾斜地（高さ約10m。当該場所には約30年前にモルタルが吹き付けられていた。）の崩壊対策工事現場において、被災者は、ピックを用いて高さ約1.5mの当該モルタルのはぎ取り作業に従事していたところ、そばのオーバーハングのため残しておいたモルタル部分（高さ約3m、幅約2m）が崩壊し、被災した。	30199	5	1～9
2016	1	13 ～ 14	被災者は斜面下方において斜面に堆積させていた土砂をドラグショベルを使用してダンプに積み込む作業を行っていたが、その斜面の土砂が突然崩れて、被災者の乗っていたドラグショベルと土砂を積み込んでいたダンプが崩れた土砂により横倒しとなり、ドラグショベルは土砂に埋まった。ダンプの運転手は自力で脱出して負傷はなかったが、ドラグショベルの運転手は約2時間半後に救出されたものの死亡していた。	30106	5	10～ 29
2016	1	13 ～ 14	花粉対策事業における伐採作業現場において、機械集材装置を用いて、伐採した原木の運材作業を行っていたところ、斜面の上方で原木の玉掛け作業を行っていた作業員が倒れているところを発見された。ただちに救急搬送されるも、搬送先の病院で死亡した。	60201	2	1～9
2016	1	15 ～ 16	被災者は、切羽付近で、ドリルジャンボのバケットに乗り、導爆線を束ねて同僚に手渡した後、切羽面に沿って移動中、切羽面から岩塊（約500kg）が肌落ちし、バケット内の被災者の背中に岩塊が当たって死亡した。	30102	5	10～ 29
		16	林道の路肩の崩壊箇所を補修するに際し、土のうを設置後、ドラグ・ショベルを用い道路上に残っていた土砂を取り除いていたところ補修箇			

2016	2	～ 17	所を含む路肩が崩壊し、ドラグ・ショベルが約13.5メートル下の河原に転落、被災者は車外に投げ出され頭部を打撲し死亡した。	30108	5	1～9
2016	2	～ 12 13	登山道の標高1750～1800m付近の調査地点で同僚と2名で積雪調査を実施後、登山道を下山中、標高1750m付近（積雪数cm）においてバランスを崩し、斜面の露岩地へ転落した。転落の約4時間後に消防防災ヘリにより救助されたが、搬送先の病院にて死亡が確認された。	120109	1	1～9
2016	2	～ 11 12	ダムを取付け道路工事現場において、法面（高さ9.5m）掘削用に設けられた防護柵（高さ3m）の解体作業中、法面が、高さ15m、幅20m、奥行き10mにわたって崩壊したため、作業員3名のうち、1名が生き埋めとなり被災した。	30106	5	10～ 29
2016	2	～ 10 11	林道の災害復旧工事の法面吹き付け工事が終了し、被災者は完成検査を受けるための準備として法頭付近（高さ約43m）で巻尺を垂らす作業を行った。被災者は、検査が行われるまで待機している際に墜落し、死亡した。	30108	1	10～ 29
2016	3	～ 15 16	民有林内において、伐倒した広葉樹をウインチを使用して2名で作業していた時の災害。同僚が集材用ロープを持ち先山に向かい、被災者は同僚とウインチの中間でロープの送り出し作業をしていた。先端を引っ張っていた同僚がロープが急に重くなったため振り返ったところ、被災者がフラフラしておりその後、地面に倒れ斜度35度の斜面を約6m転落した。転落中に保護帽が脱げ頭部を地山に強打し9日後に脳挫傷で死亡した。	60201	1	1～9
2016	3	～ 15 16	溪流の右岸の護岸工事を行っていた。労働者4名で護岸用の金属カゴ（長さ202cm、幅77cm、高さ51cm）に石材を詰める作業を行っていたところ、幅16.3m、高さ24mにわたって法面が崩壊し、労働者1名が生き埋めになった。	30107	5	1～9
		12	急斜面でチェーンソーを用いた立木伐採を行っていた労働者が、作業中			10～

2016	3	～ 13	にバランスを崩して斜面から滑落した。	60201	1	29
2016	7	9 ～ 10	整備作業として、登山道の路肩の崩壊防止用の丸太を交換するために杭打ち作業をしていたところ、登山道から片足を法面に下ろしハンマーで杭を打っていた被災者が、姿勢を崩し、約50m下まで滑落し、頭部を強打したことにより死亡した。	40103	1	1000 ～ 9999
2016	7	15 ～ 16	道路災害復旧工事の現場で急な降雨があり、法面上に設置された排水用ビニールホース（直径約250mm）のねじれを7名で直していたところ、ねじれが解消されると同時にホース内に水が一気に流れ、被災者が当該ホースに弾き飛ばされて約5m下の地山斜面上に墜落した後、地山斜面上を約17m下まで転落した。	30106	1	10～ 29
2016	8	9 ～ 10	マンションの土間下排水管取替えのため、マンション土間下に掘った坑に被災者1人が入り作業を行っていたところ、天井（マンション土間部分）から岩のような塊（1.6m×0.75m×0.25m）が落下し、その下敷きになって死亡した。	30203	5	1～9
2016	9	19 ～ 20	前月の台風による大雨の影響で小規模な土砂崩れが発生した国道付近において、大雨が降り続く中、被災者が歩道に停車させた車両内から斜面の状況を監視していたところ、土砂崩れが発生し、車両ごと土砂に押し流されて海に転落した。駆け付けた救急隊員に救助されたものの、搬送先の診療所で死亡が確認された。	30199	5	10～ 29
2016	9	14 ～ 15	新設水道管を布設する工事において、深さ約1.45m、幅約0.9mにて掘削した箇所に入り、布設した水道管を微調整するため、管下をスコップを使って掘っていたところ、側面の土壁が幅約0.5m、長さ約1mに渡り崩れ、被災者の腰から下が埋まった。	30110	5	10～ 29
2016	9	12 ～ 13	アパート建築工事において、敷地に隣接する車道との間の斜面（高さ約3.5m）にブロック積擁壁を設置するため、斜面等の土砂をドラグショベルで掘削していたところ、掘削法面の土砂が崩落（推定4立方m）し、法面直下で補助作業に従事していた被災者が生き埋めとなっ	30202	5	1～9

			た。被災者は心肺停止状態で病院へ搬送されたが、死亡した。			
2016	9	0 ～ 1	ドラグショベルにより林道を開設する作業に従事していたところ、何らかの理由により路肩が崩壊し、ドラグショベルごと転落し死亡した。	30199	1	10～ 29
2016	9	10 ～ 11	林道脇の法面上部の伐採作業のため、被災者が法面上部を移動していたところ、約5m（目測）の高さから道路上に墜落して死亡した。	30199	1	10～ 29
2016	10	18 ～ 19	19時30分に夜勤の労働者が現場に到着した際、被災者の姿が見えないため付近を捜索したところ、車を駐車している箇所からおおよそ9m下方のがけ下で倒れている被災者を発見した。	170201	1	10～ 29
2016	10	9 ～ 10	林道改良工事において路肩の下で型枠の脱着作業を行っていたところ、路肩が崩壊し、土砂に埋もれて死亡した。	30106	5	1～9
2016	11	16 ～ 17	被災者は傾斜約40度の間伐作業現場で伐木作業を行っていた。作業終了時刻になっても被災者が集合場所に現れなかったため、同僚2名が捜したところ、斜面上で仰向けに倒れている被災者を発見したが、搬送先の病院で骨盤骨折及び左大腿骨骨折による失血死が確認された。	60201	6	1～9
2016	12	3 ～ 4	ずい道新設工事において、坑口から232mの切羽部で鋼製アーチ支保工設置にあたり、浮石や支保工設置位置等の確認（当たり取り）のため切羽部に近づいたところ、切羽左上半の側面部が肌落ちし、その下敷きになった。	30102	5	50～ 99
2016	12	8 ～ 9	法面（斜度80度、岩）に削孔機によるアンカー孔掘削作業中の災害。 1箇所の掘削を終えて次の掘削予定箇所に削孔機を移動するためにビット付ロッド（全長約2.1m、重量約28kg）を削孔機より取り外し法面に立てかけて仮置きしていたところ、当該ビット付ロッドが落下し下方にいた被災労働者の胸部に激突し、死亡した。	30106	4	1～9
		8	索道で伐採木を搬出しているときに、被災者が退避場所の積雪で足を滑			

2016	12	9	らせ斜面から転落し、索道でつっていた伐採木に激突した。	60201	1	1～9
2015	12	10 11	島において落石状況を調査していた被災者が夕方になっても駐車場所に 戻らず、翌日の朝、岩山の麓の斜面に倒れているのが発見されたもの。 被災者は島外に所在する事業場から2泊3日の旅程で1人で来ており、 この岩山は調査対象のひとつであった。事業場は建設コンサルタント業 を営んでいる。	170209	2	50～ 99
2015	4	10 11	被災者は、建築中の建屋北側の駐車場予定地において、污水配管埋設作 業のため、掘削された幅約70cm、深さ約1.5mの箇所に入り、同 配管の取付作業を行っていたところ、掘削した箇所の側面が崩落し生き 埋めとなり被災したもの。	30201	5	1～9
2015	2	13 14	間伐作業現場において、被災者を含め2名で作業を行っていた。2人は 数百メートル離れた現場で各々作業を行い、予め決めておいた集合場所 に15時50分に集合する予定であったが、被災者が集合時間を過ぎて も現れないので、同僚が被災者の担当現場へ行ったところ、うつ伏せに 倒れている被災者を発見した。被災者が倒れていた場所から約17m上 の傾斜約40度の山腹にヘルメット、チェーンソー、腰袋が置かれてい た。	60201	1	10～ 29
2015	4	17 18	宅地造成工事現場において、男性作業員が高さ約6メートルの法面にお ける養生シートの手直しを行っていたところ、法面が崩壊し被災したも の。	30202	5	10～ 29
2015	10	9 10	下水配管の敷設現場において1人が溝内で作業中、側面の土砂が崩壊し て埋まったため、地上にいた4名が溝内に入って救助していたところ、 2度目の崩壊が発生。救助に入った4名のうち2名は難を逃れたが、1 名は土砂とともに崩壊したアスファルト片が腰に当たって負傷し、1名 は逃げ遅れて土砂に巻き込まれて死亡した。また、当初埋まった労働者 も死亡したもの（死亡2名、負傷2名）。	30110	5	1～9
		11	橋梁の下部工事の試掘作業において、深さ約3メートルの掘削内に立ち			

2015	2	～ 12	入ったところ、溝掘削西側法面が崩壊し被災者の全身が土砂に埋まった。	30105	5	50～ 99
2015	11	15 ～ 16	山中でのアンテナ・ケーブルの撤去回収工事において、交通誘導員である被災者が撤去した資材を山中から林道に置いてある車両まで運ぶ作業に加わったが、被災者は道に迷い、下山できる場所を探して山中を歩いていたところ、沢付近で約19m滑落した。他の作業員が被災者を発見した際には、意識があり立つことができたが、救助を待っている間に意識を失い、病院で死亡が確認された。	170201	1	50～ 99
2015	3	～ 16	遊歩道の手すりの改修工事において、ドラグショベルで手すりの支柱の基礎（コンクリート2次製品）を地中に埋め、余掘りの埋戻し作業を行っていたところ、その周辺の岩石等が崩壊し、ドラグショベルの周辺にいた被災者に直撃した。被災者は、崩壊した岩石とともに約5m下の谷側に転落した。	30106	5	1～9
2015	5	0 ～ 1	被災者を含む労働者3名で、林地の周囲を測量していた際に、被災者は測量のために使用するけん縄（測量点間の距離を測るもの）とポール（コンパスと呼ばれる測量器具を測量点に合わせるための目印とするもの）を両手に持ち、次の測量点に移動していたところ、斜面から転落した。	60209	1	10～ 29
2015	4	11 ～ 12	道路拡幅工事現場において、谷側垂直壁の基礎コンクリート（階段状）の型枠組立を被災労働者が行っていたところ、当該箇所は勾配が全体として45度であり、足を滑らせた等により斜面を約5m滑り落ちた。その際、腰に巻いていた道具袋に入っていた約20cmのバールが被災者の腹部に突き刺さり、肝臓を損傷し出血性ショックにより死亡したものの。	30106	1	1～9
2015	1	～ 12	民家の下水管布設工事現場において、掘削溝（幅60センチメートル、長さ6.8メートル、深さ1.5メートル）の側壁が崩壊し、溝の中にいた労働者2名が土砂に巻き込まれたもの。	30110	5	1～9

2015	3	18 ～ 19	既存建物のコンクリート壁を解体後に、飛び出している鉄筋をガス溶断により切断し撤去する作業中、頭上で土砂が崩壊し、被災者に直撃し生き埋めになった。崩壊した土砂は、解体前のコンクリート壁と山留杭との間（厚さ約0.8m）に残存していたものであり、その一部分（高さ約4m、幅約3m、奥行約0.8mの範囲）が崩壊、落下したものであった。	30201	5	1～9
2015	10	11 ～ 12	鉄塔点検工事において、点検を終えた鉄塔から別の鉄塔へ移動するため、被災者と他の労働者で山中を歩いていたが、途中から被災者は道に迷い単独で山中を歩いていたところ、斜面から滑り落ち、そのまま林道に墜落して死亡した。	30301	1	1～9
2015	2	16 ～ 17	勾配約40度の傾斜地の草薙りを終え、集合場所へ戻る際、何らかの原因により、傾斜地から転落したもの。被災者が最後に目撃されたのは、被災者が転落していた箇所から高さ約5メートル、勾配42.5度の傾斜地を降りているところであった。ロリップの設置等の墜落防止措置は講じられていなかった。	170209	1	1～9
2015	1	10 ～ 11	民有林において、被災者は砂防ダムの建設予定地となる箇所の測量業務に従事していた。被災者は立木の調査を行うため、斜度約45度の斜面を歩行中、足を滑らせ約7メートル下の沢まで滑落し死亡したもの。	170209	1	1～9
2015	9	15 ～ 16	高速道路建設工事に伴う用地調査のため、被災者と部下の2名は、作業場所である山中に入り、各地権者の領域を目視できるようにするためのテープ貼りの作業等を行った。同作業が終了後、山頂上に置いていたリュックサックを回収するため、部下、被災者の順で山の斜面を登っていたが、部下が振り向いたところ被災者の姿がなく、山中を探したところ、中腹で仰向けで倒れていた被災者を発見した。被災者は、頸椎損傷により死亡した。	170209	1	1～9
		9	下水配管の敷設現場において1人が溝内で作業中、側面の土砂が崩壊して埋まったため、地上にいた4名が溝内に入って救助していたところ、2度目の崩壊が発生。救助に入った4名のうち2名は難を逃れたが、1			

2015	10	～ 10	名は土砂とともに崩壊したアスファルト片が腰に当たって負傷し、1名は逃げ遅れて土砂に巻き込まれて死亡した。また、当初埋まった労働者も死亡したもの（死亡2名、負傷2名）。	30110	5	1～9
2015	7	～ 15	法面工のラス張り作業で、岩石にアンカーピンを打ち込むために電気ドリルでせん孔作業を行っている時に、理由は不明であるが、被災者は立木から垂れ下がっている親綱に緊結していた「ロリップ」を外したところ、勾配約45度の斜面を約50m滑落し、下方の雪崩防止柵の養生用鉄板に激突した。	30108	1	50～ 99
2015	9	0 ～ 1	国有林の伐採現場において被災者らが午前8時から前日の伐倒作業を行うため、現場到着後、被災者は一人で作業箇所に向かう途中、斜面で足を滑らせ、胸部が立木に激突したため、被災したもの。林道から斜面を下った箇所で倒れているところを同僚に発見された。	60201	2	10～ 29
2015	2	13 ～ 14	工場本体の新築工事の外構工事として、敷地内に貯水槽（大きさ6.6m×3.6m深さ3.3m）を設置するためドラグ・ショベルで、大きさ11m×8m深さ約3.6mの総掘りをしていた。その際、突然ピット側面の土砂が崩壊したため、ピット底部に入り、ならし作業をしていた被災者が生き埋めとなり、すぐに救出し病院に搬送されたが死亡が確認されたもの。	30199	5	1～9
2015	7	10 ～ 11	下水管敷設のため、深さ1.8m、幅1.2mの溝をドラグショベルにより掘削中、被災者が溝の中に入りまもなくして被災者の背中側が深さ1.4m、幅0.5m、長さ2mに亘って崩れ、腰ぐらいまで土砂に埋まった。	30199	5	30～ 49
2015	11	0 ～ 1	被災者は電柱の新設後、路面から高さ2.12メートルの擁壁上の斜面に生えた雑木の伐採作業を行っていたところ、斜面から路面上に滑り落ち頸椎骨折、急性大動脈解離等の負傷により療養中であったが、平成27年11月21日に死亡したもの。	30301	1	1～9
			トンネル切羽において、火薬の装填作業を行っていたところ、切羽天端			

2015	4	19 ～ 20	部の肌落ちがあり、装填した火薬（雷管）が2つ落下した。すぐに同火薬を回収するため職長及び被災者が切羽に近づいたところ、岩盤が大規模に崩落し、被災者は落下してきた約3トンの岩の下敷きとなった。岩を除去し、救急車にて搬送されたが、搬送先にて死亡が確認された。	30102	5	10～ 29
2015	10	13 ～ 14	現場内の山林で、ドラグ・ショベルを使用し作業道の造成及び整地作業を行っていた作業中のドラグ・ショベルが見当たらなくなったため、伐採等の作業を行っていた同僚が搜索していたところ、作業道から約15m下の崖に転落しているドラグ・ショベルを発見した。ドラグ・ショベルは運転席を下にした状態で立木に引っかかり停止していたが、支えていた立木が折れさらに50mほど転落した。	60201	1	10～ 29
2014	1	12 ～ 13	法面の工事現場にて、被災者を含めて作業員4名でアンカーの引き抜き試験の作業を行っていた。試験機が故障したため作業を中断し、被災者に先立ち2名の作業員が親綱を伝って下山し、もう1名が山道から下山したが、時間が経っても被災者が下山してこないことを作業員が不審に思い搜索を行ったところ、通路状になっている斜面から約10m下の立木に引っかかっている被災者が発見された。	30199	1	1～9
2014	1	9 ～ 10	斜面の落石防止網設置工事にて、斜面下部からウインチ操作で送られてくる単管パイプを受け取るため、一名の作業員が斜面上部の林道からさらに高さ約5mを登った場所に位置し、声を掛け合いながら単管パイプを受け取り、林道へ下ろそうとしていた際、被災者は斜面から滑落し、約5m下の林道へ墜落した。	30199	1	1～9
2014	1	14 ～ 15	農業用配管の移設作業のため、縦5メートル、横1.3メートル、深さ1.9メートルにわたり掘削した後、当該掘削箇所内で配管の取付作業を行っていたところ、側壁が土塊として崩れ落ち、被災者を直撃した。	30106	5	10～ 29
2014	2	14 ～ 15	階段採掘法による採石現場で、3段目の階段で発破した岩石をドラグ・ショベル（機体重量25t）により一番下まで落とす作業中、3段目上部の岩石が崩落し、その崩落により被災者はドラグ・ショベルと共に43.7mの一番下まで転落。運転席から投げ出され、全身挫滅で死亡し	20201	5	10～ 29

			た。			
2014	2	14 ～ 15	照明設備工事にて、被災者は深さ2.3メートル掘削坑内で照明柱基礎コンクリートの型枠パイプ撤去作業中、付近で法面が土砂崩壊したため、別の作業員がドラグ・ショベルにて土砂撤去作業を行っていたところ、同箇所の法面土砂が更に崩壊し、被災者が生き埋めになった。	30203	5	1～9
2014	2	13 ～ 14	下水管敷設工事にて、汚水管設置位置の掘削作業を行っていた被災者は、掘削溝内で支障となる配管の有無を確認作業中、掘削溝東側の掘削壁面が崩落し、支えを失ったアスファルト塊が落下し、被災者の頭部に激突し、死亡した。	30110	5	10～ 29
2014	3	14 ～ 15	基礎杭周囲を掘削し、基礎の均しコンクリートを電動ハンマーで小割りしようとしていたところ、均しコンクリートを支えていた土砂が、電動ハンマーの振動で崩壊し、均しコンクリート及びその上に堆積していた土砂が被災者に崩れ落ち、窒息死した。	30199	5	1～9
2014	4	11 ～ 12	林道地中の配水管の堆積砂利をかき出す作業現場にて、管内部で砂利をかき出していた際、前方より滞留していた水が流れ出し、管の外部で補助作業を行っていた被災者が、土砂とともに埋まっているのが発見された。	30106	1	1～9
2014	4	9 ～ 10	積雪による被害木の伐採作業中、足を滑らせ、斜面を滑落。被災者は、約40m斜面を転げ落ち、斜面下端にある林道へ転落した。	60201	1	1～9
2014	4	11 ～ 12	掘削床にて、雨水管を掘削していたところ、掘削面の一部が崩壊し、崩壊した土砂が被災者の胸部付近に激突。腰部付近まで土砂に埋まり、肺挫傷により死亡した。	30201	5	10～ 29
2014	4	15 ～ 16	電柱の工事終了後、写真撮影を行っていた際、斜面の下方で倒れている被災者が発見された。	30301	1	1～9
		16	掘削用機械で河床を所定の深さに掘削する作業中、河床まで深さ約4			

2014	7	～ 17	メートルある岸壁（法面）が幅約11メートルにわたり崩壊。河床にて、掘削用機械への合図を送っていた被災者が、倒れた鋼鉄の下敷きとなった。	30107	5	10～ 29
2014	7	～ 16	15 法面整形する作業中、道路上にて、登坂の準備中、法面上方で落石崩壊が発生し、被災者に当たった。	30106	5	10～ 29
2014	7	～ 10	9 地中下水管設置の際、溝を測定しようと、被災者は溝の内部に入り、測定作業を行っていたところ、掘削溝の側壁の片側が崩壊し、土砂に埋もれた。	30110	5	1～9
2014	8	～ 10	9 ロッククライミング工法により法面上の浮石除去中、岩石が、法面上で無線操作を行っていた被災者の背中にあたり、被災者は法面を約18m墜落した。	30108	4	10～ 29
2014	9	～ 15	14 林道改良工事にて、沢の水を通すために埋まっていたヒューム管交換のため、掘削し、ヒューム管設置後に吐き出し口となる付近に設置する布団籠に石を詰める作業を複数名で行っていたところ、被災者が掛矢を持ち、掘削箇所に進入したところ、法面上部の土砂が崩壊し、埋まった。	30106	5	10～ 29
2014	9	～ 10	9 作業場にて、コンクリートミキサー車から生コンクリートをホッパーに移す作業をしていたところ、岩石が飛来し、被災者の身体にあたり、死亡した。	40301	4	10～ 29
2014	10	～ 12	11 土場にて、土を油圧ショベルで掘削し、ダンプに積み込む作業中、背部の地山が崩壊し、油圧ショベルごと埋まり、窒息死した。	30199	5	10～ 29
2014	10	～ 11	10 被災者は、本殿建て替え中、仮の本殿として使用していた仮本堂の廊下に入ったところ、仮本堂の裏の斜面が崩壊し、崩れた土砂により仮本堂の建屋が押しつぶされ、建物等の下敷きになり、死亡した。	170209	5	10～ 29
2014	10	～	10 石落とし作業を行った際、林道にて作業に使用したロープ等の片付け作業を行っていたところ、高さ10メートル、幅8メートルの範囲で地山	30199	5	1～9

		11	表層が崩落し、直径約1メートルの石が被災者の半身に落下し、はさまれ、脳挫傷及び心臓破裂により死亡した。			
2014	10	9 ～ 10	排水管布設用の溝の掘削作業中、床付け面の深さを測定するため被災者が箱尺を持ち、溝内に立ち入ったところ、片側の地山が崩壊した。尚、土留め支保工用の資材が現場脇に用意されていたが、使用していなかった。	30203	5	1～9
2014	10	12 ～ 13	法面に新しくモルタルを吹き付ける作業中、被災者は、作業に必要な親綱を設置する作業のため、吹き付け箇所上部の立木付近に親綱を置き、下へ降り始めたところ、足を滑らせ、斜面上を滑り落ち、道路に墜落した。	30106	1	1～9
2014	11	0 ～ 1	採石場内の作業道拡幅作業中、法面に発破を装填するための穴をクローラドリルで水平方向に掘削していたところ、法面の岩盤が崩壊し、クローラドリルが崩壊した岩盤及びその上方の土砂の下敷きとなった。	20201	5	1～9
2014	11	11 ～ 12	水漏れ箇所の点検のための掘削作業中、被災者が穴の中に入り確認作業を行っていたところ、土砂が崩れた。	30199	5	1～9
2014	12	12 ～ 13	溝掘削内にて、被災者が立ち入ったところ、溝側部の地山が崩壊し、上部にあったアスファルト塊及び土砂が被災者の腹部に落下した。	30110	5	1～9
2013	4	12 ～ 13	産業残土等の土捨て場において、労働者ら3名が、沈砂池へ水を流す排水管（1本：長さ5m×径0.8mの塩化ビニール管）を埋設し連結する作業を行っていたところ、隣接する盛土が崩壊し、2名（労働者1名、会社役員1名）が生き埋めとなり死亡した。尚、現場は、捨土が盛られた箇所を管理設のため、約1m程度の深さにドラグショベルで床掘りした場所で、周囲には捨土と掘削土が山状に盛ってあった。	30199	5	1～9
2013	1	9 ～	機械集材装置による集材作業において、被災者は先山で荷掛作業を行っていた。被災者からの合図がなくなったので、同僚が先山に行って被災者の様子を見てみると、保護帽を脱いで根株の下に腰掛けていた被災者	60201	2	1～9

		10	を発見した。同僚は、被災者の言動がおかしいので病院に搬送したところ、脳挫傷により死亡した。			
2013	9	9 ～ 10	国有林の治山工事において、被災者は平均角度53°の法面においてモルタル吹付ノズルの修正等のモルタル吹付補助を行っている際、ロリップを親綱に付けたままベルトのD環からロリップを外し、幅20～30センチメートルの小段を歩いていたところ約70m下に転落した。	30199	1	1～9
2013	6	14 ～ 15	杉の立木の伐倒作業において受け口切りを行っていたところ、立木の上方にあった岩がはがれ落ち、被災者後頭部を直撃した。被災者は、受け口切りをしていたチェーンソーに覆い被さるように倒れた際、当該チェーンソーで左肩から右脇腹にかけて切り、死亡した。	60201	4	30～ 49
2013	12	15 ～ 16	水道管敷設工事で、道路の埋め戻しのため溝を跨ぐ形でドラグショベルを後進させていたところ、歩道側の路肩が崩れ、横転したドラグショベルの運転席と歩道の縁石の間にはさまれた。	30110	1	1～9
2013	10	14 ～ 15	農業用水路の築造工事において、被災者は配管を埋設するために掘削した溝（深さ2m90cm）の内部で配管の接続作業をしていたところ、掘削溝の壁面の縁石が土砂と共に崩落、生き埋めとなった。	30110	5	1～9
2013	8	17 ～ 18	宅地造成工事現場において、1名がスコップ、もう1名が手持ち式はつり機を持って鋼矢板のそばで手掘り作業を行っていたところ、鋼矢板が傾き出して土砂が崩壊し、2名が生き埋めになった。手持ち式はつり機で作業を行っていた被災者は、その後救出されたが、死亡が確認された。	30199	5	1～9
2013	11	13 ～ 14	皆伐により伐採する山林現場において、被災者は伐倒木にワイヤーを掛け、集材機による集材作業に従事していた際、傾斜45度の斜面を34m転落した。	60201	1	1～9
2013	10	11 ～	市道改良工事現場で山側法面の掘削作業中、突出した支障岩を破碎薬を用いて破碎する際、バックホウを用いて飛散防止のため布製シートを岩に設置しようとしたところ、対象の岩の横でバックホウの運転手に指示	30106	1	10～ 29

		12	を行っていた被災者に石（約50センチ四方）が転がってきて、石と一緒に約13メートル下の市道路面に転落した。			
2013	4	14 ～ 15	一般県道の道路改良工事現場において、車両系建設機械のアタッチメントを交換したブレーカーを用いて、のり面の岩石の破碎作業を行っていた際、破碎した岩石を均すため当該車両系建設機械を後退させたところ、当該機械の履帯（クローラー部）が滑り、バランスを崩し、当該機械とともに作業道から転落した。	30106	1	1～9
2013	5	14 ～ 15	民家の造成工事において、民家の裏山部分を地面から高さ約4m掘削（勾配約80度）後、被災者は、この掘削した地山と民家の間に水路を設けるため型枠を組み丁張作業中、この掘削した地山が崩壊した。崩壊した土砂が被災者の下半身まで埋まり、転倒した際、ドラグショベルの排土板で頭部を強打し死亡した。	30109	5	1～9
2013	10	12 ～ 13	被災者は、山林内の松茸採取の作業を行っていたが、松茸採取を終えたため作業現場を離れようとしたところ、傾斜角約40度の山の斜面から約15メートル下に転落した。	60101	1	1～9
2013	11	10 ～ 11	伐木・造材・集材・木材輸送作業の現場において、作業道を延伸するため、被災者がドラグショベルに搭乗し、作業道終点から斜面を掘削していたところ、作業道の路肩が崩壊しており、ドラグ・ショベルが作業道より30m下方の谷に転落し、被災者がドラグ・ショベルの傍に倒れているのを発見された。	30199	1	10～ 29
2013	8	13 ～ 14	法面にラスを張る作業を行うにあたり、被災者が垂直親綱を設置し、法面を登っていたところ、法面上部の岩石が崩落したことにより、崩落に巻き込まれ、被災者は法面から落下し、最大直径約4メートルの岩石の下敷きになった。	30199	5	1～9
2013	12	14 ～ 15	森林伐採地で、傾斜角約30度乃至35度の作業場所で裾枝打作業（打高約1.5メートル）を行っていた被災者は、足を滑らせ、植栽区域外の無立木地を約70乃至80メートル墜落し、後頭部を強く打ち、死亡した。尚、保護帽は着用していたが、墜落時に何らかの原因で外れ、墜	60201	1	30～ 49

			落途中の約40メートル下の立木に引っかかって発見された。			
2013	4	12 ～ 13	建設中の自動車専用道のトンネル工事現場で、切羽周辺が崩落し、作業をしていた労働者1名が土砂に埋まった。	30102	5	30～ 49
2013	9	10 ～ 11	法面の吹きつけ作業を終了した現場において、吹きつけ作業で使用した親綱の撤去後、法面上部から林道に歩いて戻る途中、誤って約11メートル下の林道に墜落した。	30106	1	10～ 29
2013	2	22 ～ 23	トンネル上り線の出口付近にて、3名で支保工の設置のための位置決め作業を行っていたところ、坑口周囲の上部及横部の地山が滑るように崩落し、付近で作業していた3名を巻き込んだ。尚、坑口の周囲の地山は、土止め措置としてコンクリートが吹き付けられていた。	30102	5	10～ 29
2013	1	16 ～ 17	用水管付替工事現場において、縦3.4m、横2m、深さ約3mの大きさに掘削された穴の中で、1次下請業者の労働者が配管の付替え工事を行っていたところ、縦方向面の壁が崩壊し被災者に激突した。	30110	5	1～9
2013	8	11 ～ 12	林道の法面で、鉄筋を結束する作業に従事していた被災者は、仰向けに転落し死亡した。尚、作業時は安全帯をロリップに接続していたが、被災時はロリップから安全帯が外れていた。また、被災者は墜落時保護用のヘルメットを着用し、あご紐もしていたが、転落途中で脱げたものと推測される。	30108	1	1～9
2013	11	11 ～ 12	法面で親綱・ロリップを使用し、鍬を用いての人力による法面整形作業を行っていたところ、上方から落ちてきた10cm角の石が被災者の胸を直撃し、救急車搬送されたが死亡が確認された。	30108	4	10～ 29
2013	11	16 ～ 17	砂防堰堤工事の現場において、被災者は構築した型枠の中で確認の作業をしていたところ、脇の地山（高さ約10メートルの箇所）が幅約5メートルにわたって崩れ、崩落した土砂と岩石の下敷きとなった。	30108	5	10～ 29
		15	国有林内にある架空電線下の平均勾配約50度の斜面において、刈払機を使用して、成長すると電線の支障となってしまう幼齢木（径5cm未			

2013	6	～ 16	満)の刈払い作業中、作業が終了したことから、翌日以降、引き続き作業ができるよう、刈払機の刃を取り外して刈払機本体を地面に置いて斜面を移動したところ、何らかの事由によりバランスを崩し、約100m下の付近まで転落した。	60209	1	1～9
2013	5	～ 11	山地測量現場において、山林内の斜面で測量用具であるプリズムポールを保持する作業を行っていたところ、足下の地山(勾配50～54度)が崩れ、垂直高さ約27メートルの箇所から転落した。	170209	1	1～9
2013	4	～ 11 12	建物1階の床下部分に水がたまり、エレベーターピットに漏れ出ていたため、隣接するピットであったであろう箇所に穴をあけたところ水が噴出した。そこで、排水するポンプを設置し排水したが、ピットであったであろう箇所には硬い岩のような土砂が堆積しており、漏れ出ている箇所の確認ができなかった。おのため、電動ピックではつりながら掘り進めていたところ、土砂が崩落し下敷きとなった。	30309	5	10～ 29
2013	1	～ 10 11	マンション建設現場において、電気工事の下請事業者(3次下請代表)が、地下に電線を埋設するため、地面からの深さ1.5m幅1mの溝を重機にて掘削し、その溝内に自社の労働者を入らせ作業をさせていたところ、溝の側面が崩壊し、当該労働者が生き埋めになった。	30301	5	1～9
2013	6	～ 11	排水管設置のため地下排水溝の掘削碎石敷設作業中、掘削完了箇所に基礎碎石を投入するため、作業箇所にいた作業員が退避しようとしたところ、近接する切土法面が崩落し、被災者が土砂に巻き込まれた。	30106	5	10～ 29
2013	9	～ 13 14	道路の拡幅工事現場において、元請の作業員3名と1次下請の作業員4名、ほか作業員1名の合計8名により、既設のヒューム管補強のための型枠設置作業を行っていたところ、ヒューム管の南側の高さ約3メートルの地山(掘削により生じた掘削側面)が崩れ、被災者2名(元請1名、1次下請1名)が土砂に埋まり死亡した。	30106	5	10～ 29
2013	9	～	道路の拡幅工事現場において、元請の作業員3名と1次下請の作業員4名、ほか作業員1名の合計8名により、既設のヒューム管補強のための型枠設置作業を行っていたところ、ヒューム管の南側の高さ約3メートル	30106	5	100 ～

		14	ルの地山（掘削により生じた掘削側面）が崩れ、被災者2名（元請1名、1次下請1名）が土砂に埋まり死亡した。			299
2013	11	15	道路災害復旧工事現場において、法肩から約14～20m下（直高）の法尻付近で、作業員8名が土止め用のふとん籠の設置作業を行っていた。作業員8名は法尻の水路付近で午後の休憩を取っていたところ、休憩箇所上方の法面が崩落し、うち5名が崩落した土砂に巻き込まれ死亡した。	30106	5	100 ～ 299
2013	11	15	道路災害復旧工事現場において、法肩から約14～20m下（直高）の法尻付近で、作業員8名が土止め用のふとん籠の設置作業を行っていた。作業員8名は法尻の水路付近で午後の休憩を取っていたところ、休憩箇所上方の法面が崩落し、うち5名が崩落した土砂に巻き込まれ死亡した。	30106	5	100 ～ 299
2013	11	15	道路災害復旧工事現場において、法肩から約14～20m下（直高）の法尻付近で、作業員8名が土止め用のふとん籠の設置作業を行っていた。作業員8名は法尻の水路付近で午後の休憩を取っていたところ、休憩箇所上方の法面が崩落し、うち5名が崩落した土砂に巻き込まれ死亡した。	30106	5	100 ～ 299
2013	11	15	道路災害復旧工事現場において、法肩から約14～20m下（直高）の法尻付近で、作業員8名が土止め用のふとん籠の設置作業を行っていた。作業員8名は法尻の水路付近で午後の休憩を取っていたところ、休憩箇所上方の法面が崩落し、うち5名が崩落した土砂に巻き込まれ死亡した。	30106	5	100 ～ 299
2013	11	15	道路災害復旧工事現場において、法肩から約14～20m下（直高）の法尻付近で、作業員8名が土止め用のふとん籠の設置作業を行っていた。作業員8名は法尻の水路付近で午後の休憩を取っていたところ、休憩箇所上方の法面が崩落し、うち5名が崩落した土砂に巻き込まれ死亡した。	30106	5	100 ～ 299
2013	11	15	道路災害復旧工事現場において、法肩から約14～20m下（直高）の法尻付近で、作業員8名が土止め用のふとん籠の設置作業を行っていた。作業員8名は法尻の水路付近で午後の休憩を取っていたところ、休憩箇所上方の法面が崩落し、うち5名が崩落した土砂に巻き込まれ死亡した。	30106	5	100 ～ 299
2013	11	15	道路災害復旧工事現場において、法肩から約14～20m下（直高）の法尻付近で、作業員8名が土止め用のふとん籠の設置作業を行っていた。作業員8名は法尻の水路付近で午後の休憩を取っていたところ、休憩箇所上方の法面が崩落し、うち5名が崩落した土砂に巻き込まれ死亡した。	30106	5	100 ～ 299
			道路舗装工事現場において、被災者の姿が見当たらなかったため、現場			

2013	5	13 ～ 14	周辺を捜索したところ、現場付近の崖下約20mの海に転落しているところを発見された。尚、作業場所には仮設トイレ等がなく、被災者がトイレトーパーを持って転落箇所方向に移動しているところも目撃されていることから、排泄目的に現場から死角になる崖上に行ったものと推測される。	170201	1	10～ 29
2013	10	11 ～ 12	雑木の伐倒作業に従事していた被災者は、約40度のこう配の斜面を滑落した。被災者は斜面を滑り、作業道の端周辺に墜落した後、さらに14m転落し、岩場に頭部を激突した。	60209	1	1～9
2013	5	10 ～ 11	下水道の配管敷設工事において、被災者は深さ1.5m～1.9mの溝の中で、既設の水道管の位置の確認のため剣先スコップを使用して掘削作業中に、掘削法面が崩壊し、土砂に押され、姿勢を崩した時に被災者が持っていたスコップの柄が被災者の腹部にあたった。被災者は、立った姿勢で膝の高さまで埋まり、救助され病院へ搬送されたが、内臓の出血により死亡した。	30110	5	1～9
2012	1	10 ～ 11	マンション新築工事現場において、基礎工事における単管と木製足場板で構成された防護壁を設置する作業を行う際、掘削溝内で作業員2名が防護壁に足場板を重ねる作業を行っていたところ、隣接駐車場敷地内にあるフェンスの基礎コンクリート部及び基礎コンクリート下部の土砂が長さ約7.4m、幅約80cm、高さ1.66mにわたり崩壊し、作業員2名が土砂等に生き埋めになり1名が死亡、1名が負傷した。	30201	5	10～ 29
2012	7	5 ～ 6	豪雨の中、事業場の施設管理業務を担当している被災者は、上司からの緊急出勤命令により、自宅から事業場へ乗用車で向かう途上、国道で土石流に巻き込まれて溺死した。	130101	5	100 ～ 299
2012	10	9 ～ 10	砂防ダム建設工事において、法面途中の道の際にあった岩をブレイカー（車両系建設機械の作業装置を交換して、ブレイカーとしたもの）で割っていたところ、車両もろもと約30m下に転落し、車両の下敷きになり死亡した。	30108	1	1～9
		14	45度から50度の傾斜地で、ヒノキの幹に鹿被害防止用の枝条被覆をする			

2012	10	～	作業をしていた際、足を滑らせて傾斜地に沿って墜落したもの。墜落の高さは垂直にして約30mであった。	60201	1	50～ 99
2012	3	～	11 汚水管の布設のため、ドラグ・ショベルにて深さ2m以上の明かり掘削を行なった後、被災者が掘削溝内に入り排水ポンプ設置のため掘削溝底部を 12 10cm程スコップで掘っていたところ、側壁が崩壊し被災した。	30110	5	10～ 29
2012	5	～	9 住宅市街地総合整備事業におけるよう壁築造工事において、車両系建設機械で床掘した場所に被災者を入れ、スコップを使用して掘削面を調整 10 していたところ、L字型に隣接する法面（高さ約5m）が崩壊し、被災者が生き埋めとなった。直ちに救助し、救急搬送したが、搬送先の病院で頭蓋骨骨折、脳挫傷のため死亡した。	30110	5	10～ 29
2012	6	～	13 被災者は下水管を埋設する作業において、ドラグ・ショベルでアスファルト舗装の道路を深さ2.1m掘削した床の長さを計測するため掘削した溝 14 に入り、計測後に溝から出ようとした際、掘削した溝の片側の法面が崩落して頭部に崩壊した土砂等が当たり、脳挫傷により死亡した。	30110	5	10～ 29
2012	6	～	10 新設道路の法面に落石防止用の網を設置する工事で、アンカー材（鋼製、152cm、8.8kg）を施工場所に持って行くため法面を移動中、法肩 11 部から国道に転落した。	30199	1	10～ 29
2012	5	～	8 法面工事に伴う法面上部の立木伐採の際、当該立木がかかり木となったため、杉の小径木を用い「てこの原理」の要領で外していたところ、支 9 点になっていた箇所を外れた反動で、被災者は約40m下の道路上へ転落した。	30106	1	1～9
2012	2	～	10 国道維持管理工事で道路沿い崖の落石防護ネット（金網）を補修するため、高さ約11mの法面上で落石処理をしていた被災者が墜落し、死亡し 11 た。	30199	1	1～9
2012	4	～	10 高さ約8mの斜面上にある庭園において、有害鳥獣用防護柵の設置及び庭園の整地を被災者を含めた労働者3名で行っていた。被災者は、斜面上において前日までに刈り取られた草を収集していたところ、斜面上より約8 11	30199	1	1～9

			m下の地面に墜落した。			
2012	5	13 ～ 14	被災者らは、午前中にドラグ・ショベルでの掘削を終え、午後から溝の中に入り、掘削した溝の底をならす作業を終了し、樹脂製排水管を配置するため溝より出ようとしていたところ、溝の中央あたりで土砂が崩れ生き埋めとなった。なお、掘削の全長は約16m、幅約0.55m、深さは深いところで約2.6m、浅いところでは0.45mであった。	140301	5	100 ～ 299
2012	3	13 ～ 14	被災者は防火水槽を道路下に設置する工事において、深さ約4mに重機で掘った穴に土止めを設置しようとしていた。穴の底に降りて作業を開始したところ、側面の土砂が崩れ被災した。	30199	5	10～ 29
2012	1	16 ～ 17	間伐作業を行っていた被災者が墜落したもの。災害発生当日、元請労働者ら6名で作業を行っていたが、作業終了時刻を過ぎても被災者が集合場所へ戻って来なかった。被災者は翌朝、間伐現場の崖下（約80m）で死亡しているのが発見された。	60209	1	1～9
2012	1	13 ～ 14	被災者は林道沿いの電線に接触する等支障がある立木を単独で伐採していた。被災者の叫び声が聞こえ、現場監督らが急行してみたところ、被災者は斜面を約30m滑落していた。なお、安全带等墜落防止の措置はなかった。	30309	1	1～9
2012	9	9 ～ 10	被災者は携帯電話のアンテナの保守点検作業を行うため、一人で山中の登山道をアンテナ塔へ向かって歩いていたところ、当該登山道から最大斜度約35度の箇所を約1m滑落した。これにより背負っていた機材を自力では引き上げられなくなったため、携帯電話を使って事業主に応援を頼んだが、事業主の手配により現場に到着した同僚により、滑落した箇所より15mほど離れた場所で、膝をつきうつ伏せで死亡している被災者が発見された。	110101	1	10～ 29
2012	6	11 ～ 12	重機（ドラグ・ショベル）を積載したトレーラーで、山中の公道を走行中、迂回路から市道へ戻る合流地点で切り返しをしている際、道路脇斜面から落石があり、運転席部分の屋根を直撃し被災した。直撃した落石は、約60cm×約40cm×約30cmである。被災者は、レスキュー隊により	30106	5	30～ 49

			救出されたが、救急搬送前に死亡が確認された。			
2012	10	18 ～ 19	ダムへの乗り入れ道路である県道の打換工事現場において、被災者を含む作業員3名が、車両の退避場所で、自動車のヘッドライトで照らしながら、約10m四方のブルーシートを折りたたんで片付ける作業を行っていたところ、被災者は退避場所の端の崖から、約60m下の沢に転落した。	30106	1	10～ 29
2012	2	10 ～ 11	下水道管取替工事において、バックホーにて市道を開削工事中、約3m掘り下げた際、被災者は溝内に降り、下水管の状態確認作業を行っていたところ、掘削側面が崩落し、脳挫傷にて死亡した。	30110	5	1～9
2012	3	13 ～ 14	下水管及び汚水管の布設のため、幅が約2m、深さ約3mの溝状に重機を用いて掘削し、その後、被災者が床づけ作業のために掘削底に立ち入ったところ、側面が崩落し、胸部圧迫により死亡した。	30110	5	10～ 29
2012	6	11 ～ 12	落石監視員として監視業務を行っていた被災者は、街道直下を流れる川へ滑落し、救急搬送先の病院で死亡した。	170201	1	30～ 49
2012	6	10 ～ 11	伐倒木の搬送作業にて、被災者は機械集材装置の先柱（上部）側にて伐倒木の荷掛け作業を行っていたところ、作業場所下部の沢に転落した。なお、滑落した距離は約20mであった。	60201	1	1～9
2012	7	13 ～ 14	安山岩の採石場において、ベンチ部で発破で掘削した岩石をドラグ・ショベルで下に落としていた被災者は、ドラグ・ショベルとともに法肩から約100m下に転落した。	20201	1	10～ 29
2012	3	14 ～ 15	集材装置の架線の張り替え作業中、法面の立木の脇に束ねて置いていたワイヤーを解き、滑車を持って移動していたところ、雪で足を滑らせて作業道に滑落し、死亡した。なお、被災者が滑落した個所（直高10m以上）は傾斜角が約35度であった。また、被災当日、被災者が移動していた場所には雪が積もっていた。	60201	1	1～9
2012	7	11 ～	法面からの落石等を防止するため、親綱にロリップを掛けて法面上方から下方に向かって保護ネットと固定用ワイヤーを結束する作業を行って	30199	1	30～

		12	いた際、親綱が短く法尻から約15mの高さの位置で途切れていた状況のまま作業を行ったところ、墜落した。			49
2011	12	10 ～ 11	水道管敷設作業において、地山を深さ約2メートル、幅約1メートル、長さ約8メートルにわたり、開削方法で掘削中、側面が崩壊して被災者が土砂に埋まったもの。	30201	5	1～9
2011	2	15 ～ 16	本工事において布設した污水管が設計どおりの位置となっていなかったことから、再度ドラグ・ショベルと人力にて掘り起こし、污水管の位置の調整作業を行っていた。污水管の位置の調整が終了したため、深さ1.7mまで埋め戻し、土止め支保工を撤去した。その後、被災者2名が土止め支保工のない掘削溝の中に立ち入ったところ、地山が長さ約3.5m、幅約60cm、高さ約1.7mにわたり崩壊し被災した。	30199	5	10～ 29
2011	4	12 ～ 13	林業事業場の集材土場にて発生した災害で、集材土場を造るため被災者が地山の掘削をドラグ・ショベルにて行っていたところ、ドラグ・ショベルの足元の作業道（最大幅員5m）の路肩が幅4mに渡って崩壊したため、被災者はドラグ・ショベルと共に推定70m転落し、転落後のドラグ・ショベルから東に10.2m離れた位置で発見された。被災者は病院に搬送後、死亡が確認された。	60201	1	1～9
2011	4	15 ～ 16	山中の小川から水を民家の貯水タンクへ引くため直径20ミリメートル、長さ120メートルのパイプ7本（840メートル）とため池用ポリタンク（100リットル）を設置する工事において、被災者は、山中にポリタンクを設置するために使用するセメント袋（約6キログラム）を抱えて、山の斜面を歩いて移動していたところ、約10メートル下の谷へ墜落し、被災したもの。	30110	1	1～9
2011	1	14 ～ 15	被災者は、森林の間伐作業に従事していた。林道沿いの傾斜43度の斜面上で伐木材を玉切り作業中、玉切材とともに高さ約5.7mの斜面上から林道まで滑落し、約1時間後に病院へ搬送されたが、出血多量により死亡したものである。	60201	1	50～ 99
			林道の開設工事において、被災者が地山斜面上部の幅40～60cmの			

2011	10	15	小道を移動中、バランスを崩し約14m下の作業道上に転落した。地山	30106	1	10~
		16	斜面は先行伐採が完了していたが、掘削前の状態であり、斜面のこう配			29
			は62~72度であった。(被災から14時間半後、出血性ショックにより死亡した。)			
2011	7	16	法面の落石防護工事でモルタル吹付の前に、法面の草木浮石等を取り除	30199	5	1~9
		17	く作業を行っていた。小規模な崩落があったため、崩壊箇所にネットを			
			張った後法面の清掃作業を再開したところ、作業場所の上部(高さ約2			
			7m地点)から広範囲にわたり崩落が発生し、被災者が崩落した土石に			
			巻き込まれたもの。被災者は約2時間半後に発見されたが既に死亡して			
			いた。			
2011	4	10	河川の砂防工事現場で、竣工写真を撮影等の業務に従事した被災者が、	30199	1	10~
		11	布団籠設置状況が見下ろせる堤防上(高さ約4.3m)で写真撮影後、			29
			法面下部で布団籠の埋め戻しのため土砂の運搬を行うため後進してきた			
			2tトラックの左後輪に上半身を頭部から敷かれ心臓破裂により死亡し			
			たもの。(写真データ記録時刻、緊急電話記録、同僚の直前の目撃情報			
			より傾斜約36度の斜面を転落したとき轢かれたと推定)			
2011	7	14	被災者は、排水管を敷設してマンホールに繋ぐ箇所をドラグショベルで	30201	5	30~
		15	深さ約1.6m、幅1.1m掘削した。被災者は、排水管敷設のため、			49
			この掘削した溝に入り底の整地作業している時、南側の土壁(約2立法			
			メートル)が崩れ、ヘルメットの頂点が見える状態で頭まで土砂に埋			
			まった。			
2011	5	10	ケヤキの伐採作業中、ケヤキが株立ち状に4本が繋がっていたため、約	60201	4	10~
		11	1.5m根元を残し伐採を行っていた。このうち3本の伐採が終わり、			29
			残る1本の伐採を行った所、伐採と同時に作業箇所上方(斜面上約4			
			m)からの落石(最大直径1m)が発生し被災者の背中に激突し、伐倒			
			木の切株との間に胸部を挟まれたもの。病院に搬送されたが、約11時			
			間半後に死亡したものである。			
			道路の土砂崩れしている箇所の改修工事において、災害発生当日の午前			

2011	10	14 ～ 15	中に改修工事が終了し、午後から後片付けのため林道内に置いていた原付バイクを林道入口の重機置き場まで運んでいる最中に、林道横の崖から転落し、その後ヘリコプターで救出され病院に搬送されたが、脳挫傷により死亡したもの。	30106	1	1～9
2011	9	5 ～ 6	台風の豪雨で近くの山で土砂崩れが発生し、建設業寄宿舍内にいた被災者が土砂崩れに巻き込まれた。土砂に埋もれていたところを救助されたが、死亡したもの。	80209	5	
2011	1	14 ～ 15	被災者は地山崩壊防止設備の設置工事を、法面（約40度～55度）でロリップを使用して行っていたが、何らかの理由（調査中）でロリップを外したか外れたかしたため約2.5m法面を滑落し、法面端の垂直壁（約85度）から約5m下の林道に墜落したもの。	30108	1	1～9
2011	3	15 ～ 16	発電所付近の立木伐採工事完了後の現場において、施工箇所下部の道路側溝にて発見され、死亡が確認された。	30199	1	10～ 29
2011	9	17 ～ 18	事前に積まれていた盛土上において、4台のドラグショベルを使用して、土砂の搬入作業を行っていた際、被災者が運転していたドラグショベル周辺の盛土が崩壊し、ドラグショベルごと盛土より転落し、土砂に埋まったもの。	170209	5	10～ 29
2011	1	13 ～ 14	住宅の造成地において、被災者を含む作業員5名は、敷地内に公道に通じる道路を造るため、隣人宅の擁壁に接する埋土を掘削する作業を行っていた。ドラグショベルで1m程掘削して、土の深さを測量していたところ、擁壁が割れて、その一部（上部厚さ15cm、最大高さ1m60cm、長さ4m25cm）が倒壊して、掘削箇所に入り込んでいた被災者が、擁壁の角と土塊との間に左胸などを挟まれたもの。	30202	5	1～9
2011	12	13 ～ 14	被災者は、手鎌を用いて養豚場敷地内の草刈り作業を行っていた。被災場所である石積みの上の法面の草刈り作業を行っていたところ、5.8メートル下の小川に墜落し、小川内の石に頭部をぶつけ被災した。	70101	1	1～9
			ドラグショベル及びダンプトラックを使用し、採石場ベンチ上におい			

2011	5	10 ～ 11	て、岩石積み出し作業中、ベンチ上で場所を移動しようとした、ドラグショベルとともに高さ15メートル下のベンチに転落し、全身を打撲し死亡したもの。	20201	1	10～ 29
2011	10	10 ～ 11	既存の建物（地階部分）の解体工事にて、クローラドリルで床面のコンクリートの穿孔作業を行っていた被災者の後方の土砂が崩れ、生き埋めになったもの。	30199	5	1～9
2011	2	13 ～ 14	植樹用の苗木を被災者と同僚の2名で山の中を探していた際、「わー」という声と滑落音を聞いた同僚が、被災者の様子を確認しに近づいたところ、湖面で溺れている被災者を発見した。同僚が被災者を救助したところ息をしていなかったため、心マッサージを行ったが、蘇生しなかったことから、助けを呼びに無線機のある車まで山道を戻り、事務所へ救助を求めた。被災者はヘリで県立総合病院へ搬送されたが、死亡が確認された。	120109	10	1～9
2011	9	18 ～ 19	同僚が台風の影響により荒廃した治山工用道路の復旧作業中に、トラクター・ショベルごと路肩を乗り越え崖に転落した事故を自宅にいた被災者が、同じ会社に勤める妻からの連絡により知り、現場に駆けつけて、既に亡くなっていた同僚の搬出作業が消防署の職員等により行われている中、現場付近の当該工用道路路肩から44度の勾配の斜面を下りて行ったところ、約2m降りたところで転倒し、そのまま崖下に転落した。	30106	1	30～ 49
2011	9	13 ～ 14	被災者は外注の仕事を依頼するために、製品（タイル3600枚）を会社が所有する車に積み込み、町内の工場から別の町内にある加工場に向かう途中で消息を絶った。翌21日午後3時45分頃、町内にて発生した土砂崩壊現場において、土砂崩壊に巻き込まれた状態で埋まり潰された車が発見され、その中で死亡しているところを発見されたもの。	10903	5	30～ 49
		13	林道脇の法面（高さ20～30m）にコンクリート等を吹き付けて補強する工事現場において、事前に、法面の成形（浮き石等の除去）作業を			

2011	5	～ 14	行っていたところ、上部の岩盤が突然崩壊し、崩壊した岩盤（幅約2 m程度）が被災者に衝突し、その衝撃により、上部で固定していた命綱のロープも切断され、岩盤とともに地面に墜落した。被災者は、墜落した地面で落石の下敷きとなり死亡したものの。	30199	5	10～ 29
2011	2	～ 17	工事中において、林道下方の法面に植生基材の吹付けを1人で行っていた被災者が、吹付材の圧送終了後30分位しても林道脇の吹付プラントが設置された場所に戻ってこなかったため、別の作業員が様子を見に行っていたところ、当該工事の施工範囲より上方の既設の簡易法枠のコンクリート製水路に血を流して倒れていたもの。	30108	1	50～ 99
2011	10	～ 11	砂防の工事用軌道沿線上の落石防止対策工事現場において、工事用資材置き場に使用していた作業構台の解体作業中、斜面上で解体した建地材（鋼管パイプ）を荷揚げしていた労働者が足を滑らせて約30 m下に転げ落ちた。	30108	1	1～9
2011	5	～ 10	雨水貯留ますの深さを変更するため、雨水貯留ますの横を、幅約2.6 m、深さ約2.5 mでバックホーを使用し掘削作業中、土砂が崩壊し、掘削溝の中にいた被災者に土砂が直撃したものの。	30199	5	30～ 49
2011	12	～ 10	9 森林管理道開設工事現場において、山側斜面補強のためのコンクリート擁壁を設置するため、元請現場代理人及び下請作業員3名の計4名により、前日までに掘削した掘削溝でコンクリート壁の設置作業を行っていたところ、山側法面が高さ約12メートル、幅約13メートルにわたって崩壊し、掘削溝内（深さ約2メートル）で作業をしていた3名が土砂に生き埋めになったもの。	30106	5	10～ 29
2011	4	～ 18	17 市内での出張作業を終えて、市外の会社事務所に戻るため、県道を車で走行中、午後5時16分に起きた「東北地方太平洋沖地震」の余震（最大震度6弱）によって発生した土砂崩壊に巻き込まれたもの。	30309	5	1～9
2010	12	～ 12	11 研修センター内の斜面の草刈り作業を刈り込み鋏を用いて行っていたところ、足を滑らせ高さ2.3 mの斜面を転落した。	10104	1	100 ～ 299

2010	11	10 ～ 11	<p>車庫建設の土台となる土地を改良するため、ドラグショベルで掘った3. 1 m×2. 6 m×2. 3 m（縦横深さ）の中に2名で入り、穴の角を出すためツルハシで手掘りしている時、約2 m離れた場所の土砂が崩壊し、足をすくわれ転倒し、肩・胸・腰を骨折した。崩壊した土砂は約0. 5立方m程度であり、土砂は両足の膝下部分のみにかかっている感じであった。</p>	30199	5	1～9
2010	11	12 ～ 13	<p>下水管の布設作業中に発生した災害。被災者は、幅1 m、長さ4 m、深さ2. 5 mに亘って掘削された箇所に立ち入ったところ、土砂が崩壊し被災したものである。土留めは行われていなかった。被災者は床ならしのため、掘削箇所に立ち入ったものと思われる。</p>	30110	5	1～9
2010	11	15 ～ 16	<p>建設予定地で埋蔵文化財試掘調査のため幅2 m、深さ2 m、長さ20 mを重機で掘削した後、掘削場所でじょれん・スコップによる調査面を平準にする作業を行っていたところ、前日の大雨により表層の採石層が緩み、開削した部分の側壁の土（約5立方m）が崩壊し被災したものの。崩壊防止がなされていなかった。</p>	30109	5	1～9
2010	10	14 ～ 15	<p>下水道管の敷設工事現場において、塩ビ管（長さ4 m、径150 mm）を設置するために幅1. 17 m、長さ10. 40 m、深さ約3 mに掘削した地山において、地山の一部が崩壊し中に入っていた作業員1名が生き埋めになり死亡したものの。災害発生時、土留め支保工（縦ばりプレート及び軽量鋼矢板）は準備されていたものの、設置する前だった。また、この時に救助を試みた他の作業員1名についても一時生き埋めになり負傷した。</p>	30110	5	10～ 29
2010	10	10 ～ 11	<p>民有林の間伐事業において、長期に未使用であった林道を再び使用するため林道上に張り出している立木（杉）の枝を除去する作業を行っていた。被災者はグラップルを運転し、同僚はグラップルの爪の間に乗りチェーンソーを用いて高さ4. 2 mの箇所の枝打ち作業を行っていた。その際、林道の石積みの路肩の強度が不足していたため崩壊し、グラップルもろとも約35 m転落した。被災者は運転席から投げ出されて死亡し</p>	60201	1	10～ 29

			た。同僚も、転落した際に受傷した。			
2010	8	8 ～ 9	被災者が自走式草刈機を使って草刈作業中、平均傾斜角28度の斜面で 転落し、U字側溝の角に頭部を強く打ちつけたものと推定される。負傷 後に当該現場から100m程離れた場所に座しているところを同僚作業 員に発見されたもの。頭痛や歩行困難等の状況があったことから、病院 に搬送したが頭部の負傷により死亡した。	140101	1	10～ 29
2010	8	16 ～ 17	林道建設予定地の山林を測量中の作業員が移動中に、体勢のバランスを 崩す又は足を滑らす等により、斜度45度から60度の斜面を約30m 滑落し、頭部等を強打し死亡したもの。	30106	1	30～ 49
2010	7	11 ～ 12	災害復旧工事用の仮設道路建設のため、ブレーカにて法面の浮石を破碎 中に、浮石が滑落し、ブレーカのキャビンに飛び込み、運転していた被 災者の足に激突した。その後、病院に搬送されたが6日後に死亡したも の。	30106	4	50～ 99
2010	7	9 ～ 10	復旧治山工事現場において、堰堤補修工事を行っていたところ、突然地 山の法面が広範囲に崩壊し、その下で作業中の労働者が避難できずドラ グショベルもろとも生き埋めとなり2名が死亡した。法面は風化等によ り不安定な状態となっており、ブレーカーの振動等の外的要因が加わっ て崩壊したとみられる。	30107	5	10～ 29
2010	7	9 ～ 10	復旧治山工事現場において、堰堤補修工事を行っていたところ、突然地 山の法面が広範囲に崩壊し、その下で作業中の労働者が避難できずドラ グショベルもろとも生き埋めとなり2名が死亡した。法面は風化等によ り不安定な状態となっており、ブレーカーの振動等の外的要因が加わっ て崩壊したとみられる。	30107	5	10～ 29
2010	7	9 ～ 10	林道工事における床掘りの測量（丁張り）作業中、背後の山側の地山が 崩壊し、岩盤の一部が被災者に激突し、病院に搬送中、死亡したもの。	30106	5	10～ 29
			砂防工事現場において、前日の降雨で河川が増水し、仮橋の護岸が侵食 されたことから、被災者と作業員の2人で移動式クレーンを使い、コン			

2010	6	9 ～ 10	クリートブロックを用いて護岸を補強する作業を行っていた。被災者がつり荷を誘導しようと、護岸の斜面を降りて移動した際、乗っていた石（最大直径約85cm、重量約300kg）が増水により不安定になっていたため、被災者が石とともに滑落して、約1.8m下の川岸に転落し、胸を打ち死亡したもの。	30199	1	30～ 49
2010	5	10 ～ 11	放水路トンネル工事現場の作業用トンネルの工事において、坑口より約300m地点の切羽左肩側（高さ約4m）が肌落ちし、崩れた岩石が切羽内で作業していた被災者に当たったもの。被災者は切羽内でロックボルトの位置をマーキングする作業を行おうとしていたと推定される。なお地質は亀裂が細かい泥岩であった。	30102	5	100 ～ 299
2010	5	14 ～ 15	当該事業場が所有する山林において、間伐作業を1人で行っていたが、夜になっても家に帰ってこないため、現場へ探しに行ったところ、間伐作業をおこなっていた場所付近の斜面を転落して死亡しているのを発見された。伐木・玉切りなどの作業中に足を滑らせて斜面を転落したとみられる。	60201	1	1～9
2010	5	10 ～ 11	ポケット式落石防止ネットの設置工事において、法面にアンカーを打つ位置をマーキングする作業中に、滑落した。被災者は、6日後に死亡した。安全帯等を使用していなかった。	30106	1	10～ 29
2010	5	9 ～ 10	被災者は約45度の傾斜地でチェーンソーを使用して杉の伐倒作業に従事し、事業主は伐倒作業箇所の約24m離れた山手側の上方で、林業用つかみ機に取り付けてあったウインチを使って、被災者が伐倒中の木に胴巻きしたワイヤーを巻き上げていた。伐倒後もチェーンソーの音が消えなかったため、事業主は不審に思い、伐倒作業箇所に駆けつけたところ、作業箇所から約3m下手の沢に被災者が仰向けに倒れていた。被災者の山手側の上方にあった切り株にワイヤー等が触れる等の原因により落下し、被災者に激突したとみられる。	60201	4	1～9
2010	4	14 ～	試掘調査作業中、深さ約2m、幅約1.8mの開削内で掘削面の崩壊防止措置を講じないまま整地作業を行っていたところ、掘削面が崩れ生き	170209	5	10～

		15	埋めとなった。救出し、病院に搬送したが死亡した。			29
2010	4	12 ～ 13	間伐作業中、午後の休憩になり、休憩場所に被災者が、戻ってこなかった。同僚が捜しに行ったところ、約3m上の石が落下し、その石に胸部を挟まれている被災者を発見したもの。	60209	4	1～9
2010	3	15 ～ 16	長さ約8m、幅約5m、深さ約5.5mの掘削溝内で、3名が配管取替作業していたところ、掘削面が崩壊し1名が死亡した。降雨により地盤が緩み、有効な土止め支保工をしていなかった。	30199	5	1～9
2010	3	13 ～ 14	午前中に被災者は所定の駐車場所に車を止め、駐車場所から災害発生地方向へ徒歩で移動。刈払機及び手ノコを用いた下刈の作業を行った。昼食後、崖の端部に立ち上がった際に足を踏み外し、約100mの距離を滑落。頭部をうち即死したもの。なお、被災者は、滑落の危険が存在する崖の端部に立ち入っているが、作業を行う上でその必要はなかった。	60209	1	1～9
2010	2	9 ～ 10	8カ月前に間伐した杉材の搬出作業現場において、約300m離れた山中の現場から無線機を使用して被災者が、ウインチの巻上げ指示をした後連絡が途絶えたため、土場にいた同僚が現場を捜索したところ、作業現場の斜面下約5.3mの所で倒れている被災者を発見し、救急車で病院に搬送したが死亡したもの。	60201	1	10～ 29
2010	2	13 ～ 14	災害復旧治山事業に係る山腹への土止壁設置工事において、被災者は積上げた土止ブロック面に取付けたブラケット足場（高さ1.5m）上でブロック間の目地をブラシで掃除していたところ、山腹上方からの落石に跳ね飛ばされるかたちで足場から落下し、首と内蔵の損傷等により死亡したもの。落石した岩は作業箇所より上方100m付近と推測されるが場所の特定はできず。落石した岩の寸法は最も大きなもので60cm角である。	30199	4	10～ 29
2010	2	16 ～ 17	山間地を調査中に約20m下の沢に転落し、後頭部を強打し死亡した。	80109	1	50～ 99

2010	2	13 ~ 14	老朽化した配水管の代わりに新しい配水管を敷設する工事において、既存の配水管の位置を測定する必要があるため、幅1.14、長さ4.0、深さ2.6mを掘削し、既存の配水管がどの方向に伸びているか調べる作業をしていた。被災者は掘削してできた溝の中に入り発信器を配水管に近づけて出力の調節をしていたところ、溝内の山側の地山1.4×3.05×0.4mが崩壊し、土砂が被災者の上に落ちてきて生き埋めとなった。	30110	5	1~9
2010	1	14 ~ 15	スギの間伐のためチェーンソーを使用して伐倒作業を行っていたところ、伐倒木から約4m離れた箇所にあるスギにかかってしまったので、かかり木処理するために元玉切りを行っていたところ、足を滑らし、作業位置から約10m下の谷へ墜落したとみられる。	60209	1	1~9
2009	9	9 ~ 10	民家裏の予防治山工事（山腹崩壊危険地の崩壊を防止するためのもの）現場において、高さ2.6m、掘削勾配78度の砂岩層の地山をドラグ・ショベル及びピックハンマーで掘削後、ドラグ・ショベルで掘削した土砂を寄せていたところ、ドラグ・ショベルの前方の掘削面の地山から岩塊が崩れ落ち、地山の下方にいた被災者を直撃した。	30108	5	10~ 29
2009	2	8 ~ 9	道路改良（舗装）工事において警備業務に従事していた被災者は、当日の強い風雨に対し工事用看板を道路脇の柵（単管パイプ）に固定するため、当該柵を乗り越え固定していたところ、何らかの原因で2.6m下の川（水深約25cm）に転落し、同僚に発見された。	170201	1	30~ 49
2009	2	11 ~ 12	排水溝設置工事現場において、道路脇を幅120cm、深さ103cm、長さ730cmに明かり掘削した溝の中で、被災者2人が地均しを行っていたところ、法面が幅280cm、奥行40cmにわたって崩れて、さらに法面上方に重ねて置かれていたコンクリート製の側溝とコンクリート板（総重量約1t）が落下して被災者に激突した。	30110	5	30~ 49
2009	3	10 ~	木造建築の改築工事に付随しブロック塀を施工する工事で、コンクリートブロックを積む作業を塀の外側で行っていたところ、幅72cmの敷地の端から、高さ2.2m下のコンクリート舗装された別の敷地に墜落し死亡し	30202	1	1~9

		11	た。			
2009	1	6 ～ 7	災害当日、被災者が20tトラックで荷物を運送途中、被災者から会社へ道路（幅約2.5m）上でトラックの後輪が脱輪した旨の電話連絡があった。2時間20分後、トラックが脱輪した道路上を散歩していた者が脱輪箇所から約600m上流の道路の下方約6mにある川に転落していた被災者を発見した。その後、被災者は医療センターへ搬送されたが、被災当日死亡した。	40301	1	30～ 49
2009	1	14 ～ 15	農業用機械の修理担当である被災者は、機械修理のため山の裾野にある顧客の農業倉庫へ向かう途中、上り坂で足が滑り転倒した。後日、被災者が倒れているところを顧客に発見された。	80209	2	1～9
2009	3	9 ～ 10	山林の間伐作業のため、作業道を開設しようと伐開作業を行っていた被災者が、山の斜面（勾配約42度）において、ある木をチェーンソーで伐倒後、少しバックして移動しようとした際、足を滑らせ斜面を約20m墜落した。被災後、被災者は治療を続けていたが、後日、死亡した。	60209	1	1～9
2009	8	14 ～ 15	道路から約25m下を流れる河川に倒れた根株を上げるため、クレーン機能付ドラグ・ショベルのクレーン機能を使って引上げ作業中、急斜面で玉掛けワイヤロープの掛け替え作業を行っていた被災者が、約20m下の川床へ転落した。	30199	1	10～ 29
2009	9	14 ～ 15	落石防護ネットの取り付け作業において、道路面から高さ約20mの斜面に設置されたアンカーの位置まで資材を引き上げる作業中、斜面で足を滑らせ道路まで墜落した。	30199	1	1～9
2009	5	14 ～ 15	谷止め堰堤工事において、掘削法面下でポイント出し作業中、被災者が法面に向かってしゃがみこんで作業を行っていたところ、斜面の高さ約1.1mの位置にあった岩石（長さ約1.3m×幅約0.5m×厚さ約0.4m）が落下し、被災者を直撃した。	30110	4	1～9
		7	山林内において、被災者を含む5人で杉の集材作業を行う予定であった。被災者は、山中に切り倒してある杉の原木を機械集材装置に玉掛けする			30～

2009	2	8	～	作業を行う予定であったため、一人でその場所まで作業道を歩いて移動していたところ、道中で足を滑らせ、法面長さ4.0m（高さ3.5m）の斜面を転落し、下の沢にあった石に身体を強く打ちつけた。	60201	1		49
2009	10	9	～	10	伐木作業を行うため、作業場所に向かって法面上部の山中を移動中、法肩部から19.1m下の道路に墜落した。	30199	1	1～9
2009	8	9	～	10	ドラグ・ショベルを用いて山を掘削している時、掘削面が崩壊して代表者を含む2人が土砂に埋まり死亡した。	30199	5	1～9
2009	2	11	～	12	水路内法面を肩掛草刈機にて除草中、何らかの理由で水路に転落し、下流1km程流され、トンネル内から翌日発見されたが既に死亡していた。	30110	1	1～9
2009	2	10	～	11	工事現場内における傾斜角度48度の斜面において、作業者がヤシマット（約30kg）の運搬作業をしていたところ、同斜面から約100m墜落した。なお、作業者は安全帯取り付け設備があったが安全帯を使用せずに作業していた。	30108	1	10～ 29
2009	8	11	～	12	高さ約20mある法面の測量作業において、法面の上部の平らな部分で測量値のメモをとっていた被災者は、20m下の法面と法面を覆う金網の間に転落した。	170209	1	10～ 29
2009	10	11	～	12	崩壊地対策工事現場（平均勾配45度、最急勾配60度）において、一次下請事業場の作業員5人が、ほぼ横一列に並んで地上（川面）から約130mの高さの位置で、法面清掃作業（親綱に身体を固定した状態で、主として手作業により、法面の転石や浮石を払い落したり、草を抜いたりする作業）を行っていたところ、突然、岩塊（縦横約10m程度）が崩落し、5人のうち途中で作業を行っていた3人が死傷した。	30108	5	1～9
2009	5	12	～		道路上に災害発生当日午前中に落石が発生、道路復旧のため、既存の落石防護ネットの端からネットのない部分に防護ネットを張る作業にあたった5人のうち、1人が落石に巻き込まれ死亡した。当時、人の頭大の	30106	5	10～

		13	石約20個が落石しており、落石発生元は被災場所上方約80mに位置する古道の石垣等である。			29
2009	11	9 ～ 10	落石防止のための法面保護工事を行う現場において、アンカーを打つ削孔機の移設作業を斜度52度の法面上で行っていたところ、同作業箇所から法面上を約80m転落した。同作業は2人作業で行われていた。墜落防止措置としては法面上に親綱が設置され、他の1人はロリップにより安全帯を使用していたが、被災者は安全帯を腰に着用していたが被災時にはロリップを使用していなかった。	30199	1	10～ 29
2009	9	15 ～ 16	既設の鋼管杭を撤去するため、鋼管杭の周囲を掘削し簡易矢板を打ち込んでいたところ、掘削内に湧水がたまったため排水ポンプで排水していたが、ポンプに砂が詰まるのを防ぐため被災者がポンプの周りの砂を取り除いていたところ、矢板の打っていない掘削面が崩壊した。	30107	5	1～9
2009	7	11 ～ 12	法面の吹き付けモルタル補修作業中、親綱にロリップを取り付け安全帯を掛けて法面を移動中、高さ約12mの箇所から墜落し河川に浮いている被災者を同僚が発見した。病院に搬送されたが、死亡した。なお、被災者を救助した際、親綱はアンカーに2点固定されており、また、親綱ロリップに安全帯を掛けたままの状態であった。	30199	1	50～ 99
2009	11	15 ～ 16	除伐用刈払機を用いて除伐作業を行っていたところ、足を滑らして約30m滑落し、そこに除伐用刈払機が落ちてきて、刃が被災者に接触し死亡した。	60209	1	1～9
2009	10	11 ～ 12	高さ約10mの位置で切土の人力切り崩しの作業中、伐開木があり、それを落とす時に墜落した。	30108	1	1～9
2009	10	10 ～ 11	被災者を含む3人が、治山工事現場において山林の斜面の伐採作業を行っていた。被災者は、斜面の途中にある農業用水路の溝内（深さ90cm弱）において、伐採した樹木の枝うち作業を行っていたが、約8m下の林道脇に転落した。	30108	1	1～9

2009	7	15 ～ 16	寺院の境内において、作業員4人で庭の石積み上で植木の手入れ作業をしていたところ、1人が高さ約6mの場所から転落した。	60101	1	1～9
2009	4	17 ～ 18	採石場の急斜面にて、測量及びくい打ち作業を行っていた測量会社の作業員が現場事務所に戻る際、約70m下に滑落し死亡した。	170209	1	1～9
2009	1	15 ～ 16	水源林整備のための業務が終了し、下山して林道に停車させていた車に戻る途中、マーキングした通常の下山経路から外れて山中を進み、崖から約60m下に転落した。	60209	1	10～ 29
2009	10	9 ～ 10	ずい道現場の切羽先端において、ドラグ・ショベルで掘削した脇に残った下部の土砂を手作業で掘削していたところ、切羽の土砂（約20立方m）が崩壊し被災した。その後救急搬送された病院において翌日午後死亡した。	30102	5	30～ 49
2009	12	9 ～ 10	側溝を敷設するためドラグ・ショベルで幅約1m、深さ約1.5mの溝を掘削していたところ、地山が崩壊し法肩に仮置されていたコンクリート製の溝（重さ1070kg）が落下し、溝内で床付作業をしていた被災者を直撃し、身体をはさまれた。	30199	5	10～ 29
2009	11	8 ～ 9	県災害防止工事（法面工）において、老朽化した既設モルタル吹付面の取壊し作業のため、安全帯を取り付けるための親綱を法面上部の立ち木に取り付ける作業中、約18m墜落した。	30106	1	10～ 29
2009	3	8 ～ 9	8時頃からグリーン芝刈り作業を被災者一人で芝刈り機を用いて行おうとしたところ、グリーン脇の池に芝刈り機とともに転落し、おぼれた。	140301	1	50～ 99
2009	6	9 ～ 10	傾斜50度の山林での杉・檜の間伐作業において、直径約20cm、長さ3～4mの玉切材を山側から谷側へ人力で木落としする現場で、同僚が斜面を登ったところ、被災者が堰堤上に血を流して倒れていた。なお、同僚が最後に見た被災者の位置は堰堤から約4m上の山側斜面であった。	60201	1	1～9

2009	12	13 ～ 14	重機オペレーターである被災者は、採石場でドラグ・ショベルを操作して掘削し、ダンプに積み込む作業を行っていた。重機内で昼食休憩中に便意を生じ、掘削した地山近くで排泄しようとしたところ、地山が崩壊し、土砂に埋もれた。	20202	5	10～ 29
2009	2	11 ～ 12	基礎杭の周囲をドラグ・ショベルで掘削後、地表から深さ約2.5mの箇所で杭の周囲の隅部等をスコップを使い掘削していたところ、幅約7.2m×高さ約1.5m×奥行約0.5mの土砂が崩壊し、その土砂に押され杭に激突した。	30201	5	10～ 29
2009	9	15 ～ 16	下水道工事現場において、簡易土止めのパネルを設置する作業中、被災者は掘削した溝の法肩部分に立っていたが、立っていた部分が崩れ、崩れた土砂とともに溝内（深さ約3.5m）に転落し、崩れた土砂に埋まった。	30110	5	1～9
2009	7	10 ～ 11	被災者はドラグ・ショベルを運転し集材道を設けるため、勾配約32度の斜面に道付けをしていたところ、作業道が崩壊してドラグ・ショベルとともに50.5m転落し、被災者は運転室内で身体を内装物にはさまれた。崩落した箇所は、岩混じりの砂質様の土砂で、長さ約19m、幅約2.3mであった。	60201	1	30～ 49
2009	1	21 ～ 22	被災者含め4人は、切羽上半部の発破作業のため、ドリルジャンボを使用し、穿孔、火薬の装てんを終え、被災者が切羽下端部の結線作業を行っていたところ、切羽上方約4mから岩塊（重量約360kg）が肌落ちし、被災者を直撃した。	30102	5	10～ 29
2008	8	10 ～ 11	被災者と上司は斜面上にあるパイプの補修作業をするために、切断されたパイプの上方にある倒木の枝打ち作業を開始した。上司は、被災者が枝打ちした枝等を斜面下方を向いて束ねていたところ、斜面上方から「ザザッ」という音がしたため、とっさに下方に移動して振り返ると、斜面下方にある沢に墜落した被災者を発見した。被災者は病院に搬送されたが死亡した。	70101	1	1～9
		14				

2008	1	15	河川の災害復旧護岸工事で被災者が石積みの裏丁張りを設置するために天端法肩にいたとき、足元の地山が崩れて4.4m下に墜落した。	30107	5	10～ 29
2008	1	15 ～ 16	地山傾斜約50度の急斜面で除伐作業を行っていたところ、約16m崖下に転落した。	60209	1	10～ 29
2008	2	16 ～ 17	地すべり防止工事において、傾斜48度の斜面にポリエチレン製の排水管（直径30cm、長さ5m/本）を65m（13本）に渡り設置する作業を作業員3名で行っていた。上部より下方に設置作業を進めて12個目の配水管を接続していたところ、最上方の排水管の接続部が外れて排水管全体が滑落した。配水管の周囲で作業を行っていた作業員3名のうち2名が滑落した排水管に激突されて約18m下に墜落して1名が死亡、1名が負傷した。	30199	1	10～ 29
2008	8	11 ～ 12	導水管敷設の際、ドラグ・ショベルで管の荷降ろしするため被災者が掘削箇所に立ち入り、玉外し作業を行っていた。その際法面の岩石が崩落して被災者の足に激突した。被災者が救助の声を上げたため、現場代理人が救助のため溝に入ったところ幅1m高さ50cm推定重量500kgの岩石が2名の上に落下して被災者が死亡した。現場代理人は重傷を負った。	30106	5	1～9
2008	3	11 ～ 12	水道連絡管φ1000敷設工事において、ドラグ・ショベルで約3m掘削していた。掘削箇所脇の道路で大型トラック、トレーラー等が通行したため、掘削箇所に幅2cm、長さ約2mの亀裂が入った。そのため、土止め支保工の設置をすることとなり、矢板を3本打ち、被災者が掘削箇所で腹おこしの取付作業を行っていた。その際、土砂が崩壊して腹おこし材とドラグ・ショベルアーム部との間にはさまれて死亡した。	30110	5	10～ 29
2008	11	16 ～ 17	翌日に竣工検査が予定されていた河川の水路新設工事において、現場監督である被災者は、発注者への報告用の現場の全景写真を撮影するため上流の小高くなった木々の中に分け入った。その際、足元の天然石（最大幅70cm弱）が崩れ落ちた。飛び降りた被災者に崩れ落ちた天然石が激突して死亡した。	30107	5	10～ 29

2008	3	～	10	1m、勾配約90度（ほぼ垂直）に掘削したところ、湧水が確認されたため、被災者が掘削部分へ降りた際、地山が崩壊し生き埋めとなった。	30199	5	10～ 29
2008	9	～	10	山林で林業架線の索張り作業中、一時的に地山の斜面（勾配約60度）の切り株にかけていたワイヤロープを取り外したところ、3m下の林道に墜落し死亡した。	60201	1	10～ 29
2008	8	～	9	山土場において、林業架線敷設のため、勾配55度、高さ5mの斜面で、被災者1名がチェーンソーを用いて伐採作業を行っていた際、斜面から転落して死亡した。	60201	1	1～9
2008	9	～	14	公共下水道の管渠築造工事において、深さ約2.7m、幅2.8m、長さ7.5mに掘削し、土場で組み立てられた幅2m、高さ1.5mの鋼製土止め支保工を2組入れ、土止め支保工内の掘削底面の床ならしを行っていた。被災者が土止め支保工のないところに出た時、掘削面が崩壊して被災者の胸のあたりまで崩壊土砂に埋まり死亡した。	30110	5	1～9
2008	7	～	18	事業場の資材置き場において、石の下敷きになっていたところを事業場の者に発見された。被災者は、当該資材置き場の排水溝の水路の詰まりを直す作業のため、ドラグ・ショベルで敷地内の掘削作業を行っていた。	30106	4	30～ 49
2008	10	～	15	下水道管を埋設後、土止め支保工の撤去を行い、溝内にて玉掛準備作業を行っていたところ、高さ2.1～2.2mの地山が崩壊して被災者が生き埋めになった。	30110	5	10～ 29
2008	1	～	15	林道災害復旧工事現場において、転圧作業を行うため工区外に停めてあったハンドガイドローラーを取りに行ったところ、上部から落石があり被災した。	30106	4	10～ 29
2008	10	～	11	河川改良工事において、河床に堆積した少量の土砂を取り除いた後、市道上で次の作業の指示を待ちながらドラグ・ショベルにオペレーターが搭乗したまま待機していたところ、突然、法面が崩壊してドラグ・ショベルが転落した。その際、昼食のため上流の左岸側に設置してあるはし	30107	5	10～ 29

		12	ごへ向かって河床を歩いていた被災者が崩壊に気づき避難しようとしたが、転落してきたドラグ・ショベルのアーム部分と左岸のブロックにはさまれ死亡した。			
2008	10	9 ～ 10	災害復旧工事現場において、法面のモルタル吹き付け作業に従事していた被災者が、法面上部で吹き付け作業箇所への移動に使用するための親綱の長さを延長する作業を行っていたところ、当該法面上部約40mの高さから地面へ転落した。	30106	1	10～ 29
2008	10	10 ～ 11	崩壊した法面の補修工事において、法面上部が不安定な状態であると判断されたため、法面整形作業を中止して林道上に落とした土石等を取り除く作業を行っていたとき、法面上部約16mの高さから落石（2.5m×1m×70cm、推定）があり、当該落石が地面ではねて被災者に激突して下敷きになった。	30199	4	30～ 49
2008	8	13 ～ 14	被災者は、林道開設工事現場の支障木の伐倒及び玉切り作業を行っていたが、作業場所から勾配38度の斜面を約28m下った地点で死亡していたのが発見された。被災者が楓の小径木を高さ1.5mの位置でチェーンソーによって伐倒した際に転落した。	30106	1	10～ 29
2008	4	13 ～ 14	工事中仮設道路設置のため元請事業者が被災者所属事業場に対して伐木作業を発注した。被災者を班長とする計5名の作業者は、作業初日の午前中の作業終了後、午後1時から再度、伐木作業を開始するために移動していたところ、既に単独で作業を行っていた被災者が49度の斜面から転落して死亡した。	30108	1	100 ～ 299
2008	5	13 ～ 14	鉄塔付近の木を伐採するため、発注者2名及び請負会社3名（出張作業）により伐採範囲等を調査して伐採範囲にビニールテープで区割りをする作業を行っていた。被災者から頂上付近での調査開始の無線連絡があった後、別の作業者が落石のような音を聞いたため、被災者に対して連絡をしたが連絡が取れないので被災者を捜索したところ、血を流して倒れているのを発見した。病院に搬送後死亡した。	30301	1	30～ 49
		10	水道管理設工事の際、深さ約2.1mの箇所で土留めをすることなく手掘り			

2008	3	～	で掘削作業を行っていたところ、東側の掘削面が崩壊して土砂に埋もれて死亡した。	30110	5	1～9
2008	6	8 ～ 9	山肌に落石防護の金属製ネット（ロープネット）を張る工事において15名の作業者が作業場所に向かって移動中に地震が発生した。先行して法肩まで到着していた3名が通路を含む法面の崩壊に巻き込まれて約60～70m下まで転落した。	30199	5	10～ 29
2008	6	8 ～ 9	山肌に落石防護の金属製ネット（ロープネット）を張る工事において15名の作業者が作業場所に向かって移動中に地震が発生した。先行して法肩まで到着していた3名が通路を含む法面の崩壊に巻き込まれて約60～70m下まで転落した。	30199	5	10～ 29
2008	6	8 ～ 9	山肌に落石防護の金属製ネット（ロープネット）を張る工事において15名の作業者が作業場所に向かって移動中に地震が発生した。先行して法肩まで到着していた3名が通路を含む法面の崩壊に巻き込まれて約60～70m下まで転落した。	30199	5	10～ 29
2008	6	8 ～ 9	法面にモルタル吹付作業を行うための準備作業を行っていたところ、震度6の地震が発生し、被災場所の上方で土砂崩壊が発生して落ちてきた岩石が被災者に当り死亡した。	30101	5	1～9
2007	9	16 ～ 17	通信設備工事中、マンホール設置のために車両系建設機械を使用して2.35m掘削し、土止め用鋼製矢板打設中に掘削面の一部が崩壊し、作業者が土砂で生き埋めとなった。	30301	5	10～ 29
2007	11	19 ～ 20	市道脇の斜面上で、簡易水道の水道管に水漏れがないか確認していた作業者が、幅約14m、高さ約15mに渡って崩落した当該斜面の土砂の生き埋めとなり死亡した。	30110	5	10～ 29
2007	2	10 ～ 11	災害復旧工事の予定箇所において、被災者は他の作業者ととも雑木（広葉樹）の伐採作業を行っていた。被災者が雑木（樹高約12m、伐根直径24cm）をチェーンソーを使用して伐倒したところ、被災者の後方の地山から岩盤（高さ2.7m、幅2.8m、厚さ35cm）がはがれ落ち、被災者が岩盤と切株にはさまれた。	60209	4	1～9

2007	3	8 ～ 9	傾斜約40度の民有林において、被災者は同僚2名と機械集材装置の主索の通り道を確認するため、伐採作業を行っていた。被災者がチェーンソーを使用し、杉立木（胸高直径34cm、樹高21.3m）を伐倒した直後、被災者は斜面を約2.1m滑落した。	60201	1	50～ 99
2007	12	15 ～ 16	林道開設工事において、一度掘削を行った箇所が土砂崩壊により埋まったため、計画の変更を行い、当初の掘削勾配より緩やかな勾配で再度掘削を行うこととなり、ドラグ・ショベルで作業道を整備している最中に、当該ドラグ・ショベルの支持地盤が崩壊し、傾斜54度の斜面を46m転落した。被災者は、転落する途中で運転席から投げ出された。	30106	1	10～ 29
2007	4	9 ～ 10	台風により崩壊した道路・法面の改修補強工事現場において法面を掘削し、付近で地ならし、杭打ち作業をしていたところ、土砂崩壊が発生し、被災者が巻き込まれた。	30106	5	10～ 29
2007	6	9 ～ 10	刈払い機による法面での草刈り作業において、被災者が道路上の高さ4.54mの法面の小段、又は法面を移動（通行）して法面下の道路上に転落した。なお、法面の勾配は55度～65度である。	60209	1	30～ 49
2007	2	12 ～ 13	上水道用配管を埋設する工事において、市道の一部を幅約0.9m、深さ約1.4mに掘削した箇所配管同士のジョイント部分のボルト締め作業中、被災作業員の側面の掘削面が崩落し、土砂の塊の下敷きとなった。	30110	5	1～9
2007	10	13 ～ 14	復旧治山工事において、法面下部の土留壁の谷側で被災者が型枠材の片付作業を行い、上部で他の作業員が投石作業を行っていたところ、落石が発生し、土留壁を飛び越えて被災者に当該石（約6kg）が直撃した。	30108	4	1～9
2007	2	15 ～ 16	深さ約3.1mの箇所に設置されている仮排水管の撤去作業をドラグ・ショベル運転者と被災者で行っていたところ、仮排水管の上には被災者が、崩れた土砂に埋もれた。	30109	5	10～ 29
		13	下水道管の新設工事のためドラグ・ショベルで掘った幅80cm、深さ			

2007	9	～	2. 3 mの溝の中に被災者が1人入り、溝床面の整地作業を実施していたところ、側壁の一部が崩壊し、その土砂と側壁との間にはさまれた。	30110	5	1～9
2007	8	14 ～ 15	道路上の陥没部分を被災者が覗き込んでいたところ、被災者が立っていた箇所が突然崩落し、被災者が陥没部分に転落した。	30199	1	1～9
2007	12	9 ～ 10	法面保護工事の法面の面積測量を行うため、法面（高さ15.9m、勾配73度）につり下げたロープ（径18mm）にロリップ（墜落防止具）を取り付けそれに安全帯を繋ぎロープを伝って法面を登っていたところ、ロリップが機能しなくなり修正しようとして13.9m付近で、2、3歩降りたところから地面へ墜落した。	30106	1	10～ 29
2007	2	11 ～ 12	住宅地区改良工事現場で以前埋設していたポリエチレン管に新たにポリエチレン管を接続するため深さ約1.9mの地点で管口を掃除していたところ、掘削面が崩壊し、崩壊した土砂に押され管口に激突した。	30110	5	10～ 29
2007	9	14 ～ 15	県道の道路山側の法面の落石防止用金網設置工事において、被災者は法肩で樹木の伐採作業を行っていたが、作業場所を移動するため安全帯を親綱から外し、木の切株に手を掛けたところ、木が朽ちていたために折れ、身体の支えを失った被災者が約14m下方の道路路側帯に墜落した。	30199	1	1～9
2007	12	9 ～ 10	石積みの擁壁を造成する工事において、玉掛け作業をしていた被災者に、法面上部に置いていた石が落下して当たり、その反動で仰向けに倒れた。	30199	4	1～9
2007	7	8 ～ 9	農道築造のため、山の法面の木を伐採し、そこに金網と鉄筋で枠を組み、それにコンクリートを吹き付ける工事で、被災者を含む約6名が上部の鉄筋を取り付ける工事を行っていた。工事場所より上面約5mをモルタルで補強し、2本の親綱を下ろして安全帯を着用して作業していたが、突然、法面が崩落した。被災者1名が土砂の中に生き埋めになった。	30199	5	10～ 29
		11	下水管布設工事において深さ4mの掘削床に下水管を設置するため、被			

2007	6	～ 12	被災者は掘削床で下水管の調整作業をしていたが、一部掘削面が崩壊し、 下敷きになった。	30110	5	1～9
2007	10	～ 17	管敷設作業において、ドラグ・ショベルで掘削した法面が約4.2m× 約1mにわたって崩壊し、掘削溝の中（深さ約2.3m）で作業してい た作業員2名のうち1名が埋まった。	30201	5	1～9
2007	9	～ 12	被災者が、深さ約2.2mの掘削床に設置されたボックスカルバートの 上に乗ってボックスカルバートの側面の目地込め作業を行っていたとこ ろ、土砂が崩壊し、その塊が被災者を直撃した。	30109	5	1～9
2007	3	～ 11	被災者は、杉桧の伐出作業現場において、集材装置による伐出作業を行 うに際し、伐木に荷掛けをする作業を担当していたが、休憩時間になっ ても姿を見せないのので、同僚が被災者の作業していた場所へ行ったとこ ろ、被災者の作業していた場所から約7m下の斜面に被災者が倒れてい るのを発見した。	60201	1	1～9
2007	7	14 ～ 15	被災者は伐採した障害木を搬出するため、切り出された丸太をドラグ・ ショベルでつり上げ集材箇所まで移動する作業の助手をしていた。丸太 をつり上げた後、ドラグ・ショベルの旋回範囲外に出ようとして誤って 約1.5m下に転落し、切り出された丸太に激突し死亡した。	30108	1	1～9
2007	2	14 ～ 15	下水用配管の埋設作業のため、ドラグ・ショベルで深さ約2.7mを掘 削していたところ、土砂崩壊により埋まった。	30201	5	1～9
2007	10	～ 12	機械集材装置の主索ワイヤーの索張り作業中において、ワイヤーが上が らなかつたため、被災者がワイヤーの状況を確認するため現場に行った ところ、ワイヤーが立木に引っかかっていたため、チェーンソーを使用 して立木を伐倒していて足を滑らせ約40度の斜面を約50m下の沢ま で転落した。	60201	1	1～9
2007	2	～	配水管更新作業において、掘削作業中、深さ約2mにある既設配水管を 破損させないように手掘り作業をしていた。土止めが設置されていなかっ	30110	5	1～9

		15	たため、突然地山が崩壊し、土砂に埋められた。			
2007	3	10 ～ 11	災害復旧工事現場において、被災者が車両系建設機械（ドラグ・ショベル）を使用して、ケーブルクレーンのアンカー設置のための穴を掘削（掘削勾配は約90度）作業中、当該掘削溝内部に被災者が立ち入ったところ、掘削法面が崩壊し、被災者が崩壊した土砂に埋まった。	30302	5	10～ 29
2007	10	10 ～ 11	道路改良工事において、法面の支障木を伐倒する際に、道路側の電線等への接触を避けるため、立木にワイヤロープを掛け、ガイドブロックを使用し、トラックで山側に引っ張りながら伐倒を行っていた。被災者がはしごを使って、法肩の支障木にワイヤロープを掛けようとしていたところ、はしごとともに、約7m下の県道の山側側溝付近に墜落した。	30106	1	1～9
2007	6	12 ～ 13	治山工事現場にて、被災者ともう1名の作業者の計2名が地山上部の立木から設けてあった親綱にロリップ金具を付けて左岸上部に上り、発破後の地山処理をスコップ、バール等を用いて行っていたところ、河床からの斜距離（法面長さ）27.5mの作業箇所より河床に墜落した。	30108	1	10～ 29
2007	9	10 ～ 11	治山ダム工事現場において、法面上にあった立木を除去するため、当該立木にワイヤロープをかけ退避し、ドラグ・ショベルを使用して立木をひっぱり落とすと同時に地山が高さ約25m、幅15mに渡り崩壊した。この土砂崩壊により、地山上にいた作業者2名が地山から転落し土砂に埋まり1名が死亡、1名が休業見込み6ヶ月の負傷となった。	30108	5	10～ 29
2007	11	11 ～ 12	砂防堰堤工事に伴い、工事用道路の岩掘削作業を解体用機械（ブレーカー）を使用して行っていたところ、ゆるんだ路肩の一部が崩壊し、ブレーカーごと転落し、その下敷きになった。	30108	1	1～9
2007	5	10 ～ 11	道路災害復旧工事現場において、伐採した木の切り株の抜根作業中、切り株を手で押して下へ落とそうとした際、親綱を安全帯にかけていなかったため、切り株の根に安全帯がからまり一緒に転落した。	30106	1	10～ 29
2007	2	12 ～	宅地造成工事現場において、L型擁壁築造のためドラグ・ショベルを用いて地山を掘削したところ、高さ5.2m、勾配62度の掘削法面が崩壊し、法面下部のL型擁壁基礎部分の床付け部分にいた作業者が死亡し	30109	5	1～9

		13	た。			
2007	2	11 ～ 12	農業用水管路工事の、長さ6 m、内径3.5 cmの管を埋設する作業において、掘削部（深さ2.3 m、法面勾配7.3度）の上部で、監視作業をしていた作業者が掘削部へ転落した。	30107	1	1～9
2007	12	9 ～ 10	坑口より約550 m地点の崩壊防止用のモルタルが全面に吹き付けられている切羽下部において、発破の装填作業中、切羽の高さ約6 mの断面から幅約3 m、高さ約3 m、厚さ30 cmにわたり崩壊防止用モルタル及び地山の一部が崩落し被災者に当たった。	30102	5	10～ 29
2007	8	10 ～ 11	本件工事の現場代理人である被災者は、作業用モノレールから山止め施工箇所までの作業通路を作るためのロープ張りを作業員2名と行っていたところ、斜度約50度の斜面から墜落し、法面を約60 m滑落した。	30108	1	50～ 99
2007	8	13 ～ 14	被災者は、横断測量のため光波測距儀の設置された林道の路肩から約55 m下方の位置でポールを立てていたところ、その位置から2 m下の斜面に転落し、そのまま斜度約40度の斜面を約40 m滑落した。	170209	1	1～9
2007	7	13 ～ 14	新築住宅用の下水道管新設工事において、ビニール管（Φ20×4 m）を設置中、地山（幅60 cm×深さ165 cm×長さ7.9 m）が全長にわたって崩壊し、土砂に埋もれて死亡した。なお、土止め支保工に使用する矢板は現場に持ち込んでいたが、使用していなかった。	30110	5	10～ 29
2007	2	16 ～ 17	スキー場のリフト係員が、ゲレンデ上に倒れているのを同僚に発見された。リフト降り場での業務を終え、スノーボードで滑走して事務所に戻る途中に転倒したと思われる。	140309	2	100 ～ 299
2007	6	9 ～ 10	垂直高25 mの岩盤斜面の上方において、ロープネット工の割付作業のため、被災者は測量テープを押さえていたところ、安全帯のカラビナがはずれ、25 m下に墜落した。被災者の安全帯は子綱にカラビナを2個取り付け、その先にロリップを付け親綱に脱着するタイプである。	30199	1	1～9
			下水道管の敷設工事で、被災者は深さ約2.6 m、幅約1.2 m、長さ約7.2 mにわたって掘削した溝に入り、下水道管の敷設位置の調整作			

2007	10	10 ～ 11	業を行っていたところ、法肩の一部（高さ、幅とも30～40cm程度）が崩落し、土砂に埋まった。なお、地表面から深さ約1mまでの箇所には土止め支保工が設けられていなかった。その後、搬送先の病院で死亡した。	30110	5	10～ 29
2006	10	8 ～ 9	道路工事現場において、ブレーカー装着のドラグ・ショベルにて現場内を移動中、法面の岩盤が崩落しドラグ・ショベルごと埋まった。	30106	5	10～ 29
2006	11	9 ～ 10	被災者は落葉の清掃か何かの作業中高さ約3.9m、約70度の坂を転落した。	80209	1	1～9
2006	11	～ 1	被災者は観光地の駐車場付近の道路規制のため、道路上で車両誘導等の業務に従事していたが、道路のガードレールの外側から崖の下にある遊歩道に向けて転落した。	170201	1	100 ～ 299
2006	10	9 ～ 10	貯水槽を設置するため掘削作業中、被災者が深さ4mの掘削溝に落下したコンクリートの一部を除去するために、当該掘削溝の中で作業を行っていたところ、地山の側面が崩壊して生き埋めになった。	30199	5	1～9
2006	9	11 ～ 12	浄化槽埋設のため3.5メートル×1.6メートル、深さ約2メートルの穴を機械掘りしたあと、床ならしのため被災者が穴の底に入り、鍬で作業中に側壁が崩壊し、土砂に埋もれた。土砂の量は1立方メートル程度。	30201	5	1～9
2006	9	10 ～ 11	住宅の庭木（ウバメガシ）の剪定作業中に転倒、庭石で身体を打った。	60101	2	1～9
2006	9	15 ～ 16	モニタリング調査を終えて下山途中に同僚からはぐれ行方不明となり、翌日川で発見された。被災者らが下山のため移動していた場所には道は無く、藪をかき分けながら進んでいた。	170209	1	10～ 29
			林道の建設工事において、山林の斜面で、被災者がチェーンソーを用い			

2006	8	15 ～ 16	樹木を伐採していた。暫くチェーソーがアイドルリング状態であったので、同僚が作業現場に行くと、被災者が倒木の横で倒れていた。被災者が倒れていたのは、伐採の位置から約10メートル下方である。	30106	1	10～ 29
2006	9	11 ～ 12	污水管渠敷設工事において、幅1.3m、深さ2.5m、長さ（南西—北東方向）25mの掘削底面で被災者ほか1名が5本目の雨水管を土嚢を使って固定し終えた時に、地山の掘削側面（南東側長さ1.5m高さ1m奥行き0.5mほど）が崩壊し、被災者が北西側の掘削側面と崩壊した土砂に挟まれた。	30110	5	30～ 49
2006	8	9 ～ 10	3名で川近くの土手の用水路の下草を刈り取る作業をしていたところ、刈払い作業をしている被災者の姿がないことから作業場所付近を探したところ被災者が10メートル下を流れる川に墜落しているのが発見された。	60101	1	10～ 29
2006	7	10 ～ 11	住宅新築工事現場において、ブロック塀基礎コンクリートの掘削床面（深さ約50cm）で、コンクリートの上に型枠建て込み作業中、隣地に2段から3段に積まれていたコンクリートブロック（一辺約80cmの立方体、重さ約1.3トン）が掘削面側に崩れ、被災者はコンクリートブロックの下敷きになった。	30202	5	1～9
2006	7	13 ～ 14	被災者はドラグ・ショベルを運転し、雨で崩れた林道の整地作業をしていたところ、林道の路肩が崩れ、ドラグ・ショベルごと転落、運転席から投げ出され、重機と山の斜面との間に挟まれた。	60209	5	1～9
2006	7	15 ～ 16	林道開設工事現場で、掘削の際にでた岩をブレーカーで小割する作業を行っていた被災者が、次ぎの作業までの間を車内で待機していたところ、突然法面が崩壊し、被災した。	30106	5	30～ 49
2006	7	15 ～ 16	法面（こう配約70度）に仮設の落石防護用ネット（2m×7m）を設置する作業において、法面上を横移動していたところ、15.4メートル下の床掘した地面に転落した。	30106	1	10～ 29
		11	民家の擁壁工事にあたり、高さ約4m、勾配65度の土手の下部を深さ			

2006	6	~ 12	約1.4m、幅約1.4mに掘削した内部に作業員2名が入り、手掘りで柱状改良杭周囲の掘削作業を行っていたところ、法面が幅約4m、高さ約4m、奥行約0.8mにわたり崩壊し、2名が被災した。	30199	5	10~ 29
2006	6	11 ~ 12	民家の擁壁工事にあたり、高さ約4m、勾配65度の土手の下部を深さ約1.4m、幅約1.4mに掘削した内部に作業員2名が入り、手掘りで柱状改良杭周囲の掘削作業を行っていたところ、法面が幅約4m、高さ約4m、奥行約0.8mにわたり崩壊し、2名が被災した。	30199	5	10~ 29
2006	6	13 ~ 14	地形測量のため、2名1組となり2組（計4名）で光波測距儀により河川敷脇の崖の測量をしていた。うち1組の反射板を持つ側の作業員（被災者）が、崖上法面の、測定点とする端に近づいたところ墜落しそうになったので、生えていた竹につかまったが崖側に宙吊りの状態となった。他の作業員3名が駆けつけ、引き上げようとしたが、約10メートル下の河川敷に墜落した。	170209	1	1~9
2006	6	14 ~ 15	集中豪雨により加工所裏のがけが、高さ約8メートル、幅約20メートル、奥行き約10メートルにわたって崩れ、加工所（鉄骨スレート平屋）内で作業していた3人が被災し、1人が死亡、2人が重傷を負った。	10401	5	10~ 29
2006	5	10 ~ 11	宅地造成工事において下水管を布設するため、幅1.1メートル、深さ約2メートルの管路を長さ11メートルに渡りドラグ・ショベルで掘削作業中、被災者がスコップを用いて管路内で床均し作業を行っていたところ、掘削した管路東側が幅約6メートルに渡って崩壊し、土砂に埋もれた。	30110	5	1~9
2006	5	15 ~ 16	田の脇の斜面にて草刈機で草を刈っていたところ、被災者が斜面（勾配約45度）から滑り落ち側溝に墜落した。その際に手に持っていた草刈機が手から離れ、刃部が被災者に当たった。	80209	1	1~9
2006	5	15 ~	宅地造成工事において、幅約1.2メートル、奥行き約10メートル、深さ約2メートルを掘削し、この中で配水管敷設のための計測作業を行っていたところ、奥行き約2.7m、幅約0.6m、高さ約2mにわ	30199	5	10~ 29

		16	たる地山が崩れ、しゃがんでいた被災者が埋まった。			
2006	4	15 ～ 16	送電線の支障になる立木を伐倒する作業現場において、被災者は山林内で同僚2名と立木の伐倒作業に従事していた。2本の支障木を残して休憩しようとしていたところ、被災者は何らかの理由で、勾配が約37度の斜面を斜距離で約20メートル下方に転がり落ちた。	60209	1	10～ 29
2006	4	14 ～ 15	汚水枮から下水道本管へつなぐ枝管敷設にかかる作業のため、深さ約70センチ、幅約65センチの掘削坑に被災者がいたとき、隣地駐車場に設置されたコンクリート基礎および一段積みのブロックが土砂とともに崩壊し、被災者がはさまれた。	30110	5	1～9
2006	3	13 ～ 14	ヒューム管を埋設するため、深さ約3メートルの掘削を重機で行っていた。床付け状況（平坦さや掘削深さを測量する）を確認するために、被災者が掘削底部に入っていたところ、土砂が崩壊した。	30105	5	1～9
2006	4	15 ～ 16	圃場整備工事の現場において、ヒューム管設置作業を行っていたところ、地山（高さ約3m、幅約4.5m、厚さ50cm）が崩壊し作業員3名が生埋めとなった。（死亡1名、休業2名）	30109	5	10～ 29
2006	4	17 ～ 18	露天掘り・階段採掘現場で、被災者は、ドラッグショベルを使用して作業に従事していた。作業終了間際に、パラパラと小石が落下してきたため、法尻にいた作業者が無線機で被災者に「崩れるからにげろ。」と呼びかけた直後に、法面が崩れ運転席付近に岩塊が落下し、被災者は運転席から投げ出され、死亡した。	20201	5	10～ 29
2006	4	16 ～ 17	水田に農業機械搬入田スロープを砂を用いて埋め立てて造るため、地域の共有地である砂採取場から砂を手掘りで掘削していたところ、突然地山が崩れ、被災した。	30199	5	1～9
2006	3	16 ～ 17	別荘地内において、カラマツを伐採する作業を被災者らが行っていた。カラマツ（高さ約21m、伐根直径38cm）を伐倒するにあたり、チェーンソーでカラマツを切り、伐倒直前にカラマツに縛り付けた繊維ロープを被災者ら5人が引っ張った。その後、倒れてくるカラマツから	60209	2	1～9

			退避する途中、被災者は斜面のカラマツの葉に足を滑らせて転倒した。			
2006	3	13 ～ 14	雑木林内に放置された古くなった傘、雑誌を片付けるようガードマンから言われた被災者ともう一人の作業員は、ガードマンの先導の元、雑木林内を歩いていたが、被災者はガードマン、他の作業員とはぐれ、約28度の雑木林斜面を駆け下り、高さ2.3メートルの石垣から転落した。	150109	1	1～9
2006	3	17 ～ 18	災害用地測量業務において、川を挟んで分かれた川岸付近で、対岸の相方が測量器を見ながら、被災者が境界標識杭打ち作業を行っていたところ、岩が切り立った箇所となり先に進めず、一旦、下流の橋を渡って相手側の岸を通り上流の橋を回って作業を進めることになったが、被災者の姿が見えなくなった。搜索の結果下流の中州で発見された。	170209	10	1～9
2006	3	10 ～ 11	道路拡幅工事現場において、道路拡幅部の地山法面の落石雪害防護工のロープネット取付け作業中、法面でワイヤロープ固定作業に従事していた労働者が約38m下の地上に墜落した。	30106	1	1～9
2006	2	16 ～ 17	マンション新築工事現場において、貯水槽設置時に設けた土止め支保工の背板盛りかえのため、ドラグ・ショベルで地山を約3.5mまで掘削した後、被災者が掘削溝底面において土止め支保工の親杭付近の地山を手掘り掘削していたところ、掘削面が深さ約3.5m、幅約1m、長さ約2mにわたり崩壊し、被災者が生き埋めとなった。	30201	5	30～ 49
2006	3	11 ～ 12	砂防堰堤の打設作業を行っていたところ、堰堤横のコンクリートで吹付けられた地山の上部からの落石があり、同僚の一人が水面を覗き込んだところ、仰向けで浮いている被災者を発見した。被災者の直前の作業は地山と型枠との間に出来た隙間を型枠の外側から小石で塞ぐものであり、その場所は水面からの高さが1.75メートルであった。	30108	4	1～9
2006	2	16 ～ 17	法面の植生注入マットを固定するアンカーピンの設置作業中被災者が、ロリップが取り付けある親綱の場所まで、法面上部の岩場を歩いていたところ、岩場から約15m下の側溝に墜落した。法面は岩盤で、高さ約15m、勾配約70度。	30199	1	1～9

2006	2	11 ～ 12	急傾斜地崩壊対策工事の現場内において、現場代理人の被災者と1次下請業者の労働者1名が、重力式擁壁の型枠の位置決めをするための測量作業を下法尻にて行っていたところ、斜面上方から高さ約10メートル、幅約15メートル、深さ約1.5メートルにわたり法面が崩壊し、被災者が死亡した。	30199	5	10～ 29
2006	1	14 ～ 15	逆打工事の2次掘削で被災者は地下1階部分を掘削機で掘削していたが、上部捨コンから5メートル弱の掘削中に上部から（型枠工事に使った）単管パイプが落ちたため、立入り禁止区域に入り片付けていたところ、上部の土砂が崩れ下敷きになった。	30201	5	50～ 99
2006	1	0 ～ 1	土砂採取場において、法面上部にハの字型の亀裂（長さ10～15m）が2本入っているのを発見したため、ドラグ・ショベル3台を使用して法面の崩壊を防ぐため、土盛り作業を行っていた際、法面50m、幅80m、高さ30m（土量120,000立方メートル）の土砂が崩壊して車輛ごとオペレーター3名が被災し、2名が死亡した。1名は、自力で脱出した。	20202	5	50～ 99
2006	1	14 ～ 15	下水道管理設工事の作業で、ドラグ・ショベルで砂の埋め戻し作業をしていた。掘削した溝を跨ぐようにドラグ・ショベルを配置していたが、左側のキャタピラ下部の路肩が崩壊し、構内で砂のならし作業をしていた被災者がドラグ・ショベルのバケットと土止めの切りばりに挟まれた。	30106	5	1～9
2006	1	10 ～ 11	道路改良工事で生じた土砂を残土処理場に運搬し、残土処理場において、被災者が機体重量4.2トンのドラグ・ショベルで排土板を用い土砂を均す作業を行っていたところ、高さ約1.5メートルの法面からドラグ・ショベルごと転落し、ヘッドガードの下敷きになった。	30106	1	1～9
2005	8	11 ～ 12	林道開設工事現場において、法面上に生えている立木を伐採後、被災者が法面上で伐採した立木を林道に投げ落とす作業を行っていたところ、8m下の林道上に墜落した。	30106	1	30～ 49
		15				

2005	3	～ 16	勾配が50度の法面上において、チェーンソーで伐倒作業中、20m下のダム湖に転落し、溺れた。	30309	1	1～9
2005	6	～ 10	浄化槽設置のための掘削作業の際、掘削箇所底部（深さ3m）のポンプが詰まったため、掘削箇所底部に下りたところ、背後法面の土砂が崩壊した。	30202	5	1～9
2005	4	～ 16 17	碎石作業中に、10日前にクサビを打ち放置していた岩石（縦横10m、高さ6m）が崩壊し、岩石下方にいた被災者が、クサビを打つために岩石上に足場として積載していた土砂あるいは岩石によって押し出された土砂に埋もれた。	20201	5	1～9
2005	2	～ 1	昼の休憩時刻に入り、昼食の用意ができたことを露天掘りの底で作業していた同僚に、手すりの無い部分の路肩に立って連絡しようとしていたところ、足を踏み外して40m下の採掘現場に墜落した。	20201	1	1～9
2005	3	～ 14 15	池改修工事現場において、被災者がドラグ・ショベルを用いて掘削し、小石を敷く作業中、深さ2.5mの掘削場所に立ち入ったところ、掘削盛土等の地山が崩壊し、生き埋めとなった。	30106	5	10～ 29
2005	3	～ 10 11	林道建設工事において、法面に亀甲金網を取り付ける作業に従事していたところ、法面上方の山腹から10m下の林道に墜落した。	30106	1	1～9
2005	3	～ 9 10	立木伐採作業中、チェーンソーを手に持ちながら退避を始めたところ、何かにつまずき、その勢いで斜面を駆け下りる形となり、静止が効かないまま高さ2mの位置から斜面下にあるアスファルト道路に墜落した。	30106	1	1～9
2005	6	～ 14 15	ほ場整備工事において、水路確保のためのヒューム管敷設作業中、埋め戻しのためのドラグ・ショベルの旋回範囲から離れるため、被災者が移動した直後、土砂が崩壊し埋まった。	30109	5	10～ 29
2005	4	～ 8 9	ドラグ・ショベルを操作中、路肩が一部崩れ、4m下の谷川に転落した。	30106	1	1～9

2005	10	0 ～ 1	機械集材装置を用いた伐倒木の運搬作業において、斜面上を移動していたところ、3m高さから石（重さ300kg）が落下して被災者に激突した。	60201	4	1～9
2005	12	16 ～ 17	排水管設置の準備作業において掘削幅（約2m、深さ2.5m）内に入り、丁張り作業を行っていたところ、掘削した面が崩落し、被災者らが埋まった。	30109	5	100 ～ 299
2005	5	9 ～ 10	ワンボックスカーで走行中、山側から石が落ちてきて、車の屋根を直撃・貫通して被災者に激突した。	80101	4	30～ 49
2005	4	17 ～ 18	工場敷地内にある沈殿槽のコンクリート壁を改修するため、沈殿槽の外側をドラグ・ショベルにて掘削した後、床均し等を行っていたところ、掘削法面が崩れ、落ちてきた岩石が当たった。	10909	5	10～ 29
2005	7	7 ～ 8	自社の山林において刈払機を使用して除草作業中、足を踏み外して滑落し、刈払機の歯が被災者に接触した。	60209	8	30～ 49
2005	9	8 ～ 9	民家敷地内の擁壁設置工事現場において、溝をドラグ・ショベルで掘った後、被災者が溝に入り、建物側の地山に土止めのためのコンパネを置いて、前日に施工した場所の土止め支保工の部材を取り外したところ、建物側の地山が崩壊したため被災者が土砂に埋まった。	30199	5	10～ 29
2005	3	11 ～ 12	配水管理設作業において、配水管を設置後、埋戻しを行うために掘削箇所（幅2m、深さ3m）から移動しようとしたところ、法面が崩壊し、生き埋めとなった。	30109	5	1～9
2005	9	8 ～ 9	雪崩柵設置工事において、溶接作業を行っていたところ、施工箇所の上部より岩石が飛来し、防護ネットを突き破り、被災者に激突した。	30199	4	1～9
2005	11	14 ～	農業用水路の災害復旧工事現場において、地山斜面下の土止め用大型フロン籠の中で、詰石作業を行っていたところ、地山法面が崩壊し、逃げ	30199	5	10～ 29

		15	遅れた被災者らが生き埋めとなった。			
2005	11	14 ～ 15	農業用水路の災害復旧工事現場において、地山斜面下の土止め用大型フ トン籠の中で、詰石作業を行っていたところ、地山法面が崩壊し、逃げ 遅れた被災者らが生き埋めとなった。	30199	5	10～ 29
2005	12	10 ～ 11	下水管本管に枝管を敷設するため、掘削箇所内で作業を行っていたとこ ろ、周囲の埋戻し土砂が崩落、腰まで土砂に埋まった被災者を救出しよ うとしたところ、さらに土砂が崩落し、生き埋めとなった。	30106	5	10～ 29
2005	1	14 ～ 15	町道の拡幅工事現場において、土止めのために入れてあった鉄板が土砂 に押され、溝の中で床均しを行っていた被災者が鉄板と町道の端のアス ファルトとの間に挟まれた。	30106	5	1～9
2005	1	11 ～ 12	碎石場で石を小割りしていた時、当該崖から崩れ落ちた巨石（重さ20ト ン）が、当該ブレーカーに激突し、運転席の被災者が押し潰された。	20201	5	10～ 29
2005	7	14 ～ 15	ドラグ・ショベルにてずり出し作業中、上部法面が崩壊し、運転席から 降りて脱出しようとしたが、土石に巻き込まれ、生き埋めとなった。	20201	5	10～ 29
2005	2	15 ～ 16	林道の法面吹付け工事の現場において、法面の測量作業中に高さ4mの法 肩から地面に墜落した。	30106	1	10～ 29
2005	9	14 ～ 15	法面工事用の架設通路の設置作業を法面の上方（法長200m）で行ってい た際に、被災者が使用していた工具が手元から落ち、工具を取ろうと法 面に下りたところ、法面から地面に転落した。	30108	1	10～ 29
2005	12	10 ～ 11	国道の雪崩予防柵設置工事において、測量準備として雪崩予防柵の設置 位置を確定させるため、法面に縦糸をたらす作業中、被災者は法面中腹 （勾配60度、高さ20m）で雑草にひっかかった縦糸をほどこうと法面を 横移動していたところ、足を滑らせて転落し、下にあったコンプレッ サーに激突した。	30199	1	30～ 49

2005	3	20 ～ 21	ずい道掘削工事における上半部の切羽面の下方部において、油圧削岩機が発破孔の穿孔作業を行う付近で、切羽面の下に溜まった岩石を、鍬を用いて搬出する作業中、切羽面の天井最頂部付近（高さ5m）から1次吹付けを終えたコンクリート片（60kg）及び岩塊（30kg）が剥離して落下し、被災者に激突した。	30102	4	100 ～ 299
2005	11	17 ～ 18	管水路工において、法面に沈下防止用土木安定シートを敷設する作業中、左岸に積み上げていた掘削土と側壁が崩壊し、当該作業を行っていた被災者らが土砂に巻き込まれた。	30109	5	30～ 49
2005	11	17 ～ 18	管水路工において、法面に沈下防止用土木安定シートを敷設する作業中、左岸に積み上げていた掘削土と側壁が崩壊し、当該作業を行っていた被災者らが土砂に巻き込まれた。	30109	5	30～ 49
2005	11	17 ～ 18	管水路工において、法面に沈下防止用土木安定シートを敷設する作業中、左岸に積み上げていた掘削土と側壁が崩壊し、当該作業を行っていた被災者らが土砂に巻き込まれた。	30109	5	30～ 49
2005	11	17 ～ 18	地質調査のため山に入り、沢沿いの斜面を下山中、滝の付近から滑落した。	170209	1	1～9
2004	12	13 ～ 14	下水道工事現場で、掘削の深さが約3.7mの溝内に土止め支保工を設けな いまま床ならし作業を行っていたところ、掘削面が崩壊し土砂で生き埋 めとなった。	30110	5	1～9
2004	11	16 ～ 17	道路新設工事現場において、立木伐採後の斜面上に残っていた枝木を斜 面下のドラグ・ショベルのところへ投げ落とす作業中、被災者が斜面か ら棚状に突き出た岩石の上から足を滑らせ、斜面に墜落した。	30106	1	10～ 29
2004	1	11 ～ 12	排水路敷設工事現場において、道路下をドラグ・ショベルで床堀した 後、床堀内で土止め材を設置する作業中、床堀した地山が幅6m、高さ 1.2mにわたり民家の石積塀（高さ1.6m）とともに崩壊し、倒れ落ちた石 積塀と道路中央側の掘削面との間に挟まれた。	30199	5	10～ 29

2004	11	11 ～ 12	予防治山事業現場において、砂防ダムの前堤付近で型枠の脱枠作業等を行っていたところ、前堤設置個所の左岸法面（のりめん）上方の地山が突然地滑りを起こし、作業員4名が土砂に流され、1人が土砂に生き埋めとなった。	30108	5	10～ 29
2004	7	11 ～ 12	堆肥舎新築工事現場において、基礎床掘の整地作業を行っていた被災者が、法面（のりめん）（高さ約3m）の土砂崩壊によって生き埋めとなった。	30199	5	1～9
2004	11	13 ～ 14	投入口に鉄製の棧がついたホッパー上で、棧に詰まった砂塊を唐鍬で碎き落としていたが、唐鍬を棧の間から落としたため、取り出そうと機械を止めずにホッパー内に入ったところ砂に埋もれた。	20202	5	10～ 29
2004	9	10 ～ 11	浄化槽を設置する作業において、掘削した場所（直径約5m、深さ約3m）に槽を設置後、槽の設置個所補強のための支柱のベース配筋にたまった土砂を取り除く作業を行っていたところ、地山の崩壊防止措置が講じられていなかったため地山が崩壊し、被災者が崩壊した地山に埋まった。	30209	5	1～9
2004	9	9 ～ 10	タイヤリサイクルセンターの敷地内で、コンクリートブロック擁壁の設置工事のため、設置個所の敷砂を敷均中、既存の3段積コンクリートブロック擁壁（重量1.35t）が倒壊し被災者にコンクリートブロックが直撃した。	30209	5	1～9
2004	5	13 ～ 14	裏山にある屋外トイレを掃除に行く途中、転倒した。	150101	2	300 ～
2004	7	14 ～ 15	幅約40m、高さ約25mの法面（のりめん）に金属製の網を被せる養生工事現場において、網設置に支障となる木の根株を伐採する作業中墜落した。	30199	1	1～9
2004	6	10 ～	山の中腹にある風化した岩を小割りして取り除く作業において、小割りした際に下の道路に落石することによる危険を防止するため、取り除く予定の岩の下方に防護柵を設置することとした。この防護柵の設置場所	30199	1	1～9

		11	を下見中、足を滑らせ岩盤の急斜面を約15m墜落した。			
2004	9	14 ～ 15	えん堤設置工事において使用するケーブルクレーンの架設作業中、索張りした作業索に触れる立木（高さ1.7m）を避けるため、作業索を持ち上げ、立木を越えさせた時、地山の肩部から斜面を約80m転落した。	30108	1	1～9
2004	7	9 ～ 10	構内排水路沿いで草刈機で雑草の除草作業を行っているとき、水路（水深1.8m）に転落した。	170209	1	300 ～
2004	10	16 ～ 17	台風が接近してきて親会社の裏山から流水が流れてきたため、土嚢を積み排水溝に水が流れるようスコップを使い山からの流水の流れを変えていたところ、土砂崩壊に巻き込まれた。	40309	5	30～ 49
2004	7	14 ～ 15	宅地造成工事において石垣組み作業を行っている際に、約70cm×70cm×60cmの石が被災者に激突し、背部にあった石との間に挟まれた。	30109	6	1～9
2004	11	16 ～ 17	コンクリートの堤防設置工事において、測量作業中、事前に掘削し終えていた掘削面（高さ約2.5m、3分勾配）の岩石が、その上部とともにいきなり大量に崩落し、被災者が巻き込まれた。	30109	5	30～ 49
2004	6	10 ～ 11	被災者が伐木したところ、この木が過去に間伐し捨て切りされていた木（伐倒木）の上に倒れ、この時の衝撃により、伐倒木の根元付近にあった岩石が落下し、下方にいた被災者に激突した。	60209	6	1～9
2004	12	8 ～ 9	山林で木の間伐作業を行っていたところ、足をすべらし転落し、約6m下の立木に激突した。	60209	1	10～ 29
2004	2	2 ～ 3	公共下水道の下水管敷設工事において、道路掘削中、地山が崩壊し、下敷きとなった。	30110	5	1～9
2004	11	9 ～	鉄筋7階建てビル新築工事現場において、基礎部分の掘削（最深部250cm）および矢板の設置作業を被災者ら3名で行っていたところ、突然	30201	5	10～

		10	掘削側面の上部から土砂が崩れ落ち、そのまま土砂に埋まった。			29
2004	3	8 ～ 9	林道開設工事現場において、地山の掘削・法面（のりめん）整形工事を行った後、法尻にU字溝敷設のため、法尻にて被災者が床均しをしていたところ、法面が高さ約12m、幅3mにわたり崩落し、その土石により被災者は埋没した。	30106	5	1～9
2004	1	14 ～ 15	道路舗装工事現場において、掘削溝内（幅1.2m、深さ1.7m）で、農業用水配管の取替作業中、法面（のりめん）が崩壊し、溝内で作業していた2人が生き埋めになった。	30199	5	1～9
2004	1	14 ～ 15	道路舗装工事現場において、掘削溝内（幅1.2m、深さ1.7m）で、農業用水配管の取替作業中、法面（のりめん）が崩壊し、溝内で作業していた2人が生き埋めになった。	30199	5	1～9
2004	4	9 ～ 10	道路開設工事現場において、工事の完成検査を受けるための準備作業をしていたところ、被災者は法面（のりめん）長の測定の準備のために法肩へ登り、法肩から測定用巻尺を垂らすため、足場確保として安全帯用の親綱を設置（高さ29m）していた時、墜落した。	30199	1	1～9
2004	2	16 ～ 17	農道拡幅工事において、道路谷側半分を掘削しL型擁壁を据え付けるために床掘り、床均しを行っていたところ、法面（のりめん）が長さ12m、巾0.5mにわたって崩壊し被災者が埋まった。	30106	5	1～9
2004	11	15 ～ 16	ロープウェイのゴンドラに接触するおそれのある木をチェーンソーを使用して伐採する作業中に、被災者が直径22cmの木に切り口を入れたが思うように倒れなかったために手で押して倒そうとしたところ、他の木に引っかかり斜面下に落とすことができずさらに木を押していたところ、勢い余ってバランスを崩し約36m下まで墜落した。	40101	1	10～ 29
2004	7	14 ～ 15	道路拡幅工事現場において、掘削部の床ならし作業を行っていたところ、掘削した法面（のりめん）上部の地山が崩壊し、生き埋めとなった。	30199	5	1～9
		0				

2004	10	1	掘削途中の地山の上で通行者の確認（見張り）作業を行っていたところ、その地山から約11m下に墜落した。	30108	1	10～ 29
2004	6	14～ 15	林道維持補修工事において、被災者は法面（のりめん）上高さ約8.5mのところにあった倒木を撤去するため、法面に登り、手のこで倒木を切断していたところ、バランスを崩し林道上に転落した。	30199	1	1～9
2004	10	14～ 15	農業用水路の管を付設するためドラグ・ショベルで溝（深さ1m）を掘削し、その溝の中に入り寸法確認、写真撮影を行っていたところ上部法面（のりめん）の地山（高さ5m）が崩落し生き埋めとなった。	30107	5	10～ 29
2004	10	14～ 15	農業用水路の管を付設するためドラグ・ショベルで溝（深さ1m）を掘削し、その溝の中に入り寸法確認、写真撮影を行っていたところ上部法面（のりめん）の地山（高さ5m）が崩落し生き埋めとなった。	30107	5	10～ 29
2004	9	8～ 9	法面（のりめん）のラス張りをするため法面天端の親綱を取り付けるアンカーの状態を確認していたところ、天端より6.1m下に墜落した。	30199	1	1～9
2004	6	13～ 14	土止め支保工の変更作業中、既設の土止め支保工の親杭（H形鋼材、200×200×8×12mm）を杭頭から約5mの個所でガス溶断した際に親杭の裏側の土砂が崩壊して、下敷きになった。	30201	5	1～9
2004	11	15～ 16	分譲地の造成工事において、車両系建設機械（ドラグ・ショベル）で掘削した穴（深さ2.5m、幅5.5m、長さ6m）に入って、直径250mmの雨水管（塩ビ管）の敷設作業を行っていたところ、開削部分の中央に残していた高さ1.5mの地山の一部分が約5mにわたって倒れるように崩壊して被災した。	30109	5	10～ 29
2004	9	9～ 10	公園予定地内の防空壕の立入禁止柵修繕工事において、鉄骨の立入防護柵取り付けのため、既存の防護柵の解体作業中に、防空壕入り口の岩盤が崩落した。	170209	5	1～9
2004	4	9	地中配電線用管路敷設のため幅90cm、深さ2.2m、長さ11mの掘削を溝	30301	5	1～9

		10	の底で作業中、土止め支保工のない掘削面が崩れ土砂で埋まった。			
2004	12	11 ～ 12	マンションの基礎工事において、被災者が掘削底面で埋戻し作業を行うため、人通孔の養生を行っていたところ、ドラグ・ショベルのオペレーターが被災者の付近の地山を切り崩したため、被災者が土砂に埋没した。	30201	5	30～ 49
2004	2	14 ～ 15	下水道管敷設工事において、土止め支保工を設置するための深さ2.8m幅90cmの溝の中で、溝の壁をスコップでならず作業をしていたところ、片側の地山が崩壊し被災した。	30110	5	1～9
2004	2	10 ～ 11	発電所えん提修繕工事において、岩石をせき止め用として使用するため移動に使用するワイヤーを岩石に巻いたところ、岩石が被災者側に倒れた。	30107	7	10～ 29
2004	9	11 ～ 12	電話管撤去作業中、掘削箇所内部に立ち上がった際、土砂崩壊が発生し生き埋めとなった。	30199	5	10～ 29
2004	1	14 ～ 15	民家宅地内において合併浄化槽の埋設工事を行うため、穴（深さ約2m）に入り、ならしの作業をしていたところ、穴内部の土砂が崩れその下敷きになった。	30110	5	1～9
2004	3	13 ～ 14	道路工事等に使用する砕石を製造している事業場において、車両系建設機械（ブレーカー付ドラグシャベル）を使用し、採取した砕石を砕く小割り作業に従事していたところ、作業場所の上部の棚が崩壊し、機械ごと土砂に埋まった。	20201	5	10～ 29
2004	10	16 ～ 17	ほ場整備工事において配水管を敷設作業中、掘削溝内で待機していた作業員2名が、崩壊した法面（のりめん）（幅約1m、長さ約22m、高さ約2m）の土砂に埋もれた。	30106	5	10～ 29
2004	10	16 ～ 17	ほ場整備工事において配水管を敷設作業中、掘削溝内で待機していた作業員2名が、崩壊した法面（のりめん）（幅約1m、長さ約22m、高さ約2m）の土砂に埋もれた。	30106	5	10～ 29

2004	9	17 ～ 18	林道開設工事現場で、法面（のりめん）のラス張りのためのアンカーピン打ちの作業中、法面（高さ約15m、長さ約20m）が崩れ、生き埋めになった。	30106	5	1～9
2004	5	15 ～ 16	災害防止工事現場で落石防護工事終了に伴い、親綱の撤去作業を行っていたところ、ロックネットと法枠の間に転落した。	30106	1	10～ 29
2004	2	9 ～ 10	水路工事現場において、水路内に入り測量作業の補助作業を行っていたところ、前日に掘削した法面（のりめん）の上部が崩れ、さらに法面に設置していた鉄板（幅3m、高さ1.5m）が倒れて下敷きとなった。	30107	5	1～9
2004	12	21 ～ 22	ドラグ・ショベルを運転し間伐材搬出のための林道の拡幅作業を行っていたところ、林道片側の斜面が幅16mに渡って立木とともに崩落し、その土砂や倒木に巻き込まれドラグ・ショベルごと谷底（約50m）に墜落した。	60201	1	10～ 29
2004	8	16 ～ 17	養豚場の浄化槽新設に伴い排水管理設作業（延長300m）を行っていた際に掘削溝が崩壊し、生き埋めとなった。	30110	5	1～9
2003	12	11 ～ 12	ダム堰堤の修繕工事において、道路上に設置されたケーブルクレーンの運転席周辺で落石に激突されたクレーンオペレーターが倒れているのをダムの巡視をしていた森林組合員に発見された。	30101	4	1～9
2003	12	11 ～ 12	農道の舗装工事に伴う遺跡の有無の確認試掘において、掘削箇所（幅2m、長さ9.6m、深さ2.2m）の壁面を手ベラで仕上げ掘削していたときに、壁面が幅約2.2mにわたり崩壊し胸部が崩壊した土砂と壁面の間にはさまれた。	120109	5	100 ～ 299
2003	11	11 ～ 12	葉枯らしを終えた杉の枝払い作業中に、同僚のいる場所まで行くため斜面（勾配30～40度）を横切るように歩行していて足を滑らせ、斜面に仮置きされていた杉に胸部を打ちつけた。	60201	2	10～ 29
		13	山頂付近の傾斜48度の現場で、チェーンソーで伐採した杉（胸高直径			

2003	11	11	35cm、長さ15.9m) の枝打ち作業中に、杉とともに転落し、杉の木は	60201	1	1~9
		14	16.4m下に、作業者はさらに16.7m下に転落した。			
2003	11	11	上水道管布設工事において、仮設上水管のボルト撤去作業中に掘削面の	30110	5	1~9
		12	地山が崩壊し、撤去されていなかったアスファルトが滑り落ちてきて下			
			敷きになった。			
2003	11	12	下水道新設工事において、幅80cm、深さ2mに掘削した溝の中でスコッ	30110	5	30~
		13	プで床掘りをしていたときに、砂質土の側壁が幅2.25mにわたって崩壊			49
			し、続いて、崩壊した側壁の上にあったアスファルト塊（重さ約1.2t）が			
			崩落して胸に激突した。			
2003	11	10	県道の災害防除・道路拡幅工事において、車両系建設機械のブレーカと	30106	5	30~
		11	ドラグ・ショベルを交互に使用して道路上で三分に掘削した法面（のり			49
			めん）下の床掘り作業をしていたところ、高さ約18m、幅約10mにわ			
			たって法面（のりめん）が崩壊し、ブレーカと無人のドラグ・ショベル			
			が土砂に巻き込まれて道路下9mに流れる川に転落し、土砂に埋まった。			
2003	10	9	国道斜面の災害復旧工事において、道路面から高さ約24mの地点で法面	30108	5	1~9
		10	（のりめん）の浮石除去作業を3名で行っていて、8mの岩塊の上半分を			
			前日までに小割して除去し、下半分の除去のため岩塊を支えていたワイ			
			ヤロープを外しているときに突然岩が割れ、ワイヤロープ緊結用クリッ			
			プを岩の個所で外していた者に岩（質量約1.5t）が激突した。			
2003	10	16	地すべり防止工事において、ドラグ・ショベルで南側斜面を深さ1.5m、	30108	5	10~
		17	約60度の勾配で床掘して暗渠（きよ）管を敷設し、吸出防止材を施す作			29
			業を3名で行っていたときに、南側斜面の地山（泥岩）が高さ6.1m、幅			
			3.6m、奥行0.9m（推定土量約4m ³ ）にわたり崩壊し、1名が窒息死し			
			た。			
2003	10	13	復旧治山工事現場に設置してあるケーブルクレーンの修理を終了して帰	30108	1	1~9
		14	社するとき、工具の忘れ物に気づいて作業現場に探しに行ったところ			
			足を踏み外して転落した。			
		13	配水管布設工事で、配水管（塩ビ、長さ4m）を据付け土を埋めて固定す			

2003	10	～	る作業を終了したときに、土砂（高さ2.2m、幅45cm、長さ4.9m）が崩	30199	5	10～
		14	れ落ち、口の高さまで埋まった。			29
2003	10	～	国道沿いの法面（のりめん）の落石防護ネット張り工事において、山の	30199	1	1～9
		13	斜面（傾斜角約45度）を5人の作業員が一行に並んで歩いて作業箇所へ向			
		14	かっていたところ、4人から少し離れて最後尾を歩いていた者が斜面を約			
		14	50m転落した。			
2003	9	～	道路拡張工事において、工事完成検査が終了したので法面（のりめん）	30106	4	30～
		14	の落石防止柵に使用していた単管を片づけるため、落石防護ネット内に			49
		15	入って単管を防護ネットの外にいる者に手渡していたときに、法面（の			
			りめん）上部から岩石が落下し激突された。			
2003	9	～	トラック2台に大根を積込んで市場へ向けて走行中、県道上で1台のト	40301	1	10～
		17	ラックの左後輪がパンクしたため退避所で交換するためタイヤのナット			29
		18	を緩めていたときに、バランスを崩して約50m下の岩場に転落した。			
			（なお、同行運転者からの連絡で駆けつけた社長も救助のため崖を降り			
			ようとして転落し死亡）			
2003	9	～	同僚3名と災害復旧工事のための測量作業中、高さ12m、勾配約32度の山	170209	4	1～9
		13	の尾根付近から直径30～40cmの石が落下し、直撃された。			
		14				
2003	8	～	道路法面（のりめん）の巨石破碎除去工事において、法面（のりめん）	30199	5	1～9
		14	の岩盤部分（巨石）を発破するため削岩機を用いて岩盤部分を削孔する			
		15	作業を行っていたときに、足元の岩盤部分が崩落し、使用していた親綱			
			も切断したため崩壊した岩・土砂とともに墜落した。			
2003	8	～	住宅裏の崖上の雑木伐採において、雑木伐採の途中で休憩のため親綱か	30199	1	1～9
		9	ら安全帯を外したときに、バランスを崩して高さ9.4mの崖から墜落し			
		10	た。			
2003	8	～	物流センターの雨水排水施設改修工事において、ヒューム管を敷設する	30110	5	1～9
		0	ためドラグ・ショベルで溝（勾配約80度、幅210cm、深さ191cm、長さ			

		1	15.8m) を掘って中で均し作業を行い溝内から出ようとしたときに、幅70cm、長さ6.3mにわたり側壁が崩壊し生き埋めになった。			
2003	8	13 ~ 14	林道脇の地山崩壊防止のための治山工事において、高さ約3mのコンクリート防護壁の型枠の取り外し作業中に、防護壁脇の法面（のりめん）（勾配約60度）が幅約20m、高さ約10mにわたって崩壊し、防護壁と法面（のりめん）との間で作業をしていた3名の労働者が、崩壊した土砂（崩壊土量約250m ³ ）の生き埋めとなり2名が窒息死した。	30199	5	10~ 29
2003	8	13 ~ 14	林道脇の地山崩壊防止のための治山工事において、高さ約3mのコンクリート防護壁の型枠の取り外し作業中に、防護壁脇の法面（のりめん）（勾配約60度）が幅約20m、高さ約10mにわたって崩壊し、防護壁と法面（のりめん）との間で作業をしていた3名の労働者が、崩壊した土砂（崩壊土量約250m ³ ）の生き埋めとなり2名が窒息死した。	30199	5	10~ 29
2003	8	15 ~ 16	治山復旧工事において、法面（のりめん）で伐採作業を行っていた作業者が所定の休憩時間に法面（のりめん）の平らなところで休憩していたところ、法面（のりめん）の上方で立木が倒れ、それにより生じたと思われる落石が落下してきて左前頭部に当たった。	30199	5	1~9
2003	7	13 ~ 14	基礎工事で、H鋼杭の間に横矢板を入れるため約10mの深さのところを掘削していたところ、土砂（約3~4m ³ ）が流出したので土砂等を除去して11mのところまで横矢板の積み直し作業を実施していたときに、土砂（約50m ³ ）が流出してきて生き埋めになった。	30199	5	1~9
2003	7	16 ~ 17	法面（のりめん）（勾配約40~48度）の草刈り作業中、高さ約12.5mの崖から転落した。	150102	1	30~ 49
2003	7	14 ~ 15	下水道工事において、掘削溝（長さ約5m、深さ約1.8m、幅約0.6m）の床面に下水管を敷設しているときに、掘削法面（のりめん）が約0.8m ³ 崩壊し背中まで土砂に埋まった。	30110	5	1~9
2003	7	14 ~	法面（のりめん）の吹き付け作業を他の労働者と交代して15時の休憩を取るために、山の際でロリップと墜落防止用安全帯を外したときに、高	30199	1	10~

		15	さ約30mのところから墜落した。			29
2003	7	13 ～ 14	農業用排水管路工事において、深さ約2.5mを掘削して土止め支保工を設置するため溝内に入って軽量鋼矢板を建て込む作業を行っていたときに、掘削個所の土壁が崩れ生き埋めとなった。	30110	5	1～9
2003	7	9 ～ 10	5名で肩掛け式刈払機で下刈り作業を行っていたが、午前の休憩時間になっても1名が戻って来ないので捜索したところ、勾配約70度の崖に生えていた樫の切株（直径5cm）に背負っていたリュックが引っかかり、宙つりの状態で死亡していた。	60209	1	30～ 49
2003	7	11 ～ 12	地滑り防止擁（よう）壁築造工事の準備作業として、施工場所上部の斜面（62度）で上部からロープを垂らし、ロリップ式安全帯を使用して落石防止用のモルタルを吹き付けるための金網を張る（ラス張り）作業中に、安全帯がロープから抜けたため約8mの高さの斜面から墜落した。	30199	1	10～ 29
2003	7	11 ～ 12	残土処分場の排水管の設置工事で、地山を掘削（幅33m、長さ5m、深さ5m）し、その中で3名がポリエチレン製の管（長さ5m、直径60cm）を敷設していたときに、法面（のりめん）の土砂幅6m、高さ約1.6m、土量10m ³ が崩壊し3名が埋まって1名が死亡した。	30109	5	10～ 29
2003	6	8 ～ 9	碎石場において、岩石を運搬するため積込み場所にダンプ・トラックを後進させていたときに、その付近にあった岩石が崩壊して運転席に激突した。	20201	5	1～9
2003	6	9 ～ 10	下水道管布設工事において、ブレーカーとドラグ・ショベルによる掘削作業中に、掘削側面が崩壊し掘削床にいた者が生き埋めになった。	30110	5	10～ 29
2003	6	11 ～ 12	道路に設置したドラグ・ショベルのバケットで生コンクリートのホッパーをつり上げ、法面（のりめん）下へ生コンクリートの打設作業中に、路肩および法面（のりめん）が崩壊したため、法面（のりめん）下で作業していた2名の下半身が埋まったので、ドラグ・ショベルを移動しようとしてブームを山側に旋回させたところ、さらに土砂が崩れてドラグ・	30106	5	30～ 49

			ショベルが転落し、1名がドラグ・ショベルの下敷きになった。			
2003	6	10 ～ 11	急傾斜地崩壊対策工事において、3名でスコップ等を用いて土砂の搬出作業を行っていたところ、地山が高さ約6m、幅約10mにわたり崩壊し1名が死亡した。	30199	5	10～ 29
2003	5	15 ～ 16	遊歩道脇の谷側斜面で、赤松のかかり木を取り除く作業をしていて27.3m下の川に転落した。	170209	1	10～ 29
2003	5	10 ～ 11	下水道築造工事において、深さ2.7mの掘削溝内で土止め支保工の腹起しを設置していたときに、掘削溝の側面が崩壊し鋼矢板と腹起しとの間にはさまれた。	30110	5	1～9
2003	5	7 ～ 8	NATM工法によるトンネル工事（延長334m）において、坑口から約110mの地点で切羽鏡面の発破準備作業としてホイールジャンボのバスケット上から切羽への装薬を行っていたときに、切羽の高さ1.1m、幅1.1m、約0.3m ³ の岩塊が崩壊して直撃された。	30102	5	100 ～ 299
2003	5	14 ～ 15	森林管理センターの臨時作業員が、ヒノキ人工林に出張して輪尺等で立木の調査を行っているときに、バランスを崩して急斜面（平均傾斜40度）を滑落した。	60209	1	10～ 29
2003	5	9 ～ 10	法面（のりめん）小段において、ドラグ・ショベル（機体質量3t）で掘削していたところ、小段の地山が崩壊したためドラグ・ショベルが7m下に転落した。	30106	1	10～ 29
2003	4	14 ～ 15	ゴルフ場で、芝生育成のために目土散布機を操作して8番ショートコースのバックティグラウンドでの作業を完了し、方向転換をしようとしていたときに、端に寄り過ぎて散布機とともに約11m下に転落した。	140301	1	30～ 49
2003	3	9 ～ 10	木材伐出現場で、斜面約50度のところで伐倒した原木の木寄せ作業をしていたときに、バランスを崩して約7m下の地面に墜落した。	60201	1	1～9
		13	伐倒木の集材作業において、地山部（角度35度～39度）にいた者が転落			

2003	3	～ 14	し後頭部を石にぶつけて死亡した。	60201	1	1～9
2003	3	9 ～ 10	道路拡幅工事において、法面（のりめん）掘削箇所（幅約25m、高さ約3m）にL字よう壁を取付けるため、基礎コンクリート上で墨だし作業をしていたときに、法面（のりめん）が崩壊し土砂（高さ約3m、幅約3.9m、奥行き90cm、崩壊土量は約9・3）に埋まった。	30199	5	10～ 29
2003	3	11 ～ 12	法面（のりめん）復旧工事において、一人で作業していたときに地山が高さ2.3m、幅2mにわたり崩壊し生き埋めになった。	30199	5	1～9
2003	3	11 ～ 12	民間山林の伐木搬出で、山林脇にスウィングヤーダーを設置して山林（高さ約5～6m、勾配35～40度）から伐木を搬出する合図を送り退避場所へ移動中に、足を滑らせて山林の法面（のりめん）（45～55度）を転げ落ち林道まで墜落した。	60209	1	1～9
2003	3	0 ～ 1	新築分譲住宅建設工事で、浄化槽の据付けのため溝（幅約1.8m、奥行き約3.5m、深さ約1.8m）を掘削し、その中で厚さ約10cmに流し込んだ生コンを鍍(こて)で押さえていたときに、地山が崩れてきたため窒息死した。	30309	5	10～ 29
2003	3	10 ～ 11	10tダンプ・トラックで、碎石場から建設工事現場に碎石の運搬作業中、町道の上り坂のカーブ手前の路肩が長さ13m、幅3.4mにわたって崩壊し、約40m下の道路に転落した。	40309	17	1～9
2003	3	11 ～ 12	道路の拡幅に伴う側溝の敷設工事で、地中にある排水管（コンクリート製外径50cm）をドラグ・ショベルで引き抜くため、ワイヤロープを掛けようとしていたときに、掘削箇所の側面の土砂が崩壊して頭部から胸部が配水管に圧迫された。	30106	5	1～9
2003	2	10 ～ 11	ほ場整備関連工事において、農業用配水管を布設するために掘削した箇所の土止め支保工を「作業し難い」ため、取り外して作業を行っていたときに、法面（のりめん）の一部が崩壊し土砂に埋まった。	30110	5	30～ 49

2003	2	10 ～ 11	杉（50年生）の全伐搬出作業において、チェーンソーで伐倒作業を行っている、傾斜60度の斜面から転落した。	60201	1	1～9
2003	2	11 ～ 12	採石場で、火薬類を装填する穴を穿孔し終えて穿孔機に乗車して後方に移動中、上部の岩盤が崩落し下敷きになった。	20201	5	10～ 29
2003	2	16 ～ 17	マンホールの移設工事において、ドラグ・ショベルで掘削した溝（深さ2.7m、長さ6.1m、幅2.5m）の中でマンホールの位置出し作業をしているときに、掘削面が長さ3.8m、巾0.5m、高さ1.2mの範囲にわたって崩壊し、土砂の下敷きになった。	30110	5	50～ 99
2003	2	14 ～ 15	水道管（塩ビ管）布設工事において、ドラグ・ショベルで溝掘削を行った後に溝の中に入って塩ビ管（3m）を据え付け、退去しようとしていたとき片側の掘削面が幅約60cm、深さ約1.8m、長さ約7.3mにわたって崩壊し、胸まで土砂に埋まった。	30110	5	1～9
2003	2	10 ～ 11	新築住宅の浄化槽埋設工事において、ドラグ・ショベルで長さ3m60cm、幅1m50cm、深さ1m80cm掘削後に底部の地均しをスコップで行っているときに、建屋側の地山が長さ約2mにわたり崩れて生き埋めになった。	30309	5	1～9
2003	2	14 ～ 15	農業用排水路工事で、地下2.5m付近に塩ビ製の管（直径：25cm、長さ：4m）を埋設し、深さ1mほど埋め戻した後に支保工を取り除いて残りの埋め戻し作業を行っていたところ、アスファルト（厚さ5cmほど）路面下部の砕石部分が崩れてきて胸部付近まで埋まった。	30110	5	1～9
2003	2	10 ～ 11	土地造成工事のため、チェーンソーを用いて法面（のりめん）高さ約5mのところ立木の伐木作業中に、法面（のりめん）より墜落した。	30109	1	1～9
2003	2	15 ～	農道の拡幅工事において、地山を掘削したのち法面（のりめん）保護のためのブロック擁（よう）壁を築造するための床掘り作業をしていたところ、斜面（4分勾配：泥岩）が高さ9m幅9m厚さ50cmにわたり崩落	30106	5	10～ 29

		16	し、生き埋めになった。			
2003	1	11 ～ 12	小学校の敷地内にある農園に通じるスロープ（高低差約70cm）を設置するため、2名で手作業による掘削を行っていたところ、崩れてきた土砂で生き埋めとなり1名が死亡した。	30199	5	1～9
2002	12	0 ～ 1	地下2.5mの位置に水道管（長さ6m、径1m）を埋設し、溶接が終って管末に止水栓を取り付けていたときに、土止めをしていなかった掘削溝の末端部が崩壊して身体の大部分が土砂に埋まった。	30199	5	1～9
2002	10	17 ～ 18	工場の工業用水管布設工事において、深さ約2.8mの溝内に布設した送水管の写真を撮って掘削構から出ようとしたときに、側壁が幅約6.7m、高さ約2.5mに亘って崩壊し、2名のうち1名が全身生き埋めとなった。	30199	5	1～9
2002	10	15 ～ 16	ケーブルクレーンの主索張り替え作業において、山頂側タワー付近で主索のクリップ止め作業を行っていたときに、工具（ラチェット）を山の斜面に落としたので、それを拾うため安全帯のロープを外して山の斜面に立ち入り崖から沢に墜落した。	30302	1	10～ 29
2002	12	14 ～ 15	雨水の浸透槽設置工事において、バックホーで掘削した部分（深さ約3m）に土止め支保工を設置するため、内部に入って作業中に地山が崩壊（約2.5?）し生き埋めとなった。	30199	5	1～9
2002	12	14 ～ 15	林道開設工事において、法面が高さ約60m、長さ約50mにわたり崩壊したため、下方で打合せをしていた2名のうち逃げ遅れた1名が生き埋めになった。	30106	5	10～ 29
2002	6	13 ～ 14	松くい虫の防除作業において、チェーンソーで伐木を行ったとき伐倒木が予定より90度ずれて倒れてきたので、急斜面（38度勾配）の谷側に逃げ、斜面を止まり切れずに崖から約24m下の小川に墜落した。	60209	1	1～9
2002	11	10 ～ 11	採石場において、小型ドラグショベルで水路内の土砂を取り除く作業を行っていたところ、直径104cmの石が落下してきて下敷きになった。	20201	7	10～ 29
			排水管敷設工事において、社長と労働者6名でバックホーで掘削して排水			

2002	12	15 ～ 16	管（径15cm×長さ4m）を敷設し、別のバックホーで埋め戻しながら作業を進めていたときに、横壁の土砂が約5.3mにわたり崩壊し、穴の中にいた4名のうち管の設置据付を行っていた3名が生き埋めとなり2名が死亡した。	30110	5	1～9
2002	12	15 ～ 16	排水管敷設工事において、社長と労働者6名でバックホーで掘削して排水管（径15cm×長さ4m）を敷設し、別のバックホーで埋め戻しながら作業を進めていたときに、横壁の土砂が約5.3mにわたり崩壊し、穴の中にいた4名のうち管の設置据付を行っていた3名が生き埋めとなり2名が死亡した。	30110	5	1～9
2002	11	16 ～ 17	落石防止用コンクリート擁壁の設置工事において、打設したコンクリート擁壁の型枠点検中に、山側法面の土砂（岩）が崩壊したため擁壁と岩との間に挟まれた。	30106	5	1～9
2002	7	8 ～ 9	治山工事において、谷止工（長さ20m、高さ9m、幅5m）を打設するため左岸側の地山（レキ質土）をバックホーで掘削し、左岸上流側の岩に削岩機であけた4箇所の穴に2名の作業員がハンマーでくさびを打ち込む作業を行っていたときに、上から岩石が落下し1名の左顔面に激突した。	30108	4	1～9
2002	11	11 ～ 12	採石山において、次の発破の前作業としてドラグショベルで地面を均していたときに、岩盤が掘削面からはがれてドラグショベルを直撃し運転者が運転室内で押し潰された。	20201	5	1～9
2002	10	13 ～ 14	浄化槽の設置工事において、深さ約2mの明かり掘削溝内で掘削底の補強を行うため角材を設置していたときに、掘削面の土砂が幅2.6m、奥行0.6m、高さ2.3mに亘って崩壊し胸部まで埋まった。	30302	5	1～9
2002	10	0 ～ 1	採石場で岩盤から岩を切り出す作業をジェットバーナーを使用して行っていて、崩落した岩（20?）に激突された。	20201	5	1～9
2002	10	11 ～	法面保護のモルタル吹付け作業終了後の出来高管理のための法長の測定作業で、高さ約31.5mの法肩上で巻尺を持って各側点における法長を計測していて、次の計測点に行くため隣の親綱に向って移動中に23.5m下	30199	1	10～ 29

		12	に墜落しさらに8m下に墜落した。			
2002	6	15 ～ 16	道路拡幅工事において、下段で高さ約2m、幅約1.5m、奥行約0.5mの崩壊があったのでいったん退避し、その後、上段で5名が吹付けと法枠の清掃を、下段でドラグショベルを用いて応急処置として崩壊部分に土を入れる作業を再開したところ、法面頂部で大規模崩壊が発生し、崩壊とともに転落した1名が落石（約1m）を腰部に受けた。	30106	5	1～9
2002	10	16 ～ 17	土砂崩れ防止工事において、降雨から法面を保護するため法面にブルーシートを掛けていたときに、法面（勾配53°）が高さ約9m、巾約15mにわたり崩壊し法面の下方にいた作業員が巻き込まれた。	30108	5	10～ 29
2002	10	17 ～ 18	鉱山の廃土堆積場に新しい擁壁を建設するにあたり、ドラグショベルで床掘りし同僚はブレーカーで擁壁を壊していたところ、上部の堆積された廃土が崩壊してブレーカーはその場で埋まり、ドラグショベルは約20m下の川に転落して廃土に埋まって2名とも死亡した。	30199	5	1～9
2002	12	17 ～ 18	鉱山の廃土堆積場に新しい擁壁を建設するため、ドラグショベルで床掘りし同僚がブレーカーで擁壁を壊していたところ、上部の堆積された廃土が崩壊してブレーカーはその場で埋まり、ドラグショベルは約20m下の川に転落して廃土に埋まって2名とも死亡した。	30199	5	10～ 29
2002	10	17 ～ 18	トンネル坑口より約700mの切羽において、ホイールジャンボのマンケージ（高所作業用かご）内でロックボルトの注入作業中、切羽鏡面より地山が約20?崩壊し土砂とマンケージの手すりとの間に挟まれた。	30102	5	30～ 49
2002	10	0 ～ 1	掘削箇所に下水道用の塩ビ管3本を設置する作業で、土止め用の矢板を設置して腹起こしを仮止めするため掘削箇所に入って作業を行っていたときに、掘削箇所の片側法面が長さ約10m、幅約1m、深さ約2.5mに亘って崩落し2名が埋まった。	30110	5	100 ～ 299
2002	10	0 ～ 1	掘削箇所に下水道用の塩ビ管3本を設置する作業で、土止め用の矢板を設置して腹起こしを仮止めするため掘削箇所に入って作業を行っていたときに、掘削箇所の片側法面が長さ約10m、幅約1m、深さ約2.5mに亘っ	30110	5	100 ～ 299

			て崩落し2名が埋まった。			
2002	9	13 ～ 14	崩壊した法面の改修工事において、法面の頂部で測量の支障になる木の枝及び下草を刈り落とす作業のため、外した親綱を手を持って移動中にバランスを崩し、高さ19m下のアスファルト舗装された県道に転落した。	30106	1	10～ 29
2002	9	11 ～ 12	岩石採取場の作業道を作るため、発破をかけた15分後に単独でドラグショベルを用いて作業を行っていたが、その後ドラグショベルが稼働していないことを同僚が不審に思い様子を見に行ったところ、斜面の崩壊で落下した石によりドラグショベルの運転席内で押しつぶされているのを発見した。	20201	5	10～ 29
2002	4	16 ～ 17	農業用水管の設置工事において、管を敷設するため掘削された溝（幅40cm、長さ10m、深さ約3m）の中に入って作業を行っていたとき、地山の一部（高さ1.1m、幅1.7m）と地山の上に置かれた掘削土が崩壊し生き埋めになった。	30199	5	100 ～ 299
2002	8	14 ～ 15	伐倒した杉を搬出する道を開設するため、トラグショベルで地山の掘削作業を行っていたときに左側の地山が崩壊し（高さ約9m、幅約10m）、崩壊した土砂と立木で運転席を押し潰された。	60201	5	1～9
2002	8	8 ～ 9	斜面の草取りで石の上に足をかけて上方の草を取ろうとしたときに、足が滑って側溝に転落し頭部を強打した。	140101	1	10～ 29
2002	8	10 ～ 11	山林敷地の測量整備として山林斜面を草刈機で下草刈り作業中、高さ3.3mの斜面の端から用水路に墜落し側溝で頭を強打した。	30199	1	10～ 29
2002	8	9 ～ 10	霊園内の草刈り現場において刈った草を集めて一輪車で運んだのち、草を手でかかえて幅約2mの通路端から勾配約30度の斜面に投げ置いていたときに、斜面から約11m転落し、草の運搬用に停めてあった2tトラックに激突した。	30199	1	1～9

2002	7	15 ～ 16	落石対策のため立木に親綱を固定しロリップ付き安全帯で斜面の草刈り 作業中、落石（約50cm×40cm×25cm、重さ56kg）が右側頭部に当 たった。	30199	4	30～ 49
2002	7	10 ～ 11	台風で崩落土砂が堆積した町道の復旧作業において、崩壊箇所の上部に あった立木に親綱を取り付けて法面の浮石を除去し、町道管理者の確認 検査に対応するため崩壊箇所の脇に安全帯を装着したまま待機していた ところ、上方約20mほどの法面が崩壊して親綱を取り付けていた立木も ろとも町道の約50m下まで流された。	30199	5	100 ～ 299
2002	7	13 ～ 14	橋脚建設のため地山の掘削作業中（深さ約6m）、地山が崩壊し、土止め 支保工の最上段の火打上で、中の作業を見ていた現場責任者が火打とと もに掘削孔内に墜落し、崩れてきた土砂の下敷きになった。	30108	5	30～ 49
2002	7	11 ～ 12	道路改良工事において、作業員6名が既存の掘削箇所で床掘りを行ってい たときに、背後の地山が崩壊し1名が土砂に埋まった。	30106	5	1～9
2002	7	14 ～ 15	採石場でブレイカーにより掘削作業を行っていたところ、ブレイカー先 端の掘削箇所の上部にあった岩石（約1t以上）が崩落して運転席に落下 し、運転席もろとも押しつぶされた。	20201	4	10～ 29
2002	7	15 ～ 16	道路拡幅工事現場の法面で高さ約2m、幅約1.5m、奥行約0.5mの崩壊が あり、退避後、上段で5名が吹付け法枠の枠内清掃を、下段でドラグ ショベルを用いて応急処置として崩壊部分に土を入れる作業を再開した ところ、法面頂部より大規模崩壊が発生し1名が死亡した。	30106	5	1～9
2002	7	19 ～ 20	防火水槽の掘削床付け完了後、水槽の位置出しのため2名で掘削法面の異 常の有無を確認し墨入れ作業していたところ、敷き鉄板下の土砂が突然 崩壊し1名が逃げ遅れた。	30201	5	1～9
2002	7	7 ～ 8	治山工事現場に社用車で向かうため林道を走行中、林道沿いの法面が約 50m上方で崩落し、落下してきた土砂に車が埋った。	30108	5	30～ 49

2002	4	13 ～ 14	道路緊急整備工事において、機械掘削された法面（高さ約4m、掘削勾配約65度）の直近で「鍬」で河床の整形作業を行っていたとき、上方約3.5mの法面から石（質量113kg）が落下し前かがみの状態で作業していた者の背中を直撃した。	30106	4	30～ 49
2002	3	9 ～ 10	マンション新築工事現場で、ドラグショベルを用いて高さ1mほどの地山を掘削していたところ、ユンボが転落してその下敷きになった。	30201	1	10～ 29
2002	7	15 ～ 16	林道開設工事の土砂捨て場において、谷側法面の整形作業を行っていた2台のドラグ・ショベルのうち1台のドラグ・ショベルを作業箇所から移動したときに、突然土砂が崩壊してドラグ・ショベルが運転席ごと埋まった。	30106	5	30～ 49
2002	5	0 ～ 1	資材置場に積み上げられたコンクリートがら（高さ約12m、幅約50m、奥行約9.5m）を処理するため、ダンプトラックの荷台にバックホーでコンクリートがらを移し替えていたところ、コンクリートがらの一部が崩れ落ちバックホーの運転手を直撃した。	150102	5	10～ 29
2002	5	15 ～ 16	山で伐採した玉切り後の木材を犬走り（作業道で巾約2.5m）へ木落とし作業中、斜度約35度を滑り落ちて頭部を強打した。	60201	1	1～9
2002	5	10 ～ 11	農業用水のボックスカルバート下に配水管を通す作業で、ボックスカルバートの南側を幅50cm、深さ約2m、長さ約2mにわたりパワー・ショベルで掘削し、掘った溝の中に入って人力で配水管を通す穴を掘削中に側壁が崩れ生き埋めとなった。	30110	5	1～9
2002	4	14 ～ 15	店舗の改装工事で、屋外駐車場の下水管を敷設するため幅約80cm、長さ約7m、深さ約2mにわたり溝掘削を行って排水管（塩ビ製100mm）を敷設し、排水管の傾斜を確認して溝から出ようとしたときに、幅約70cm、長さ約4m、深さ約2mにわたり側面の土砂が崩壊し生き埋めとなった。	30203	5	10～ 29
		14				

2002	1	15	工事で使用した資材をケーブルクレーンで吊り上げ移動中、ウインチ運転者に合図をしていた者が40m下の林道に転落した。	30199	1	10～29
2002	8	16～17	工場内の「防災池緊急拡張工事」の防災池内に設けられた取付道路をドラグショベルで走行していたところ、防災池の南斜面が崩壊したためドラグショベルが崩壊した土砂に押し流されて約10m下の防災池に転落し、崩壊した土砂に押しつぶされた。	30199	5	1～9
2002	1	15～16	完成したえん堤を撮影するため、えん堤上流側に降雨等により堆積した土砂をドラグショベルで掘削したのち、えん堤の最下部の床掘部分に残った土砂を2人でスコップ、ジョレンで平らに均す作業を行っていたときに上部の法面が高さ約9m、幅約12mにわたり崩壊し生き埋めとなった。	30108	5	1～9
2002	1	15～16	完成したえん堤を撮影するため、えん堤上流側に降雨等により堆積した土砂をドラグショベルで掘削したのち、えん堤の最下部の床掘部分に残った土砂を2人でスコップ、ジョレンで平らに均す作業を行っていたときに、上部の法面が高さ約9m、約12mにわたり崩壊し生き埋めとなった。	30108	5	1～9
2002	4	11～12	基礎の掘削作業で深さ1.4mのところ床付作業を行っていたところ、壁面が突然崩落し土砂に埋まった。	30201	5	30～49
2002	4	14～15	坑口より約1000m付近でNATM工法により切羽掘削作業を行っていたところ、切羽が高さ約3m、幅約1.5mほど崩れて岩塊に直撃された。	30102	5	100～299
2002	3	19～20	高速道路のトンネル工事現場で、切羽上部より岩石（長さ2.5m、幅0.7m、重さ約4t）が落下して、装薬作業を行っていた者を直撃した。	30102	5	50～99
2002	3	22	道路舗装工事に付帯する下水管理設工事において、バックホーを用いて長さ6m、幅1m、深さ2mに掘削し、土止め支保工を設置するため未施工	30106	5	10～

		23	箇所に降りたところ、掘削片面の土砂が縦2.3m、横2.9m、奥行き0.4mにわたり崩壊し生き埋めとなった。			29
2002	3	10 ～ 11	林道開設工事現場において、ドラグショベルで法面上にある木の除根作業を行なおうとしていたところ、突然、作業面の約4mから11mの地山が崩壊したため、作業面の一部が欠落してドラグショベルが約200m下の一般道路まで転落した。	30106	1	10～ 29
2002	2	11 ～ 12	畑地の灌漑用水管（塩ビ管）の布設工事において、深さ1.5m、床幅55cm、長さ20mの掘削溝の側面が長さ1.5m、地表からの深さ70cm、幅40cmに亘り崩壊し、掘削溝内で作業していた作業員のうち1名が崩壊した土砂と反対側の法面との間に挟まれた。	30199	5	30～ 49
2002	2	20 ～ 21	高速道路のトンネル掘削のため、坑口より約400mの地点で発破をかけずり取りが終了したが、切羽で肌落ちの危険を感じたので作業員に切羽に入らないよう職長が指示した後に1人が切羽右部に居て肌落ちした岩石に直撃された。	30102	5	1～9
2002	1	15 ～ 16	川から引水している工場角に設けてある木片焼却場の消火用パイプが詰まったため、パイプの取りかえ作業中に転落した。	10409	1	1～9
2001	12	0 ～ 1	送電線の障害木を伐採するため測量作業で、同僚の指示でポールを持って移動していたときに、50度以上の斜面を約21m転落した。	170209	1	30～ 49
2001	3	10 ～ 11	地元の住民から地山崩壊(約10万?)の連絡があったので、採石作業は中止して地山の様子を見ていたところ、高さ約250m、幅約150mにわたり地山が崩壊して、工場長、トラックへ積込み作業者、トラック運転手の3名が逃げ遅れ生き埋めになった。	20201	5	1～9
2001	12	13 ～ 14	下水道管敷設工事において、道路を幅約1.5m、長さ約9.5m、深さ約2mにわたり掘削していたが掘削箇所から岩が出てきたので削岩機を使用して砕いていたときに、土砂が崩落してきて砂と石が固まった層の断片と砕いていた岩との間に頭部をはさまれた。	30110	5	10～ 29

2001	11	8 ～ 9	林道開設に伴う残土処理場の新設工事において、機械掘削を行った法面 下で配水管の布設作業中に、法面が幅約4m、高さ約3mにわたり崩壊し 生き埋めになった。	30106	5	1～9
2001	10	14 ～ 15	林道の開設工事中に上部の地山(高さ約25m)が崩壊し、ドラグ・ショベル の運転席に巨石(約10m×5m×3m)が激突した。	30106	5	10～ 29
2001	12	13 ～ 14	下水道管を敷設する工事において、掘削した溝に簡易矢板による土止め 支保工を設置し、管敷設が終った区間について埋め戻すため作業員全員 で矢板を人力で引き、残った腹起こしを撤去していたときに腹起こしが 倒れてきて下敷になった。	30110	5	1～9
2001	12	13 ～ 14	農業集落排水事業の下水道管敷設工事において、下水道の支管を本管へ 繋ぐためドラグショベルで掘削し、埋設してあった本管を確認しようと して底に降りていたときに、支管と本管の交差部分の土砂が崩壊し(約 1.5?)生き埋めになった。	30110	5	10～ 29
2001	2	10 ～ 11	砂利採取場への取付道路を拡張するためブレーカーで法面(岩盤)を掘削し ていたところ、岩盤が幅約2m、高さ8mにわたって崩壊し、真下で作業 していたブレーカーの運転席を岩石が直撃し、ウィンドガラスを割って 頭部にあたった。	20202	5	1～9
2001	12	11 ～ 12	古いヒューム管を塩ビ管に替える工事において、土止め支保工の設置を 怠ったために2.5m掘削した法面が約9?崩壊し生き埋めになった。	30110	5	1～9
2001	11	9 ～ 10	法面に設置された枠内の緑化吹き付け作業のため法面を親綱を伝わって 法面上部に上がる途中、法面上から下方のよう壁小段上に(約10m)転落し た。(30106	1	1～9
2001	11	16 ～ 17	送電線鉄塔の点検作業を終え、駐車場に戻るため下山途中に巡視路から 約120mほど滑落した。	30301	1	30～ 49

2001	11	15 ～ 16	護岸用基礎工事のため掘削した溝の中に入り型枠の生コンクリートを均す作業をしていたときに、掘削した法面が幅約10mに亘り崩壊したため土砂に埋まった。	30107	5	50～ 99
2001	11	9 ～ 10	下水道築造工事において、下水管4mを埋設するため深さ1.8mに掘削した場所の床付作業を行っていたときに、土砂が崩れ生埋めになった。	30110	5	10～ 29
2001	11	15 ～ 16	マンション新築工事において、基礎工事のために掘った窪地(深さ約4m、広さ約400㎡)の壁面の地山(地質：細砂)が崩壊し、窪地の底部で基礎杭のハツリ作業を行っていた者が埋った。	30201	5	1～9
2001	9	0 ～ 1	測量作業を行っていて、昼休憩のためこう配28度の斜面を降りようとして笹又はつるに足をとられ前のめりに転倒し、町道横に設置してあるコンクリート製側溝角に頭部を打ちつけた。	170209	2	1～9
2001	10	0 ～ 1	山で除伐作業を行っていたときに、同僚が「気分が悪い。」と言って幅約1mの山の尾根に横になっていたが、再度現場に戻ったところ、尾根から転落して死亡していた。	60209	1	1～9
2001	10	10 ～ 11	山間部の国道の災害防除工事において、高さ約50mの急勾配法面に上方の自然木を利用して親綱を7本地上まで垂らし、高さ約40m付近の法面上でロリップを使用してラス(金網)をアンカーピンで張り付ける作業を行っていて、材料を取りに行くため上に登っているときに約50m下に墜落した。	30106	1	10～ 29
2001	10	9 ～ 10	乗用車で国道を走行中、右側の法面が崩壊し車両が土砂にのみこまれた。	170209	5	1～9
2001	9	16 ～ 17	台風の接近のため高速道路を閉鎖し手分けして道路各所を巡回点検していたときに、下り車線側の法面で盛り上がっている場所があるのを発見し現場に接近したとき法面が大規模に崩壊し4名が中央分離帯のガードレールまで流され2名が土砂に埋没した。	30199	5	10～ 29

2001	9	16 ～ 17	台風の接近のため高速道路を閉鎖し手分けして道路各所を巡回点検していたときに、下り車線側の法面で盛り上がっている場所があるのを発見し現場に接近したとき法面が大規模に崩壊し4名が中央分離帯のガードレールまで流され2名が土砂に埋没した。	30199	5	10～ 29
2001	10	10 ～ 11	林道沿いの法面へのコンクリート吹き付け工事において、法面に親綱となる繊維ロープ(4本)の設置作業中に1本が岩盤に掛かってしまったので、岩盤に掛かったロープにロリップ式の安全帯を取り付けて降り、ロープの掛かりを直したのち法面の途中から約27m下の林道に墜落した。	30199	1	1～9
2001	10	14 ～ 15	スキー場の管理道路を開設する工事において、掘削によって出た岩石を路肩下に積むため、岩石にワイヤーロープをかけていたところ、路肩の斜面から滑り落ちてきた岩石(質量約700kg)とワイヤーロープをかけていた岩石との間に胸部等を挟まれた。	60209	4	30～ 49
2001	9	9 ～ 10	集落排水工事において、掘削溝に排水管を埋設し排水管の上に砂をかけたが、排水管の位置がずれていたため、掘削溝に入り排水管の位置を直して掘削溝から出ようとしたときに掘削溝の側壁が崩落し生埋めになった。	30110	5	10～ 29
2001	9	11 ～ 12	排水路用ヒューム管埋設のため、建設用掘削機械で垂直掘りして床均し、均しコンクリート打設のため作業員3名が穴の中に入ったところ、粘土質の地盤が垂直方向に剥がれる形で崩壊し、反対側の掘削側面との間に挟まれた。	30199	5	1～9
2001	9	11 ～ 12	道路災害復旧工事において、昼前に作業が終了したので、高さ25mの地点から法面を登ろうとした時に足を滑らし高さ7mの地点まで落下し、安全帯で中吊り状態になり壁面に激突した。	30106	1	50～ 99
2001	8	10 ～ 11	排水用のヒューム管を埋設するため岩盤を約3.85mの深さに掘削した中で丁張取付作業を行っていたときに、側面の岩盤が約6?が崩落し、岩石の下敷きになった。	30106	5	10～ 29
		11				

2001	8	～ 12	切羽でホイルジャンボのケージに乗って発破前の「こそく」作業中に、高さ7.5m位の切羽から崩落があって背部に激突した。	30102	5	30～ 49
2001	8	～ 10	道路改良工事現場から出た花崗岩を二つに小割するため、岩上でせり矢を打ち込んだところヒビが入ったのでヒビをまたいでせり矢を抜いた直後に花崗岩が二つに割れ、割れた花崗岩の間に転落したところに割れた片方の花崗岩が揺れ戻り腰を地面との間に挟まれた。	30106	7	1～9
2001	8	～ 10	採石場の道路取り付けのためドラグ・ショベルで地山を掘削中に、路肩が崩壊し約40m下の谷へドラグ・ショベルとともに落下した。	30199	1	10～ 29
2001	7	～ 1	山中において送電線鉄塔化のための測量作業を行っていて、昼食休憩のために斜面(約60度)を移動していたときに足を踏み外して約40m滑落したのち道路脇に激突した。	170209	1	1～9
2001	7	～ 15	道路工事において、アンカーマシンを設置するための単管足場組立のため、小段上に上下2段に仮置きしていた単管の束のうち下側の束(径48.6mm×長さ5.5m×50本)のスチール製ベルト3本中2本をクリッパーで切断したところ、単管パイプが荷崩れしたため約7.5m下に墜落し、その上に単管パイプが落下してきた。	30106	1	30～ 49
2001	7	～ 17	河川に籠マットを敷設する工事において、当日の作業が終了したので河床から2mほど掘削した法面付近で排水ポンプの吸入口周辺の掃除を行っていたところ、突然幅4m、高さ4m、厚さ0.5mに亘り法面の軟岩部分が崩落し、腰部分まで埋った。	30199	5	1～9
2001	7	～ 10	県道の歩道に埋設した下水道管の手直し作業のため、ドラグショベルで長さ約5.5m、幅約1.8m、深さ約2mの溝を掘削し、掘削溝内で管の埋設深さを確認しているときに路肩側の土砂が崩壊し下敷きになった。	30110	5	1～9
2001	7	～ 18	下水道工事現場で、町道に掘った深さが約2.5mの溝に塩化ビニール製の下水道管を埋設作業中に土砂が崩れ内臓が破裂した。	30110	5	1～9

2001	7	8 ～ 9	国土調査に使用する杭をリュックで背負って山中を移動中、足を滑らせて約12m下のコンクリート道路に転落した。	170209	1	100 ～ 299
2001	7	9 ～ 10	高さ約2mのコンクリート擁壁で土止めされた民家に隣接する箇所の市道の側溝補修工事で、ドラグショベルで掘削したのち掘削箇所で土止めの補強を行っていたところ、民家敷地の土砂が擁壁とともに崩壊し崩壊した擁壁と道路側の溝壁との間に挟まれた。	30199	5	10～ 29
2001	7	8 ～ 9	前夜、園内で飼っているアニマルセラピー犬2匹が屋外に逃げたため、朝から捜索していて事業場から50mほど北に向かった地点の道路脇の崖下(高さ約35m)に転落した。	130201	1	50～ 99
2001	6	14 ～ 15	森林で混みすぎている木の間伐作業をしていたときに、高さ約7mの位置から山道に転落した。	60209	1	30～ 49
2001	6	8 ～ 9	掘削法面90度の掘削底面において地中に埋められた排水管(直径1m)の撤去作業中、背後の土砂が崩壊して生き埋めになった。	30106	5	50～ 99
2001	5	13 ～ 14	山の中腹に土石流監視用通路(幅90cm)の道を作る作業中、移動のため安全帯のフックを付け替えようとしていたときに足元を滑らせ急傾斜の斜面を約15m滑り落ちた。	30108	1	30～ 49
2001	5	11 ～ 12	砂防ダム工事で、法面の梯子に足を掛けて工事の状況を写真撮影するために黒板を持っていたところ、上部から直径約10cmの石が落下してきて頭に当たった。	30108	4	1～9
2001	4	16 ～ 17	宅地造成工事において、下水管敷設作業を終えて現場を立ち去ろうとしたときに、掘削溝の側壁が突然崩れ、掘削溝の中で床ならし作業をしていた者が逃げ切れずに、崩れてきた土砂の塊と掘削溝の側壁との間に下半身を挟まれた。	30110	5	1～9
		13	コンクリートミキサー車(10t)に生コン約5m ³ を積載し林道工事現場内を			10～

2001	2	～ 14	後進運転していたところ、左後輪が路肩から脱輪し約4m下に車ごと転落した。	40301	1	29
2001	4	10 ～ 11	林道用地と山林との境界を定めるために使用した補助杭を撤去しているときに、勾配約50度の法面から約6.5m下の林道に転落した。	30106	1	10～ 29
2001	2	～ 16	山腹斜面の転石整理及びモルタル吹付工事において、法面防護用金網の荷上げ作業で移動したときに足をかけた石が崩れ落ちたため、約54m下へ転落した。	30108	1	1～9
2001	4	～ 14	集材作業のため、山の上で伐倒木にワイヤーロープを掛ける作業中に、上部にあった伐倒木が滑り落ちてきて激突され、約9m下まで滑り落ちた。	60201	1	1～9
2001	4	～ 12	ゴルフ場のコース内において、平均傾斜約30度の法面を歩行型の芝刈機で芝刈り作業中に、芝刈機とともに斜面をカート道まで約30m転落した。	60101	1	1～9
2001	4	～ 16	間伐した伐木を機械集材装置(リモコン自走式)で移動を行う目的で、集材装置のフックが降りるのを待っていた玉掛け作業者が山の斜面(34度)を6.3m下の沢の斜面に落ち、沢の斜面先の水溜まり(深さ2m)で溺れた。	60201	1	1～9
2001	3	～ 21	先進導坑をベンチカット工法で切り広げるtネル工事現場において、切羽鏡面の下部で発破用火薬の装てん作業を行っていたときに上部の切羽鏡面が崩落し、その下敷きになった。	30102	5	10～ 29
2001	3	～ 16	道路建設工事において、高さ15.6mの山肌の岩盤上でたい積した土を取り除いていて墜落した。	30106	1	1～9
2001	3	～ 17	作業場内でトラクターショベルを運転中、高さ約3.5mの法面からトラクターショベルとともに転落し、車体に挟まれた。	20209	1	10～ 29
			地元住民から地山崩壊(約10万m ³)の連絡があったので、採石作業を中止			

2001	3	10 ～ 11	して地山の様子をみていたときに、高さ約250m、幅約150mにわたり地山が崩壊して、工場長(遺体で発見)、トラックへ積込み作業を行っていた作業員(行方不明)、トラック運転手の3名が逃げ遅れて生き埋めになった。	20201	5	1～9
2001	3	10 ～ 11	地山を階段状に掘削して斜面の下部にコンクリート擁壁を設置するため、コンクリート打設し、型枠をばらした後に写真撮影の準備のため現場責任者と2人がコンクリート擁壁と地山の間に入ったときに、地山が幅8.3m、高さ4m、奥行1.2mに亘り崩壊し生き埋めとなった。	30199	5	1～9
2001	3	10 ～ 11	地山を階段状に掘削して斜面の下部にコンクリート擁壁を設置するため、コンクリート打設し、型枠をばらした後に写真撮影の準備のため現場責任者と2人がコンクリート擁壁と地山の間に入ったときに、地山が幅8.3m、高さ4m、奥行1.2mに亘り崩壊し生き埋めとなった。	30199	5	1～9
2001	3	11 ～ 12	逆打工法による地下3階部分の根伐工事において、床付地盤の高さをレーザーレベルで測量していたときに、後方の地山(シルト層を石灰で地盤改良したもの)が崩壊し生き埋めになった。	30201	5	10～ 29
2001	1	12 ～ 13	踏切の警報機・遮断機の電気配線を通す積上式マンホールを埋設するため深さ1.5mの掘削底部で床均し作業を行っていたところ、掘削箇所设法面に埋設されていた遮断機のコンクリート製基礎の下部の土砂が崩れたため基礎が倒れ、地山と基礎との間に挟まれた。	30104	5	10～ 29
2001	3	11 ～ 12	7人の作業員で行っていた国道沿いに落石防護用のコンクリート擁壁を設置する作業が終了し、法面側で裏込めをするため除雪し、土砂の埋め戻しをしていたときに、積雪とともに土砂が高さ11.2m、幅22mにわたって崩壊し生き埋めになった。	30199	5	10～ 29
2001	3	11 ～ 12	7人の作業員で行っていた国道沿いに落石防護用のコンクリート擁壁を設置する作業が終了し、法面側で裏込めをするため除雪し、土砂の埋め戻しをしていたときに、積雪とともに土砂が高さ11.2m、幅22mにわたって崩壊し生き埋めになった。	30199	5	10～ 29
		10	工場の解体工事で、浄化槽の解体のため浄化槽の脇をドラグショベルで			

2001	3	～	掘削作業中オペレーターが掘削箇所の確認のため掘削床に下りたときに、浄化槽の側面が崩壊し生き埋めになった。	30209	5	10～ 29
2001	2	～	10 11 採石場において、高さ約76m、幅約15m、奥行き約3mの柱状の石が法面から剥離して法面の下で切り崩した石を掻き出す作業を行っていたドラッグショベルの上に崩れ落ちてドラッグショベルの運転席が大破した。	20201	5	30～ 49
2001	2	～	16 17 鉄筋コンクリート造アパートの浄化槽設置のため、幅5.2m、深さ2.7m、長さ10mにわたってドラッグショベルで掘削していたところ掘削壁面の土砂が崩壊し、掘削床で整地作業をしていた2名の作業員の足が埋まり、うち1名が土塊で上半身を直撃され内臓が破裂した。	30309	5	1～9
2001	2	～	9 10 下水道管を埋設するために掘削した縦穴内部において底部の整地作業を行っていたときに、縦穴側面の地山が崩壊して土石が直撃し、はずみで倒れたて縦穴内部にあった岩石に頭部を打ちつけた。	30110	5	1～9
2001	1	～	14 15 ダムに付属する公衆トイレ設置工事において、浄化槽を設置するために深さ3m、縦10m、横4.3mの縦坑を掘削し、土止めとして縦3m、横1.5m、厚さ2～3cmの鉄板を5枚設置したところ、その鉄板の内3枚が背後の地山の崩壊により倒れその下敷きになった。	30199	5	10～ 29
2001	1	～	14 15 ダムに付属する公衆トイレ設置工事において、浄化槽を設置するために深さ3m、縦10m、横4.3mの縦坑を掘削し、土止めとして縦3m、横1.5m、厚さ2～3cmの鉄板を5枚設置したところ、その鉄板の内3枚が背後の地山の崩壊により倒れその下敷きになった。	30199	5	10～ 29
2000	10	～	10 11 橋梁建設において、橋台の型枠建込みのため床掘り箇所付近で墨出し作業を行っていたときに、掘削法面(高さ約5m、勾配約90度)の一部が崩壊し、屈んで作業していた作業員1名が生き埋めになった。また、救出作業にあたった2名も2次崩壊により負傷した。	30105	5	10～ 29
2000	11	～	14 林道開設工事において、2日前に伐採した支障木をドラッグショベルで集めるため、ドラッグショベルのバケットが届く位置まで伐採した木を運搬し	30106	1	1～9

		15	ているときに、勾配約40度の地山から約18m下の地面に転落した。			
2000	7	14 ～ 15	土場にいた同僚者が伐倒作業に従事していた者のチェーンソーの音がしな いことに気づき、確認に行ったところ風倒木の上に仰向けに倒れてい た。	60201	1	1～9
2000	3	8 ～ 9	河川の護岸工事で全高8mほどの法面においてブロック積み(高さ3m)を 行っていたときに上方の法面が崩壊し、岩石が落ちてきて背中を直撃し た。	30107	5	50～ 99
2000	5	11 ～ 12	道路側壁に落石防止網を取付ける作業において、次の箇所へ移動するた めに垂らしてあった親綱にロリップをかけたところ、先端が緊結されて いなかったため高さ7mの位置から転落した。	30209	1	10～ 29
2000	4	10 ～ 11	山砂採取場の高さ約13mのベンチ上でドラグショベルで地山の掘削作業 を行っていたところ、小規模な崩落が発生し、しばらくして、地山が高 さ約50m、幅約50mに亘って崩壊したため、作業道を降りかけていたド ラグショベルがこれに巻込まれて作業道より転落し土砂の下敷になっ た。	20209	5	1～9
2000	1	13 ～ 14	高さ約30m、勾配約65度の法面に貼られたモルタルの剥離作業で、法肩 より親綱をとりロリップ式の安全帯を使用してピックハンマー、バール で引き剥がし、法面下部はブレーカでモルタル表面を穿孔し爪でモルタ ルを引き剥がす方法で作業を行っていたところ、地山が約500m ³ 崩壊し 生き埋めとなった。	30199	5	1～9
2000	1	13 ～ 14	高さ約30m、勾配約65度の法面に貼られたモルタルの剥離作業で、法肩 より親綱をとりロリップ式の安全帯を使用してピックハンマー、バール で引き剥がし、法面下部はブレーカでモルタル表面を穿孔し爪でモルタ ルを引き剥がす方法で作業を行っていたところ、地山が約500m ³ 崩壊し 生き埋めとなった。	30199	5	1～9
2000	8	16 ～ 17	管渠築造工事で、鉄管(直径約1.6m、深さ約7m)の中で下水道管を通す 準備作業していたところ、突然、下から噴き上げてきたヘドロ状の汚泥 にのみ込まれ生き埋めになった。	30106	5	1～9

2000	1	16 ～ 17	ケーブルクレーンの巻上索が垂れて法面の岩盤部分に当たるので斜面上に高さ約4mの架線受台(鋼管)を設置してバランスをくずして斜面(勾配45～50度)を57m転落した。	30108	1	30～ 49
2000	5	0 ～ 1	高さ14mの地山の法面に張られたロックネットの横方向にワイヤーを張り渡すため、高さ5mの位置で横方向2mごとに赤色でマーキングを行っていたところ、地山の上部斜面に掛けていた親綱が外れて、5m下のアスファルト道路に墜落した。	30106	1	1～9
2000	5	13 ～ 14	集材機の設置でラインの邪魔になる松を伐採する前にかかり木にならないよう横にあるナラの木を切り倒すため移動していて、急斜面(約40度)で足を滑らせて約30m転落した。	60201	1	30～ 49
2000	4	11 ～ 12	ホテル駐車場にある汚水タンクの異臭処理のため、ホテル裏の斜面の中腹(川床からの高さ約5m)に設けた排水パイプからの排水の出具合を調べに行って高さ約3mの岩の上から誤って川(水深約2m)に転落して溺死した。	140101	1	30～ 49
2000	2	13 ～ 14	道路災害復旧工事において、地山(岩盤)の切崩しのため法面で発破爆薬装填のため削岩機によりせん孔作業を行っていて掘削面から約3.4m下の町道に転落した。	30106	1	10～ 29
2000	1	11 ～ 12	下水管理設工事において、深さ約2.3mの穴に入って床掘を行っていたところ、穴の側面の土砂が崩落し、生き埋めとなった。	30199	5	10～ 29
2000	12	10 ～ 11	大学構内の草刈り作業を区域を分担して行っていて、作業を終えても同僚の姿がないので、搜索したところ、池の底で死亡しているのを発見した。	120109	10	300 ～ 499
2000	9	14 ～ 15	市道拡幅工事現場において、道路(約2.7m)からコンクリートミキサー車で約2.5m下の掘削底にコンクリートを打設中に、路肩が崩壊し、ミキサー車を車外で操作していた者がミキサー車とともに転落した。	10901	5	30～ 49
		11	下水道工事現場で長さ約4.5m、幅1.0m、深さ2.4mの明り掘削して			30～

2000	5	12	塩化ビニール製パイプ(長さ4. 15m)を布設し、砂で中詰をしたのち土留め支保工を取り外したところ地山の一部が崩壊して生埋めになった。	30110	5	49
2000	6	8 9	傾斜角40~42度の山林において集材作業中に、集材木(長さ約10mの桧を約3mに玉切りしたもの)とともに約9m下の作業道に転落した。	60201	1	1~9
2000	5	11 12	刈払い機で杉・桧以外の雑木の除伐作業を行っていて、斜面の作業位置(谷底から約6. 6m、斜度約45度)から谷間に墜落した。	60209	1	30~ 49
2000	7	15 16	山林で刈払い機を使用して除伐作業中、同僚が声をかけても返事がなかったため作業箇所まで行ったところ、出血して倒れているのを発見した。	60209	2	30~ 49
2000	3	11 12	下水管理設工事の終了後、漏水が認められたため再度土止め支保工などを設けず掘削しての原因調査を行っていたときに地山が崩壊し、生埋めになった。	30110	5	10~ 29
2000	12	13 14	下水道工事において、下水管の高さ調整のため道路を掘削し、パワーショベルで鉄板を掘削斜面に立てかけ、その後、坑内で下水管の上の土を取る手直し作業を行っていたときに鉄板とともに掘削面の地山が崩壊し下敷きになった。	30106	5	10~ 29
2000	11	11 12	林道の開設工事において、重機の作業用通路を造るためドラグショベル2台で掘削を行っていたところ、盛土が約2000?崩壊してドラグショベルで2台が埋り、作業をしていたオペレーター1名が生埋めとなった。	30106	5	10~ 29
2000	12	14 15	造成作業中の埋立地において、ブルドーザーを運転していたところ、埋立地盤とともに内海に滑り落ち、運転席に閉じ込められて溺死した。	30109	5	30~ 49
2000	10	13 14	橋脚基礎工事の障害となる石積みえん堤を撤去するため、地山を2. 5メートル掘削し水中ポンプで排水を行っていたが、そのポンプの点検を行っていたときに、法面が崩壊して生き埋めとなった。	30105	5	100 ~ 299

2000	7	16 ～ 17	宅地造成工事において、基礎コンクリートの型枠設置とコンクリート打設作業中に気分が悪くなり、モデルハウスの水道のところで休憩していたが、現場方向へ移動しているときに、養生シートの斜面の上方から約5m転落した。	30109	1	1～9
2000	3	13 ～ 14	公園の道路工事で、交通誘導を行っていた者が100m先にある休憩所に向かうまたは休憩所から警備場所に戻る途中に崖から谷に転落した。	170201	1	10～ 29
2000	2	11 ～ 12	災害防除工事において、急斜面にロックネットを張る前作業として急斜面の立木を伐採中に、約15m下の道路(道幅約2.6m)に墜落した。	30199	1	1～9
2000	12	10 ～ 11	碎石場でドラグショベルを使用し採石作業を行っていたときに、掘削面の地山が崩壊し、約1tの岩石が運転席を直撃した。	20201	5	1～9
2000	2	10 ～ 11	管渠築造工事現場において、管渠を埋設するためドラグショベルで幅1.2m、深さ約4mに掘削し、土止めを行うため底面に入って、長さ約4mの軽量鋼矢板の建て込み作業をしていたときに、掘削側面が崩壊し、生埋めになった。	30110	5	10～ 29
2000	11	8 ～ 9	道路改良工事で、路肩法面に防護用の金網を張るため金網材料を法面上部へ荷揚げしていたときに、法面上部から転落した。	30106	1	1～9
2000	7	13 ～ 14	埋設した仮設水路用強化プラスチック管(長さ5m)をドラグショベルで掘り起こして撤去する作業で、4本目の管を撤去して掘削床の排水用ポンプを移設しているときに土砂崩壊があり生き埋めとなった。	30105	5	10～ 29
2000	9	4 ～ 5	小規模治山工事において、長さ約60mの谷の下草刈をしたところ谷の最上部に直径70cm程の浮き石が発見されたので、下に監視人をおいて石を落としたりしたところ石が予想外の方向に跳ね道路上にいた監視人の頭を直撃した。	30199	4	10～ 29

2000	12	14 ～ 15	治山工事において、山止めのブロック積みに使用する単管パイプを運搬作業中に、擁壁の基礎部の床掘りされた犬走り部から足を滑らせ約42度の斜面を約50m滑落した。	30108	1	10～ 29
2000	12	10 ～ 11	トンネル工事現場において、切羽前で発破の装薬作業中に、鏡面から約3?の岩塊が抜け落ちて落下した岩塊に下半身及び右上腕以上が埋まった。	30102	5	30～ 49
2000	9	9 ～ 10	県道脇の集水枡の土砂除去作業中に、ロープをガードレールに結びつけそれを胴綱としてボックスカルバートの流末側から入っていき土砂とともに河原まで転落した。	30106	1	50～ 99
2000	1	13 ～ 14	トンネル工事で、切羽の掘削、支保工組立、モルタルの吹付け作業等を終了し、次の支保工組立の基礎の確認のために切羽に近づいて掘削盤の高さの確認を行っていたときに切羽右側の岩盤が突然崩落(推定：5. 6?)し、岩盤に巻込まれた。	30102	5	50～ 99
2000	3	9 ～ 10	型枠のばらし作業をえん堤足場上で行っているときに、斜面が崩落し足場とともに転落した。	30108	5	1～9
2000	7	9 ～ 10	トンネル上部の表層部分の地質調査に使用するモノレール設置工事において、山の急斜面で設置ルートの確認作業中に、トンネル上部の斜面(約45度)から河原まで高さ約36mを滑落した。	30309	1	30～ 49
2000	8	14 ～ 15	ドラグショベルで高さ50mある崖下の砂の掘削、採取作業を行っていたときに、高さ約20m、幅約30mにわたり山肌が崩壊し、ドラグショベルとともに生き埋めになった。	20209	5	1～9
2000	1	16 ～ 17	採石現場で土砂崩壊により転倒したドラグショベルを2台のドラグショベルで引き起こす作業中に、2度目の土砂崩壊(高さ約160m、幅約70m)が発生し、ドラグショベルにワイヤーを掛けていた者が巻き込まれた。	20201	5	10～ 29
		16	県道山側の法面(勾配約68度)に吹き付けたモルタルが劣下してきたので、法肩よりロリップで法面に降り法尻から動力ピックでモルタルを削			

2000	1	17	り落す作業を順次行い法尻より約40m付近で作業中に、3名が作業を行っていた上部のモルタルが滑落して巻き込まれ、1名が転落して死亡し、他の2名が負傷した。	30199	5	1～9
2000	11	10	NATM工法によりずい道の掘削作業で、切羽にアーチ型型枠材を建て込むため掘削面下端を手作業で整地しているときに、高さ2mの箇所から岩盤が落下し背中に当たった。	30102	4	10～29
2000	11	14	宅地造成工事に伴う下水管埋設工事で、ドラグショベルで幅2m、長さ10m、深さ5mの掘削を行い、溝底部で排水管の位置調整を行っていたときに片側の土砂が崩壊し、全身生理めとなった。	30110	5	10～29
2000	10	11～12	雨水排水管埋設工事において、マンホールの築造前に付近に埋設されている水道管の位置確認のため、深さ1.5mの掘削底面に降りて手掘りで地山壁面を掘削していたときに背面の地山が崩壊し、碎石塊(約200kg)に背後から直撃された。	30109	5	1～9
2000	3	18～19	町道の災害復旧工事において、崩壊した部分を幅約2m、深さ約2mに掘削したのちボックスカルバートを据えるための水系張りで掘削部分を移動していたときに壁の一部が崩落し腰部まで土砂に埋った。	30106	5	1～9
2000	3	16～17	下水道管布設工事において、ドラグショベルで深さ2.5mまで掘削して本下水道管・マンホールを布設して、埋め戻し(深さ1.5mまで)作業中、突然、後方の地山が崩壊し、膝下まで埋没し、そのショックで意識を失った。	30110	5	1～9
2000	1	10～11	ダム用の採石現場において、表土をドラグ・ショベルでダンプトラックに積込む作業を行っていたところ、上方約50mの高さから人頭大の岩石が崩落し、途中の法面でバウンドして数個に砕け、そのうちの1個(直径20cm)がドラグ・ショベルのフロントガラスを破って運転席に飛び込んできて左側頭部に激突した。	30101	4	30～49
2000	8	11	上下水道管布設工事において、深さ2.28m、幅1.1mの掘削溝に下水道管を布設し、鋼製矢板を引上げ碎石及び発生土で深さ1.3mまで埋戻した後、掘削溝に水道管を布設するため立入ったときに土砂(高さ1.3m、	30110	5	10～29

		12	長さ2.1m、幅0.6m)が崩壊して腰まで埋った。			
2000	6	9 ～ 10	林道新設工事において、コンクリート製擁壁を固定するためのアンカー組立作業を行っていたときに、斜面から落下してきた岩(重さ約3kg)が後頭部にあたった。	30106	4	10～ 29
2000	8	14 ～ 15	給水工事において、分水を行うため既設管の試掘作業を行ったが見つからないことから、幅1m、深さ3m、長さ4mに担って掘削し、矢板で土止めしていたところ、土砂崩壊をおこし、土止めの切ばりの取付け等の作業を行っていた者が土砂に押され矢板の間に挟まれた。8月19日に脳挫傷により死亡した。	30203	5	10～ 29
2000	2	15 ～ 16	広域基幹林道開設工事現場で、林道脇の法面(高さ11.65m、幅11m)が崩壊し、付近で側溝の地均し作業を行っていた者2名が生き埋めとなった。	30106	5	1～9
2000	2	15 ～ 16	広域基幹林道開設工事現場で、林道脇の法面(高さ11.65m、幅11m)が崩壊し、付近で側溝の地均し作業を行っていた者2名が生き埋めとなった。	30106	5	1～9
2000	12	8 ～ 9	トンネル切羽でバックホーとタイヤショベルで地盤改良中に切羽の地山が崩壊して湧水を多量に含んだ土砂が坑口側に約60m流出し、機械ごと押流されたが各オペレーターは自力で脱出したものの、切羽から約40m後方で路盤整形用ミニバックホーに乗って待機していた者がミニバックホーごと押流され、後方に止めていたトンネル掘削機械との間に生き埋めとなった。	30102	5	30～ 49
2000	10	22 ～ 23	鉱山の坑道内において掘削のための積込・穿孔・発破作業中、崩れた岩塊(重量約1.3t)の下敷になった。	20301	5	100 ～ 299
2000	4	10 ～ 11	市道の側溝(コンクリート製)の取替工事に6名で従事していて、旧側溝を取外し、同じ位置に新トラフを埋設するためスコップで床均しをしていたところ、突然50cm離れた石垣(高さ約7m角度約70度)が上部から崩れ	30106	5	10～ 29

			たため、3名が生き埋めとなり死亡2名重傷1名となった。			
2000	4	10 ～ 11	市道の側溝(コンクリート製)の取替工事に6名で従事していて、旧側溝を取外し、同じ位置に新トラフを埋設するためスコップで床均しをしていたところ、突然50cm離れた石垣(高さ約7m角度約70度)が上部から崩れたため、3名が生き埋めとなり死亡2名重傷1名となった。	30106	5	10～ 29
2000	1	14 ～ 15	国道の防災工事に係る岩盤(地山)掘削作業において、勾配73度の箇所掘削機のエアーホースの移動作業を行っていて、隣の親綱に移動しようとした被災者が80メートル下の地面に転落した。	30108	1	50～ 99
1999	12	11 ～ 12	ドラグショベルで土止支保工の鋼矢板を打込むため、掘削溝(深さ1.8m)の中に入り、鋼矢板を支えていたとき、後方より土砂(土量0.5立方メートル)が崩壊し、その土砂の塊が頭部を直撃した。	30110	5	1～9
1999	11	10 ～ 11	松くい虫の被害にあった松ノ木の伐倒処理作業で、海岸沿の斜面(40度以上)で伐倒した松ノ木をチェーンソーで処理(玉切り、枝打ち)していたときに約14メートル下の海岸に転落した。	60209	1	10～ 29
1999	12	10 ～ 11	上水道管理設工事現場において、上水道管等を埋設する溝(幅65cm、深さ約2m)をドラグ・ショベルで掘削し、その溝内に入れた碎石の均し作業を行うため、鍬を持って溝内に入り作業を行っていたときに、片側の掘削面(勾配約88度)の土砂が崩壊し生き埋めとなった。	30110	5	10～ 29
1999	6	17 ～ 18	事務室で業務打合わせ中、集中豪雨により施設西側の山が崩壊して事務室に土砂が流れ込み、生き埋めとなった。	130201	5	10～ 29
1999	6	17 ～ 18	客先で通信機器の調整作業中に、集中豪雨で裏山が突然崩れたため、事務所が土砂に押しつぶされ生き埋めとなった。	80201	5	10～ 29
1999	6	15 ～ 16	宅配便の配達業務中、豪雨による土砂崩れの土石流に直撃されて川に車ごと転落し、生き埋めとなった。	40301	5	30～ 49

1999	12	0 ～ 1	張芝作業の監視作業に従事していて昼に張芝作業が終わって2名の作業員が親綱を伝って下に降り後、作業面上部の切り株に取り付けていた親綱を外して担いで地山を移動中に足を踏み外し、約70度の斜面を転落した。	30108	1	10～ 29
1999	12	13 ～ 14	木材の伐採搬出で、木材数本を束にして集材機に荷掛けし集材機の運転手に無線で巻き上げの連絡をおこなったのち運転手が下方を見たときに、山の斜面を駆け下りているような姿を見たので無線連絡をしたが応答が無いので探していたところ、谷底でうつ伏せに倒れているのを発見した。	60201	1	1～9
1999	12	14 ～ 15	カルバートを敷設するためのドラグショベルで掘削を行っていたときに、掘削(深さ4m)直後の地山が崩壊し、掘削溝の中で測定用ポールを立てていた者が埋まった。	30109	5	10～ 29
1999	12	13 ～ 14	勾配約35度の斜面において風害木を伐採作業中に足を滑らせるかシダ等に足をとられて転倒し、そのときに保護帽が脱げて頭部を強打した。	60201	2	1～9
1999	12	10 ～ 11	砂防ダム建設予定現場で、立木の伐採作業を行っていたときに、約25メートル上方の斜面から岩石(直径約2m)1個が落下してきて、下の材木集積場で玉切りをしていた者がその下敷きになった。	60201	5	1～9
1999	12	8 ～ 9	法面のステップ(幅約2.5メートル)上に停止させていたドラグショベルを地上に降ろすための運転操作を行っていてドラグショベルと共に法面から約6メートル下の地面に転落した。	30199	1	10～ 29
1999	12	13 ～ 14	県道付設工事におけるトンネル坑口等の地質調査のための設備を運搬するケーブルクレーンの支柱に控えをとる作業で、約30度の傾斜地の杉の木に固定するとボルトをジェットレンチで締めているときに、レンチが外れたためバランスを崩して下の道路に転落した。	30302	1	1～9
1999	12	15 ～	道路を深さ4m、幅2mで掘削し畑地灌漑用の配水管の埋設を行なっていたときに、隣接した掘削箇所の上に敷かれた鉄板上を埋め戻し用土砂を積載したダンプカー(2t)が後進してきたため、鉄板を支えていた側壁が崩	30110	5	0

		16	れ、ダンプカーが掘削箇所へ転落し、鉄板の下付近で曲管部にコンクリートを巻く作業をしていた2名が崩れてきた土砂の生き埋めになった。			
1999	12	15 ～ 16	道路を深さ4m、幅2mで掘削し畑地灌漑用の配水管の埋設を行なっていたときに、隣接した掘削箇所の上に敷かれた鉄板上を埋め戻し用土砂を積載したダンプカー(2t)が後進してきたため、鉄板を支えていた側壁が崩れ、ダンプカーが掘削箇所へ転落し、鉄板の下付近で曲管部にコンクリートを巻く作業をしていた2名が崩れてきた土砂の生き埋めになった。	30110	5	0
1999	11	13 ～ 14	マンションの基礎杭を打つため、バックホーで約2.3m掘削したのち、床面にあった石の除去と地ならしをしているときに土砂が崩壊した。	30201	5	1～9
1999	9	7 ～ 8	前日までに掘削した土砂を搬出するため、法面の下で作業の準備をしていたところ、高さ30m、幅15mにわたり法面が崩壊し、2名がそれぞれ乗っていたドラッグショベル、11tダンプと共に土砂に押し流されて埋った。	20209	5	10～ 29
1999	9	7 ～ 8	前日までに掘削した土砂を搬出するため、法面の下で作業の準備をしていたところ、高さ30m、幅15mにわたり法面が崩壊し、2名がそれぞれ乗っていたドラッグショベル、11tダンプと共に土砂に押し流されて埋った。	20209	5	10～ 29
1999	11	14 ～ 15	下水道管敷設工事現場において、土止め支保工を打ち込むため深さ約2m、幅1mの掘削した溝の底で地面をならしていたところ、側壁約3立方メートルが崩壊して胸まで埋まった。	30199	5	10～ 29
1999	11	9 ～ 10	坑口より約290メートル入ったトンネル切羽において、切羽の岩盤を削孔して、発破用の火薬を装てんしていたところ、目の切羽の岩盤が高さ約5m、幅約4mに亘って崩壊し、1名が岩石に生埋めとなった。	30102	5	10～ 29
1999	11	10 ～ 11	下水管理設のための溝をドラッグショベルで掘削し、アルミ製矢板を両側に各9枚設置したところ、矢板が膨らんできたため一旦矢板を撤去し、ドラッグショベルで土砂を排出して溝底に入ったときに土砂が崩れて生	30110	5	10～ 29

			き埋めになった。			
1999	9	10 ～ 11	旧林道をコンクリート舗装する工事において、準備作業として刈払機及びチェーンソーにより下刈りした灌木及び雑草を林道路肩から谷へ投げ捨てる作業を行なっていて、路肩から約100メートル下に転落した。	30106	1	10～ 29
1999	11	16 ～ 17	砂利の採取場において、砂利層の一番底から地上まで、4段ステップを設けて4台のドラグ・ショベルで中継して砂利をダンプに積み込んでいるときに、法面が崩壊し一番底で作業中のドラグ・ショベルが崩壊した土砂に埋没し、運転者も一緒に土砂に埋没した。	20202	5	10～ 29
1999	11	10 ～ 11	林道開設工事現場の法面上方(勾配45度)でチェーンソーを使用して伐木の作業を行っていたときに約30m転落した。	30106	1	30～ 49
1999	11	11 ～ 12	道路の路盤コンクリートをドラグショベルで掘削し、写真撮影のため立ち上がった時に突然土砂が崩壊し、埋まった。	30106	5	1～9
1999	10	16 ～ 17	住宅新築工事現場において、浄化槽設置のため深さ2.3メートルの掘削作業を行っていたところ地山が崩壊し、内部でスコップ作業を行っていた者が埋った。	30110	5	1～9
1999	10	11 ～ 12	緊急地方道路整備工事現場において、深さ約1.8m、幅1.5m、長さ6mの掘削溝の中に入り土止めのための鉄板(3m×1.5m、重さ約800kg)の据え付け作業の補助をしていたところ、溝の側壁の一部が崩れ、鉄板を押し倒したため、この鉄板の下敷きになった。	30110	5	10～ 29
1999	9	14 ～ 15	道路法面に擁壁を築造するため、作業員2名がピックハンマーを用いて地山掘削を行っていたところ、はつっていた箇所の上部が崩落し、その岩石(風化花崗岩)とともに約2.8m下のコンクリート打設面に墜落した。	30199	5	1～9
1999	8	15 ～ 16	配電盤枠の製造工場(鉄骨平屋建)の南側裏山が高さ約20m、幅30m(崩壊土量約453?)にわたって崩れ、工場内にいた3名、屋外にいた1名が土砂に巻き込まれ、1名が死亡した。	11209	5	1～9

1999	9	14 ～ 15	国道山側の法面の補強工事において、法面上(高さ約40m)で型枠の組立作業中に法面上部から土石が崩壊し、生埋めとなった。	30199	5	10～ 29
1999	4	10 ～ 11	送電鉄塔の改築工事において、基礎コンクリートの鋼製型枠の脱型作業中に、高さ約5mの法面が崩壊し、土砂に埋まった。	30301	5	10～ 29
1999	9	7 ～ 8	ずい道建設工事現場の坑口から186.5m地点の切羽において、穿孔後の装薬作業開始直後に上方約2メートルの箇所から、推定重量2.5tの岩石が落下してきた。	30102	6	30～ 49
1999	9	16 ～ 17	水路復旧工事において、護岸の石積作業を行っていたところへ約11m上部の岩壁(推定勾配・約60度)から岩盤(泥岩、幅5m×高さ3m)が崩落し、頸部に岩(径・約0.6m)が直撃した。	30107	5	10～ 29
1999	9	8 ～ 9	農道の下方16.8メートルのところを手作業で残土の除去作業を行っていたところ、上方の農道路面上でドラグショベルにより残土の除去作業を行っていた残土に混じていた岩石が落下してきて頭部に当たった。	30199	4	1～9
1999	9	11 ～ 12	下水道管を敷設する工事において、深さ1.7m、幅0.84m、長さ7.4mの掘削溝の中でスコップで底面を均等にならす作業中に、掘削溝側面の土砂が崩壊し生埋めになった。	30110	5	1～9
1999	8	16 ～ 17	刈り払い機で草刈り作業中、作業箇所から2.7メートル下の通路に墜落し、さらに4.5メートル下に墜落した。	30199	1	1～9
1999	8	14 ～ 15	細骨材(砂)を製造するための花崗岩を採取する採石場において、ブレーカーの運転者が切羽の崩壊(200から300立方メートル)により滑り落ちた岩石(重量約40t)の直撃によってつぶされた運転室内で胸部等を挟まれた。	20201	5	30～ 49
1999	8	14 ～	上水道の送配水管を敷設するため、路面を1.8m掘削して3本目の管を床面に仮置きし、2人が溝の中に入って接合面を合わせてボルト止めをでき	30110	5	10～ 29

		15	る状態にまでなったときに、地山が崩壊し1人が生き埋めとなった。			
1999	6	9 ～ 10	自社用産業廃棄物処分場の造成工事で、防波堤の築堤を行うためグリ石・砂から成る不安定な地山(高さ約2m)を機体重量2, 5tのドラグ・ショベル上を移動中、頂上付近でバランスを崩して重機ごと地山の反対側へ転落し、重機の下敷となった。	30106	1	30～ 49
1999	8	15 ～ 16	国道沿いの山腹崩壊箇所の応急仮工事現場において法面頭の切り取り作業中、約30メートル下の崩壊した岩石のところへ転落した。	30199	1	30～ 49
1999	8	11 ～ 12	雪崩対策で鉄骨の角柱を埋め込む工事中、掘り出した土砂を運ぶ「もっこ」を斜面上部へ取りに行こうとしたとき、上から落ちてきた直径40～50cmの石にあたり、約13m、転落した。	30109	4	1～9
1999	7	11 ～ 12	ドラグショベルで塩ビ下水管理設のため幅2m、深さ2. 6m、延長14. 8mの溝を掘削して、その後シートパイル6枚を片側に設置し、もう一方に2枚設置し、腹起しの取付けを行おうとしていたところ、シートパイル6枚で土止めした側の法面が崩壊し、溝内の4人が生き埋めとなった。	30110	5	30～ 49
1999	7	11 ～ 12	ドラグショベルで塩ビ下水管理設のため幅2m、深さ2. 6m、延長14. 8mの溝を掘削して、その後シートパイル6枚を片側に設置し、もう一方に2枚設置し、腹起しの取付けを行おうとしていたところ、シートパイル6枚で土止めした側の法面が崩壊し、溝内の4人が生き埋めとなった。	30110	5	30～ 49
1999	7	14 ～ 15	下水管を埋設するために掘削した深さ約2メートル、幅約1. 7メートル、長さ約6, 5メートルの溝の底で、造成地と道路の境界に埋まっていたコンクリート壁に削岩機を使って穴を開ける作業中に、側壁の土砂が崩れて生き埋めになった。	30110	5	1～9
1999	7	14 ～ 15	道路工事現場において、破碎薬による岩石の除去作業のときに破碎箇所から約70メートル離れた国道上に退避していたところ、破碎によって飛来した重さ2. 6キログラムの岩石が頭部に激突した。	30199	4	50～ 99
		15	会社の敷地拡張でドラグショベルにより法面に石積みを行っていたとこ			10～

1999	4	16	ろ、法面が幅約20m、奥行き約5mにわたり崩壊したため、ドラグショベルと共に転落して車外に放り出され、崩壊した土砂に埋まった。	30108	5	29
1999	5	15 ～ 16	採石場の残壁下部で発破の準備作業を行っていたところ、約200m上より小石が落下してきて後頭部を直撃し負傷した。	20201	4	10～ 29
1999	6	14 ～ 15	河川災害復旧工事現場で使用したドラグショベルが勾配35度の資材運搬路を戻る途中で横転したので、オペレーターは機外に脱出して資材運搬路を登っているときに、斜面上の岩状の固まりが落下してきて、その下敷きになった。	30107	4	30～ 49
1999	7	13 ～ 14	砂防えん堤の型枠を組立てているときに、現場横の山が雨でゆるんでいて幅10.5m、高さ約30mにわたって崩壊し、溶接作業中の者が生き埋めになった。	30108	5	10～ 29
1999	6	14 ～ 15	地山崩壊により発生した高さ8m、幅20m、重さ800tの花崗岩を発破で小割する作業で、導火線に点火後、約40m離れたジープとトラックの陰に避難したが、爆破の際に周囲に飛散した岩石のうち2個が当たった。	20201	4	10～ 29
1999	4	9 ～ 10	ケーブルクレーン架設のため、アンカー埋設用の穴の床掘り作業中、側壁が崩壊して生埋めになった。	30108	5	10～ 29
1999	2	16 ～ 17	国道拡幅工事において、掘削した法面の小段を緑化する作業で、小段上で移動式クレーンで吊り上げられくる荷を誘導中に足を滑らせ、約19メートル下の国道に転落した。	30106	1	1～9
1999	5	13 ～ 14	林道の新設工事に伴う地山掘削後の法面の整形作業のため、地山の立木に親綱を結びつけたのち安全帯を親綱に取り付けようとしたときに、約15メートル下の地面に墜落した。	30106	1	30～ 49
1999	4	10 ～ 11	深さ3メートル、幅0.9メートル、延長約10メートルの下水道布設用に掘削された溝に落としたスコップを拾いに行き、梯子を上がる途中、土砂が突然約2メートルの幅に渡って崩壊し首まで埋まった。	30110	5	50～ 99

1999	3	0 ～ 1	事業場内の林において樹木の害鳥による被害状況の確認を行なっていたところ、誤って崖から海辺の岩場に墜落した。	140101	1	100 ～ 299
1999	5	9 ～ 10	採石現場において、バックホーにより小割した岩石をダンプに積み込んでいたところ、約40m上方から約3?の岩石が落下してきてバックホーの運転席を直撃した。	20201	4	10～ 29
1999	5	13 ～ 14	污水管布設のため法面を1. 2～1. 8メートル掘削し、掘削面の高さの調整作業を行っていたときに、法面が2度にわたり崩壊し生き埋めになった。	30110	5	10～ 29
1999	4	11 ～ 12	ロリップ式の安全帯を使用した状態で法枠にある鉄筋を手動式カッターで切断し、その後別の親綱のある場所へ横に移動中、高さ13. 16メートル下の道路に墜落した。	30106	1	10～ 29
1999	5	10 ～ 11	作業道路新設工事現場において、明かり掘削中の地山を点検するため掘削部上側に登ったときに転倒し、高さ約10m下の路面に転落した。	30106	1	10～ 29
1999	4	15 ～ 16	コンクリート製造プラント沈殿槽のところで、納品されたコンピューターの包装用ダンボール箱を焼却する作業に従事していて、沈殿槽に隣接した沈殿池に転落し、溺死していた。	10901	1	30～ 49
1999	4	16 ～ 17	深さ2メートル、幅95センチメートルの掘削された溝の中での土止め支保工を組み立て作業で、鋼矢板を腹起こしにはめ込む作業をしていたときに、鋼矢板が取り付けられていない箇所土砂が崩壊した。	30110	5	1～9
1999	3	13 ～ 14	下水道管布設工事現場で、管布設後一部を埋戻してドラグショベルで簡易土止め支保工を1メートル程引き上げ、次の場所へ水平移動させたときに、掘削底にスコップを置き忘れていたので取りに入ったところ土砂崩壊が生じ肩まで埋まった。	30110	5	1～9
1999	3	7 ～	トンネル工事で、坑口より170メートル地点のコソク作業中に前日にコンクリート吹きつけてロックボルトを施した箇所が高さ4m、長さ7m、奥	30102	5	10～ 29

		8	行き2mにわたり崩落した。			
1999	3	15 ～ 16	市道に沿って污水管を埋設するため、バックホーで掘削して底部をブ レーカーではつり仕上げ作業していたときに、掘削した法面の真砂及び 軟岩が崩壊し生埋めとなった。	30199	5	10～ 29
1999	3	9 ～ 10	林道新設工事現場において、切取りの終了した法面の上方に設置されて いた丁張を撤去する作業中、法面の上方から約8メートル下の林道上に転 落した。	30106	1	10～ 29
1999	3	8 ～ 9	屋外給排水工事現場において、施工した管路の高さに不具合が生じたの で、ヒューム管の布設し直しを行うため、3名で深さ1.2メートルの掘削 床に入って埋め戻した山砂をスコップで掘って除去していたときに、 根切りした垂直地山が崩壊し、1名が崩壊した土塊と根切りした垂直地山 に胸部を挟まれた。	30199	5	1～9
1999	3	9 ～ 10	ハンガーロープにぶら下がって法面成型作業中、ハンガーロープを寄せ るためにロリップを外した時に、約13メートル下へ転落した。	30106	1	10～ 29
1999	3	15 ～ 16	市道に沿って污水管を埋設するためバックホーで掘削し、その底部をブ レーカーではつり仕上げをしていたときに、掘削した法面の真砂及び軟 岩が崩壊し、底部で作業していた2名が生埋めとなった。	30199	5	10～ 29
1999	3	14 ～ 15	污水枝管(200mmφ×4m)を深さ約3.5mの土中に埋設するため、ドラグ ショベル及び手掘による掘削と、土止め支保工の組立、建て込みを交互 に行い、最終建て込みの直前に床ならしをしていたときに土圧により内 側に倒壊した支保工部材にはさまれた。	30110	5	1～9
1999	3	15 ～ 16	山の斜面で杉の枝打ち作業中に、約7mがけ下に転落した。	60201	1	1～9
1999	2	11 ～	塩化ビニール製下水道管の埋設工事において、ドラグショベルによる掘 削を終えたので木矢板を取りつけるために床ならしを行っているとき	30110	5	10～ 29

		12	に、法面が2.7メートルにわたり崩壊し埋まった。			
1999	2	16 ～ 17	導水管布設のために掘削した幅2.5m長さ3m深さ4mの中に立ち入り、簡易土止支保工設置のため床面作業を行っているときに、法面の片側が縦3.3m横2.5m深さ1.27mにわたり崩れ落ち、土砂の下敷きとなった。	30110	5	1～9
1999	1	16 ～ 17	排水路改修工事現場において護岸の地山が崩落し、約2.3メートル下の排水路内で間知石の積上げのため裏込コンクリート打ちの補助作業をしていた者に崩落した土砂が背後から激突した。	30107	5	1～9
1999	1	16 ～ 17	農業用導水管埋設工事現場で、溝の中で床ならし作業中、地山が長さ5メートルにわたって崩壊し生き埋めになった。	30107	5	10～ 29
1999	1	13 ～ 14	林道開設工事現場において、ウッドブロックを積む作業をしていたときに、法面が高さ約10メートルにわたり崩れ下敷きとなった。	30106	5	30～ 49
1999	1	10 ～ 11	農業用井戸の築造工事において、幅約3.5メートル、深さ約5メートルの掘削箇所に直径60センチ、長さ約2.4メートルのヒューム管を据え付けるため、2名が掘削箇所の床掘り作業中に、約4.5立方メートルの土砂が崩壊し2名が生き埋めになった。	30107	5	10～ 29
1999	1	14 ～ 15	道路新設工事に伴う立木の伐採作業で、チェーンソーで立木を伐採した直後に、伐採場所から2.8メートル下の農道に転落した。	30199	1	10～ 29

2021年、2020年の事例は新型コロナウイルス罹患を含む。2011年の事例は東日本大震災による労働災害を含まない。

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.html(職場のあんぜんサイト)

[小起因物別の死亡災害事例（1999-2021年）](#)に戻る。

(参考) [労働災害の分類の概要](#)